



Cisco Identity Services Engine リリース 2.4 CLI リファレンス ガイド

初版：2018年2月22日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

シスコおよびシスコのロゴは、米国およびその他の国におけるシスコおよびその関連会社の商標を示します。 To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2018 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

第 1 章

Cisco ISE コマンドライン インターフェイス 1

CLI を使用した Cisco ISE の管理および設定 2

ローカル システムを使用した Cisco ISE CLI へのアクセス 2

セキュア シェルによる Cisco ISE CLI へのアクセス 3

Cisco ISE CLI 管理者アカウント 4

Cisco ISE CLI ユーザ アカウント 5

Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの作成 5

Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの権限 6

Cisco ISE CLI でサポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム 7

第 2 章

EXEC モードの Cisco ISE CLI コマンド 9

EXEC モードで開始される Cisco ISE CLI セッション 11

application install 12

application configure 14

モニタリング データベースの設定 15

プロファイリング イベントのライブ統計情報 17

内部 CA ストアのエクスポートおよびインポート 18

欠落したインデックスの作成 20

ACS の移行をイネーブルにする 22

主要パフォーマンス測定指標の統計データ 23

カウンタ属性の収集 23

ワイヤレス設定 24

application remove 27

application reset-config 28

application reset-passwd	30
application start	31
application stop	35
アプリケーションのアップグレード	37
backup	40
Cisco ISE 設定データのバックアップ	41
Cisco ISE 動作データのバックアップ	42
backup-logs	43
clock	45
configure	47
copy	48
実行コンフィギュレーション	50
リモート ロケーションへの実行コンフィギュレーションのコピー	51
リモート ロケーションからの実行コンフィギュレーションのコピー	51
スタートアップ コンフィギュレーション	51
リモート ロケーションへのスタートアップ コンフィギュレーションのコピー	52
リモート ロケーションからのスタートアップ コンフィギュレーションのコピー	52
ログ ファイルのコピー	52
crypto	54
debug	57
削除	63
dir	64
exit	66
forceout	67
halt	68
ヘルプ	69
mkdir	70
nslookup	71
password	73
patch install	74
patch remove	76
ping	78
ping6	79

reload	81
reset-config	83
restore	84
バックアップからの Cisco ISE 設定データの復元	85
バックアップからの Cisco ISE 動作データの復元	87
バックアップからの Cisco ISE 設定データおよび Cisco ADE OS データの復元	88
rmdir	89
ssh	90
tech	92
telnet	95
terminal length	96
terminal session-timeout	97
terminal session-welcome	98
terminal terminal-type	99
traceroute	100
undebug	101
write	105

第 3 章**EXEC Show モードの Cisco ISE CLI コマンド 107**

show	109
show application	110
show backup	113
show banner	114
show cdp	115
show clock	116
show container	117
show cpu	121
show crypto	123
show disks	124
show icmp-status	126
show interface	128
show inventory	130
show ip	132
show ipv6 route	133

show logging	134
show logins	137
show memory	138
show ntp	139
show ports	140
show process	142
show repository	144
show restore	145
show running-config	146
show snmp engineid	148
show snmp user	149
show startup-config	150
show tech-support	151
show terminal	153
show timezone	154
show timezones	155
show udi	156
show uptime	157
show users	158
show version	159

第 4 章

コンフィギュレーション モードの Cisco ISE CLI コマンド	161
EXEC モードでのコンフィギュレーション モードへの切り替え	163
コンフィギュレーション モードでの Cisco ISE の設定	164
コンフィギュレーション サブモードでの Cisco ISE の設定	165
CLI コンフィギュレーション コマンドのデフォルト設定	166
backup interface	167
cdp holdtime	172
cdp run	173
cdp timer	174
clock timezone	175
Cisco ISE ノードの時間帯の復元	176
共通の時間帯	176

オーストラリアのタイムゾーン	177
アジアのタイムゾーン	178
conn-limit	179
do	180
終了	184
exit	185
hostname	186
icmp echo	188
interface	189
ipv6 address autoconfig	191
IPv6 自動設定の設定	191
プライベート拡張機能の確認	192
ipv6 address dhcp	193
ip address	194
ipv6 address	196
ipv6 enable	198
ip default-gateway	200
ip domain-name	201
ip host	203
ip name-server	206
ip route	208
ipv6 route	210
kron occurrence	212
kron policy-list	215
logging	217
max-ssh-sessions	218
ntp	219
ntp authenticate	220
ntp authentication-key	221
ntp server	223
NTP サーバ認証の信頼キーの設定	225
同期化のステータスの確認	226
ntp trusted-key	228

rate-limit	229
password-policy	230
リポジトリ	232
service	235
shutdown	237
snmp-server enable	238
snmp-server user	239
snmp-server host	242
snmp-server community	245
snmp-server contact	247
snmp-server location	248
snmp-server trap dskThresholdLimit	249
snmp engineid	250
username	251



Cisco ISE コマンドライン インターフェイス

この章では、Cisco ISE の設定および管理に使用できる Cisco Identity Services Engine (ISE) のコマンドライン インターフェイス (CLI) について説明します。

- [CLI を使用した Cisco ISE の管理および設定 \(2 ページ\)](#)
- [Cisco ISE CLI 管理者アカウント \(4 ページ\)](#)
- [Cisco ISE CLI ユーザアカウント \(5 ページ\)](#)
- [Cisco ISE CLI ユーザアカウントの権限 \(6 ページ\)](#)
- [Cisco ISE CLI でサポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム \(7 ページ\)](#)

CLI を使用した Cisco ISE の管理および設定

Cisco ISE コマンドライン インターフェイス (CLI) では、EXEC モードでシステム レベルの設定、コンフィギュレーション モードでその他の設定作業 (一部は Cisco ISE 管理者ポータルから実行できません) を実行し、トラブルシューティングのための操作ログを生成できます。

Cisco ISE 管理者ポータルまたは CLI を使用して、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアのパッチを適用し、トラブルシューティングのための操作ログを生成し、Cisco ISE アプリケーション データをバックアップできます。また、Cisco ISE CLI を使用して、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアを起動および停止し、アプリケーション データをバックアップから復元し、アプリケーション ソフトウェアをアップグレードし、トラブルシューティングのためにすべてのシステム ログとアプリケーション ログを表示し、Cisco ISE デバイスをリロードまたはシャットダウンできます。

コマンド シNTAX、使用ガイドライン、例については、「EXEC モードの Cisco ISE CLI コマンド」、「EXEC Show モードの Cisco ISE CLI コマンド」、「コンフィギュレーション モードの Cisco ISE CLI コマンド」を参照してください。

ローカル システムを使用した Cisco ISE CLI へのアクセス

有線ローカルエリア ネットワーク (LAN) に接続せずに Cisco ISE をローカルに設定する必要がある場合は、ヌルモデム ケーブルを使用して、システムを Cisco ISE デバイスのコンソールポートに接続できます。シリアルコンソールコネクタ (ポート) は、コンソールポートに端末を接続することで、Cisco ISE CLI にローカルアクセス可能にします。端末は、ターミナルエミュレーションソフトウェアまたは ASCII 端末を実行するシステムです。コンソールポート (EIA/TIA-232 非同期) で必要なのは、ヌルモデム ケーブルのみです。

- ターミナルエミュレーションソフトウェアを実行するシステムをコンソールポートに接続するには、DB-9 メス型 - DB-9 メス型のヌルモデム ケーブルを使用します。
- ASCII 端末をコンソールポートに接続するには、片方が DB-9 メスでもう一方が DB-25 オスのストレートケーブルと、DB-25 メスから DB-25 メスへの変換アダプタを使用します。

コンソールポートのデフォルトパラメータは、9600 ボー、8 データビット、パリティなし、1 ストップビット、およびハードウェアフロー制御なしです。



(注) 接続の相手側が Cisco Switch の場合、スイッチポートを duplex auto、speed auto (デフォルト) に設定します。

ステップ 1 Cisco ISE デバイスのコンソールポートとシステムの COM ポートをヌルモデムケーブルで接続します。

ステップ 2 Cisco ISE と通信するようにターミナルエミュレータを設定します。ターミナルエミュレータの接続では、9600 ボー、データビット 8、パリティなし、ストップビット 1 の設定を使用します。ハードウェアのフロー制御はなしです。

- ステップ3 ターミナル エミュレータが起動したら、Enter キーを押します。
- ステップ4 ユーザ名を入力し、Enter キーを押します。
- ステップ5 パスワードを入力し、Enter キーを押します。

セキュア シェルによる Cisco ISE CLI へのアクセス

Cisco ISE はセットアップ ユーティリティにより、CLI 管理者を受け入れるように事前設定されています。(Windows XP 以降のバージョンを使用してシステムを介して有線ワイドエリア ネットワーク (WAN) に接続している) SSH クライアントを使用してログインするには、管理者としてログインします。

始める前に

Cisco ISE CLI にアクセスするには、SSH v2 をサポートするセキュア シェル (SSH) クライアントを使用します。

-
- ステップ1 任意の SSH クライアントを使用して SSH セッションを開始します。
 - ステップ2 Enter キーまたはスペースバーを押して接続します。
 - ステップ3 ホスト名、ユーザ名、ポート番号、および認証方式を入力します。たとえば、リモート ホストの IP アドレスまたはホスト名「ise」を入力し、ユーザ名に「admin」、ポート番号に「22」を入力して、認証方式としてドロップダウン リストから [パスワード (Password)] を選択します。
 - ステップ4 [接続 (Connect)] をクリックするか、Enter キーを押します。
 - ステップ5 割り当てられた管理者パスワードを入力します。
 - ステップ6 (任意) プロファイル名を [プロファイルの追加 (Add Profile)] ウィンドウに入力し、[プロファイルに追加 (Add to Profile)] をクリックします。
 - ステップ7 [プロファイルの追加 (Add Profile)] ウィンドウで [閉じる (Close)] をクリックします。
-

Cisco ISE CLI 管理者アカウント

セットアップ中に、CLI 管理者アカウントを作成するユーザ名とパスワードを入力するように促されます。初期設定後に最初に再起動するときに、このアカウントを使用して Cisco ISE サーバにログインします。

CLI 管理者アカウントのクレデンシャルを常に保護し、このアカウントを使用して、Cisco ISE サーバへのアクセス権限を持つ追加管理者アカウントとユーザアカウントを明示的に作成し、管理する必要があります。

CLI 管理者はすべてのコマンドを使用して、Cisco ISE サーバで EXEC モードでのシステムレベルの設定（ルートへのアクセス）およびコンフィギュレーションモードでのその他の設定作業を実行することができます。管理者は、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアの開始と停止、Cisco ISE アプリケーション データのバックアップと復元、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアへのパッチとアップグレードの適用、すべてのシステム ログとアプリケーション ログの表示、Cisco ISE デバイスのリロードまたはシャットダウンを実行できます。

サブモードに関係なく、管理者アカウントのプロンプトの末尾にポンド記号 (#) が表示されます。

Cisco ISE CLI ユーザ アカウント

Cisco ISE 管理者ポータルからアカウントを作成するユーザは、Cisco ISE CLI に自動的にログインできません。CLI 管理者アカウントを使用して、CLI にアクセスできるユーザアカウントを明示的に作成する必要があります。

Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの作成

CLI ユーザ アカウントを作成するには、コンフィギュレーション モードで `usernameusername` コマンドを実行する必要があります。

ステップ 1 CLI 管理者アカウントを使用して Cisco ISE CLI にログインします。

ステップ 2 コンフィギュレーション モードを開始して、`usernameusername` コマンドを実行します。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# username duke password plain Plain@123 role user email duke@cisco.com
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

ステップ 3 CLI ユーザ アカウントを使用して Cisco ISE CLI にログインします。

Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの権限

ユーザアカウントには、次のコマンドを含む、限定された数のコマンドへのアクセス権があります。

- crypto
- exit
- nslookup
- ping
- ping6
- show cdp
- show clock
- show container
- show cpu
- show disks
- show icmp_status
- show interface
- show inventory
- show logins
- show memory
- show ntp
- show ports
- show process
- show terminal
- show timezone
- show udi
- show uptime
- show version
- ssh
- telnet
- terminal
- traceroute

Cisco ISE CLI でサポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム

Cisco ISE サーバに接続し、次を使用して CLI にアクセスできます。

- Microsoft Windows XP または Vista を実行するシステム。
- Red Hat や Fedora などの Linux を実行するシステム。
- Mac OS X 10.4 以降の Apple コンピュータ。
- VT100 または ANSI 互換の端末デバイス。VT100 タイプ デバイスおよび ANSI デバイスでは、左矢印、右矢印、上矢印、下矢印、Delete および Backspace キーを含むカーソル制御キーおよびカーソル移動キーを使用できます。Cisco ISE CLI は、カーソル制御キーの使用を検出し、自動的に最適なデバイス文字を使用します。

すべての端末の完全なリストについては、`/usr/share/terminfo/*/*` の `terminfo` データベース（端末機能データベース）を参照してください。コンパイルされた `terminfo` ファイルは次の場所にある可能性があります

す。`/usr/lib/terminfo/v/vt100`、`/usr/share/terminfo/v/vt100`、`/home/.../.terminfo/v/vt100`、または `/etc/terminfo/v/vt100`。 `terminfo` は、アプリケーションプログラムと通信する端末のすべてのモデルで利用可能な端末機能データベースです。これは、カーソルを新しい場所に移動する、画面の一部を消す、画面をスクロールする、モードを変更する、外観（色、明るさ、点滅、下線、反転表示など）を変更するといった操作を実行する場合に端末に送信するエスケープシーケンス（または制御文字）を提供します。

たとえば、ルートから `"locate vt100"` と入力すると、使用している端末に関する情報が表示されます。

Cisco ISE CLI には、次の有効な端末タイプからアクセスできます。

- 1178
- 2621
- 5051
- 6053
- 8510
- altos5
- amiga
- ansi
- apollo
- Apple_Terminal
- att5425

- ibm327x
- kaypro
- vt100



EXEC モードの Cisco ISE CLI コマンド

この章では、EXECモードで使用される Cisco ISE コマンドラインインターフェイス (CLI) コマンドについて説明します。この章では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。

- EXEC モードで開始される Cisco ISE CLI セッション (11 ページ)
- `application install` (12 ページ)
- `application configure` (14 ページ)
- `application remove` (27 ページ)
- `application reset-config` (28 ページ)
- `application reset-passwd` (30 ページ)
- `application start` (31 ページ)
- `application stop` (35 ページ)
- アプリケーションのアップグレード (37 ページ)
- `backup` (40 ページ)
- `backup-logs` (43 ページ)
- `clock` (45 ページ)
- `configure` (47 ページ)
- `copy` (48 ページ)
- `crypto` (54 ページ)
- `debug` (57 ページ)
- 削除 (63 ページ)
- `dir` (64 ページ)
- `exit` (66 ページ)
- `forceout` (67 ページ)
- `halt` (68 ページ)
- ヘルプ (69 ページ)
- `mkdir` (70 ページ)
- `nslookup` (71 ページ)
- `password` (73 ページ)
- `patch install` (74 ページ)

- patch remove (76 ページ)
- ping (78 ページ)
- ping6 (79 ページ)
- reload (81 ページ)
- reset-config (83 ページ)
- restore (84 ページ)
- rmdir (89 ページ)
- ssh (90 ページ)
- tech (92 ページ)
- telnet (95 ページ)
- terminal length (96 ページ)
- terminal session-timeout (97 ページ)
- terminal session-welcome (98 ページ)
- terminal terminal-type (99 ページ)
- traceroute (100 ページ)
- undebg (101 ページ)
- write (105 ページ)

EXEC モードで開始される Cisco ISE CLI セッション

Cisco ISE CLI でセッションを開始する場合、EXEC モードから始めます。EXEC モードでは、Cisco ISE サーバのすべてにアクセスしてシステム レベルの設定を実行し、操作ログを生成する権限があります。

application install



- (注) Cisco Identity Services Engine (ISE) アプリケーションは、すべてのサポート対象のアプライアンスおよび VMware に Cisco IOS イメージとともに事前にインストールされるため、通常の操作ではコマンドラインインターフェイス (CLI) から **application install** コマンドを実行できません。

Cisco ISE 以外の特定のアプリケーションをインストールするには、EXEC モードで **application install** コマンドを使用します。Cisco ISE 以外のアプリケーションを削除するには、**application remove** コマンドを使用します。

application [**install** {*application-bundle*} {*remote-repository-name*}]

構文の説明

install	特定のアプリケーションをインストールします。
<i>application-bundle</i>	アプリケーションバンドルのファイル名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>remote-repository-name</i>	リモートリポジトリ名。最大 255 文字の英数字をサポートします。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

指定したアプリケーションバンドルをアプライアンスにインストールします。アプリケーションバンドル ファイルは、指定したリポジトリから取得されます。

アプリケーションをインストールまたは削除している間に、**application install** コマンドや **application remove** コマンドを別に発行すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.
```

例

```
ise/admin# application install ise-appbundle-1.1.0.362.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application installation...
Extracting ISE database content...
Starting ISE database processes...
Restarting ISE database processes...
Creating ISE M&T session directory...
```

```
Performing ISE database priming...  
Application successfully installed  
ise/admin#
```

application configure

EXEC モードで **application configure** コマンドを使用して、次の操作を行います。

- M&T 操作の実行
- プロファイラに関連する統計情報の更新と表示
- Cisco ISE CA 証明書とキーをバックアップおよび復元するためのエクスポートとインポートのオプション
- 主要業績メトリックス (KPM) 統計情報の生成
- ISE カウンタ属性データの収集の有効化と無効化
- ワイヤレス設定の有効化と無効化
- ワイヤレス設定のリセット

application [configure {*application-name*}]

構文の説明	configure	特定のアプリケーションを設定します。
	<i>application-name</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、M&T データベースとインデックスの更新のほか、Cisco ISE ノードでの Cisco ISE CA 証明書とキーのエクスポートおよびインポート、主要業績メトリックス (KPM) 統計情報の生成、および ISE カウンタ属性データの収集の有効化と無効化を行うことができます。	

例

```

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users

```

```
[16]Get all Endpoints  
[17]Enable/Disable Wifi Setup  
[18]Reset Config Wifi Setup  
[19]Exit
```

モニタリング データベースの設定

はじめる前に

Cisco ISE サーバが導入に含まれていない場合だけモニタリング データベースをリセットする必要があります。



(注) ログ ファイルの不一致を回避するために、プライマリおよびセカンダリのモニタリング ノード データベースを同時にリセットすることを推奨します。

モニタリング データベース関連のタスクを設定するには、**application configure iseapplication configure ise** コマンドで次のオプションを使用します。

- モニタリングセッションデータベースをリセットするには、オプション1を使用します。



(注) リセット オプションを使用すると、再起動するまで、ISE サービスが一時的に利用できなくなります。

- モニタリングデータベースの使用不可能なインデックスを再構築するには、オプション2を使用します。
- モニタリング動作データをパージするには、オプション3を使用します。

パージオプションは、データのクリーンアップに使用します。また、保持する日数を尋ねるプロンプトを表示します。

- モニタリング データベースをリセットするには、オプション4を使用します。

リセットオプションを使用すると、データベースが工場出荷時の初期状態にリセットされるため、すべてのデータが完全に削除されます。ファイルがファイルシステム領域を過度に消費している場合、データベースをリセットすることができます。



(注) リセット オプションを使用すると、再起動するまで、ISE サービスが一時的に利用できなくなります。

- モニタリング データベースの統計情報を更新するには、オプション5を使用します。

例

モニタリングセッションデータベースをリセットするには、オプション 1 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Exit

1
You are about to reset the M&T session database. Following this operation, an application
  restart will be required.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
TimesTen Daemon stopped.
TimesTen Daemon startup OK.
Restarting application
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
iptables: No chain/target/match by that name.
iptables: No chain/target/match by that name.
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE AD Connector...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.

2
You are about to rebuild the M&T database unusable indexes.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
Starting to rebuild indexes
Completed rebuild indexes

3
```



```
Enter number of days to be retained in purging MnT Operational data [between 1 to 90
days]
For instance, Entering 20 will purge MnT Operational data older than 20 days
Enter 'exit' to return to the main menu without purging
Enter days to be retained: 20
You are about to purge M&T data older than 20 from your database.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
M&T Operational data older than 20 is getting removed from database
4
You are about to reset the M&T database. Following this operation, application will be
restarted.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
Stopping application
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
Starting Database only
Creating ISE M&T database tables...
Restarting application
ISE M&T Log Collector is not running
ISE M&T Log Processor is not running
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
ISE Application Server process is not running
ISE Certificate Authority Service is not running
ISE Profiler Database is not running
ISE M&T Session Database is not running
ISE AD Connector is not running
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE AD Connector...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.

5
You are about to Refresh Database statistics
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
Starting to terminate long running DB sessions
Completed terminating long running DB sessions

Gathering Config schema(CEPM) stats .....
Gathering Operational schema(MNT) stats ....
Completed Refresh Database statistics
```

プロファイリング イベントのライブ統計情報

プロファイリング イベントからプローブとタイプによってライブ統計情報を表示するには、**application configure** コマンドの Display Profiler Statistics オプションを使用します。このデータ

は、ポリシー サービス ノードだけで収集され、モニタリング ノードではこのデータは表示されません。

このコマンドでは、以前は取得用にルート パッチを必要としていた既存の JMX カウンタまたは外部 JConsole を活用するため、このデータをキャプチャするためにルート パッチを使用する必要はありません。

例

```
ise/admin# application configure ise

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Exit

6

Create an RMI connector client and connect it to the RMI connector server
Get an MBeanServerConnection
Retrieve MXBean

Press <Enter> to continue...
Timestamp,Elapsed,EndpointsProfiled,NetflowPacketsReceived,
EndpointsReProfiled,EndpointsDeleted...
Press Ctrl + c
```

内部 CA ストアのエクスポートおよびインポート

プライマリ管理ノード (PAN) から Cisco ISE CA 証明書およびキーをエクスポートして、PAN に障害が発生した場合にセカンダリ管理ノードにインポートできるようにするには、EXEC モードで `application configure application configure` コマンドを使用します。

セカンダリ管理ノードをプライマリ管理ノード (PAN) に昇格させる場合は、元の PAN からエクスポートした Cisco ISE CA 証明書およびキーをインポートする必要があります。

- Cisco ISE CA 証明書およびキーのコピーをエクスポートするには、`application configure ise application configure ise` コマンドのオプション 7 を使用します。

- Cisco ISE CA 証明書およびキーのコピーをインポートするには、`application configure iseapplication configure ise` コマンドのオプション 8 を使用します。

例 1

Cisco ISE CA 証明書およびキーのコピーをエクスポートするには、オプション 7 を使用します。

```
ise/admin# application configure iseSelection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Exit

7
Export Repository Name: sftp
Enter encryption-key for export: Test1234
Export on progress.....

The following 4 CA key pairs were exported to repository 'sftp' at
'ise_ca_key_pairs_of_ise60':
    Subject:CN=Certificate Services Root CA - ise60
    Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
    Serial#:0x66cfded7-2f384979-9110c0e1-50dbf656

    Subject:CN=Certificate Services Endpoint Subordinate CA - ise60
    Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
    Serial#:0x20ff700b-d5844ef8-a029bf7d-fad64289

    Subject:CN=Certificate Services Endpoint RA - ise60
    Issuer:CN=Certificate Services Endpoint Subordinate CA - ise60
    Serial#:0x483542bd-1f1642f4-ba71b338-8f606ee4

    Subject:CN=Certificate Services OSCP Responder Certificate - ise60
    Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
    Serial#:0xad3ccdf-b64842ad-93dd5826-0b27cbd2

ISE CA keys export completed successfully
```

例 2

Cisco ISE CA 証明書およびキーのコピーをインポートするには、オプション 8 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise
```

```

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Exit

8
Import Repository Name: sftp
Enter CA keys file name to import: ise_ca_key_pairs_of_ise60
Enter encryption-key: Test1234
Import on progress.....

```

```

The following 4 CA key pairs were imported:
  Subject:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Serial#:0x66cfded7-2f384979-9110c0e1-50dbf656

  Subject:CN=Certificate Services Endpoint Subordinate CA - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Serial#:0x20ff700b-d5844ef8-a029bf7d-fad64289

  Subject:CN=Certificate Services Endpoint RA - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Endpoint Subordinate CA - ise60
  Serial#:0x483542bd-1f1642f4-ba71b338-8f606ee4

  Subject:CN=Certificate Services OCSF Responder Certificate - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Serial#:0x0ad3ccdf-b64842ad-93dd5826-0b27cbd2

Stopping ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE Certificate Authority Service...
ISE CA keys import completed successfully

```

欠落したインデックスの作成

インデックスの欠落によるアップグレードの失敗を回避するには、EXEC モードで **application configureapplication configure** コマンドを使用します。

- 欠落した CEPM データベース インデックスを作成するには、オプション 9 を使用します。
- 欠落した モニタリング データベース インデックスを作成するには、オプション 10 を使用します。

例 1

CEPM データベース インデックスを作成するには、オプション 9 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Exit
```

```
9
You are about to create missing config indexes.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
Starting to create missing config indexes
Completed creating missing config indexes
```

例 2

欠落したモニタリングデータベース インデックスを作成するには、オプション 10 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Exit
```

```

10
You are about to create missing MnT indexes.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
Starting to create missing MnT indexes
Completed creating missing MnT indexes

```

ACS の移行をイネーブルにする

ACS コンフィギュレーションを ISE に移行するには、EXEC モードで **application configure application configure** コマンドを使用します。ISE への ACS 設定の移行をイネーブルまたはディセーブルにするには、オプション 11 を使用します。



(注) Cisco ISE リリース 1.31.4 は ACS リリース 5.5 および 5.6 からの移行をサポートしています。

例

ACS 設定をイネーブルにするには、オプション 11 を使用します。

```

ise/admin# application configure ise

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Exit

11
ACS Migration is currently disabled. Are you sure you want to enable it? [y/n]y
ACS Migration enabled. Please make sure to disable it after you complete migration
process.

```

主要パフォーマンス測定指標の統計データ

主要パフォーマンス測定指標 (KPM) を取得するには、`application configure application configure` コマンドの `Generate Daily KPM Stats` オプションまたは `Generate KPM Stats for last 8 Weeks` オプションを使用します。このデータはモニタリング ノードから収集されます。このコマンドでは、展開に接続しているエンドポイントの統計情報が出力されます。日単位または過去 8 週間の KPM 統計情報のレポート生成を選択できます。レポートはローカルディスクに保存されません。

KPM 統計情報を生成する前にモニタリング データベースをリセットした場合 (オプション 4)、オプション 12 と 13 を使用してもデータは返されません。

例

```
ise/admin# application configure ise

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Exit

12

You are about to generate Daily KPM (Key Performance Metrics).
% Warning Generating KPM stats may impact ISE performance during the generation of the
report. It is suggested to run this report during non-peak hours and when not
conflicting with other scheduled operations of ISE.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
Starting to generate Daily KPM stats
Copying files to /localdisk
Completed generating daily KPM stats. You can find details in following files located
under /localdisk
KPM_onboarding_results_27_MAR_2015.xls
KPM_trx_load_27_MAR_2015.xls
```

カウンタ属性の収集

ISE カウンタは、さまざまな属性のしきい値を収集します。これらの属性の値は異なる間隔 (5 分間隔と 5 分を超える間隔) で収集され、データは ISE カウンタ レポートに表示されます。

Cisco ISE はデフォルトでこれらの属性の値を収集します。 **application configure ise** コマンドを使用して、Cisco ISE CLI からこのデータ収集を無効にすることができます。カウンタ属性の収集を有効または無効にするには、オプション 14 を選択します。

例

カウンタ属性の収集を無効にするには、オプション 14 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise
Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Exit

14
Do you want to Enable(e) or Disable(d) counter attribute collection? [e/d]d
Completed disabling counter attributes. It will take at the most 30 minute to get effected.
```

ワイヤレス設定

ワイヤレス設定 (Wifi 設定) を有効または無効にするには、**application configure** コマンドで [Wifi 設定の有効/無効化 (Enable/Disable Wifi Setup)] オプション (オプション 17) を使用します。

Wifi 設定をリセットするには、**application configure** コマンドで [Wifi 設定のリセット (Reset Config Wifi Setup)] オプション (オプション 18) を使用します。このオプションは、ISE または WLC 設定をリセットしません。

例 1

Wifi 設定を無効にするには、オプション 17 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
```



```
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Enable/Disable Wifi Setup
[18]Reset Config Wifi Setup
[19]Exit

17
Wifi Setup is currently running. Are you sure you want to disable it? [y/n]y
Stopping container wifisetup-container
```

例 2

Wifi 設定が [無効 (Disabled)] 状態のときに、オプション 17 を使用して Wifi 設定を再度有効にできます。

```
ise/admin# application configure ise

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Enable/Disable Wifi Setup
[18]Reset Config Wifi Setup
[19]Exit

17
Wifi Setup is currently disabled. Are you sure you want to enable it? [y/n]y
Starting container wifisetup-container
```

例 3

Wifi 設定をリセットするには、オプション 18 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise

Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
```

```
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Generate Daily KPM Stats
[13]Generate KPM Stats for last 8 Weeks
[14]Enable/Disable Counter Attribute Collection
[15]View Admin Users
[16]Get all Endpoints
[17]Enable/Disable Wifi Setup
[18]Reset Config Wifi Setup
[19]Exit
```

```
18
Starting Reset Config Wifisetup
Stopping container wifisetup-container
wifisetup-container
Untagged: wifisetup:0.0.15
Deleted: dff12613ae85e7a4689f48c12b05b4d3cf597f3f2ca58e942de468e8ca75bf3c
Deleted: 95fb5a455840ef26a745846736536877939e4c666751116928346d5d3e758db3
Deleted: fc3f8168728e933f353adfed0a45114682fcab3d2add7549f1855a1f7cf56451
Deleted: 4cdca485c0858f964de66979c2df213832e64af92fb6ddf923c84f6668f041036
Deleted: f2a5326a7f662739242bf2581eedale41d407f92054b947187bfe01e8e0d0710
```

application remove



- (注) アップグレードに関する明示的な指示がない限り、Cisco ISE を削除するために、コマンドラインインターフェイス (CLI) から `application remove` コマンドを実行することはできません。

Cisco ISE 以外の特定のアプリケーションを削除するには、EXEC モードで `application remove` コマンドを使用します。

application [**remove** {*application-name*}]

Cisco ISE 以外の他のアプリケーションを削除したくない場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no application [**remove** {*application-name*}]

構文の説明

remove

アプリケーションを削除またはアンインストールします。

application-name

アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。

アプリケーションを削除またはアンインストールします。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションを削除またはアンインストールします。

例

```
ise/admin# application remove ise
Continue with application removal? [y/n] y
Application successfully uninstalled
ise/admin#
```

application reset-config

Cisco ISE アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時の初期状態にリセットするか、既存の工場出荷時の設定を保持するには、EXEC モードで **application reset-config** コマンドを使用します。自己署名証明書に加えて、サーバ証明書をリセットしたり、既存のサーバ証明書を保持したりすることもできます。

application [reset-config {application-name}]

構文の説明	reset-config	Cisco ISE アプリケーション コンフィギュレーションをリセットし、Cisco ISE データベースをクリアします。
	<i>application-name</i>	リセットするアプリケーション コンフィギュレーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	application reset-config application reset-config コマンドを使用すると、Cisco ISE アプライアンスと VMware を再イメージ化せずに、Cisco ISE コンフィギュレーションのリセットと、Cisco ISE データベースのクリアが可能です。リセットでは、新しい Cisco ISE データベース管理者およびユーザ パスワードを入力する必要があります。	



(注) application reset-config **application reset-config** コマンドにより、Cisco ISE コンフィギュレーションは工場出荷時の初期状態にリセットされますが、オペレーティングシステム (Cisco ADE-OS) コンフィギュレーションはそのままになります。Cisco ADE-OS コンフィギュレーションには、ネットワーク設定、CLI パスワードポリシー、およびバックアップ履歴などの項目が含まれています。

CLI から Cisco ISE アプリケーション設定をリセットすると、すでに結合している場合に Active Directory ドメインから ISE ノードを切断する脱退処理が実行されます。ただし、Cisco ISE ノードのアカウントは、Active Directory ドメインから削除されません。Active Directory のクレデンシャルで Cisco ISE 管理者ポータルからの脱退処理を実行することを推奨します。脱退処理は、Active Directory ドメインからノードのアカウントを削除します。

例

ユーザが No オプションを選択した場合、コマンドはサーバ証明書を削除し、自己署名証明書のみを再生成します。ユーザが Yes オプションを選択した場合、コマンドは所定の場所にエクスポートすることによって既存のサーバ証明書を保持します。サーバ証明書は、この場所からインポートされます。

```
Initialize your ISE configuration to factory defaults? (y/n): y
Leaving currently connected AD domains if any...
Please rejoin to AD domains from the administrative GUI
Retain existing ISE server certificates? (y/n): y
Reinitializing local ISE configuration to factory defaults...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
PassiveID WMI Service is disabled
PassiveID Syslog Service is disabled
PassiveID API Service is disabled
PassiveID Agent Service is disabled
PassiveID Endpoint Service is disabled
PassiveID SPAN Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE EST Service...
ISE Sxp Engine Service is disabled
Stopping TC-NAC Service ...
Stopping container irf-core-engine-runtime
Stopping container irf-rabbitmq-runtime
Stopping container irf-mongo-runtime
Stopping VA Service...
Stopping ISE VA Database...
Stopping container wifisetup-container
Stopping docker daemon...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Indexing Engine...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
Enter the ISE administrator username to create[admin]:
Enter the password for 'admin':
Re-enter the password for 'admin':
Extracting ISE database content...
Starting ISE database processes...
Creating ISE M&T session directory...
Creating ISE VA timesten database...
Performing ISE database priming...
Starting ISE Indexing Engine...
TimeoutStartUsec=20min
TimeoutStopUsec=20min
Cleaning up TC-NAC docker configuration...

Starting docker daemon ...
irf-core-engine-runtime is not running
irf-rabbitmq-runtime is not running
irf-mongo-runtime is not running
VA Service is not running
ISE VA Database is not running
Stopping docker daemon...
Calling wifi setup reset-config
application reset-config is success
```

application reset-passwd

間違ったパスワードが入力されたために管理者アカウントが無効になった後、Cisco ISE で指定されたユーザアカウント（通常は既存の管理者アカウント）の管理者ポータルログインパスワードをリセットするには、EXEC モードで `application reset-passwd` コマンドを使用します。

application [reset-passwd {application-name} {administrator-ID}]

構文の説明	reset-passwd	管理者アカウントパスワードをリセットします。
	<i>application-name</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
	administrator-ID	パスワードをリセットするディセーブルになった管理者アカウントの名前。

コマンド デフォルト デフォルトの動作または値はありません。Cisco ISE で管理者アカウントをディセーブルにする必要があります。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン Cisco ISE 管理者ポータルのパスワードをリセットするときは次の特殊文字を使用できます。

~	!	@	\$	&	*	-	_
+	=	\	"	,	;	<	>

管理者のユーザ ID に対して、指定された回数を超えて間違ったパスワードを入力すると、管理者ポータルによってシステムから「ロックアウト」されます。Cisco ISE は、その管理者ユーザ ID に関連付けられたパスワードがリセットされるまでその資格情報を一時停止します。管理 ISE ノードの CLI でのみ管理者パスワードをリセットできます。

UTF-8 管理者ユーザは、Cisco ISE 管理者ポータルからのみパスワードを変更できます。

例

```
ise/admin# application reset-passwd ise admin
Enter new password: *****
Confirm new password: *****
Password reset successfully.
ise/admin#
```

application start

特定のアプリケーションをイネーブルにするには、EXEC モードで **application start application start** コマンドを使用します。アプリケーションの起動をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

application [start {application-name | safe}

no application [start {application-name | safe}]

構文の説明	start	アプリケーションバンドルをイネーブルにします。
	<i>application-name</i>	イネーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
	<i>safe</i>	セーフモードでアプリケーションを起動します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン アプリケーションをイネーブルにします。

このコマンドを使用して、Cisco ISE を開始することはできません。開始しようとすると、Cisco ISE がすでに実行されていると表示されます。

application start safe コマンドを使用して、Cisco ISE をセーフモードで起動できます。このモードでは、管理者ポータルに対するアクセスコントロールを一時的にディセーブルにして、必要な変更を行った後に、アプリケーションを再起動できます。

この安全オプションは、管理者として誤って Cisco ISE 管理者ポータルのアクセスからすべてのユーザをロックアウトしたときのリカバリ方法になります。この状況は[管理(Administration)] > [管理者アクセス (Admin Access)] > [設定 (Settings)] > [アクセス (Access)] ページで間違った「IPアクセス」リストを設定した場合に発生します。また、「安全」オプションにより、証明書ベースの認証がバイパスされ、Cisco ISE 管理者ポータルにログインするためにデフォルトのユーザ名およびパスワード認証に戻ります。

例 1

```
ise/admin# application start ise
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE Indexing Engine...
Starting docker daemon ...
```

```

38a408c9a1c8
Starting container wifisetup-container
Starting ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE AD Connector...
Starting ISE EST Service...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.

```

```
ise/admin# show application status ise
```

ISE PROCESS NAME	STATE	PROCESS ID
Database Listener	running	17893
Database Server	running	62 PROCESSES
Application Server	running	21962
Profiler Database	running	19443
ISE Indexing Engine	running	23331
AD Connector	running	24955
M&T Session Database	running	19351
M&T Log Collector	running	22096
M&T Log Processor	running	22010
Certificate Authority Service	running	24759
EST Service	running	891
SXP Engine Service	disabled	
Docker Daemon	running	24000
TC-NAC Service	disabled	
Wifi Setup Helper Container	running	24465
Wifi Setup Helper Vault	running	41
Wifi Setup Helper MongoDB	running	14
Wifi Setup Helper Web Server	running	213
Wifi Setup Helper Auth Service	running	123
Wifi Setup Helper Main Service	running	159
Wifi Setup Helper WLC Service	running	197
pxGrid Infrastructure Service	disabled	
pxGrid Publisher Subscriber Service	disabled	
pxGrid Connection Manager	disabled	
pxGrid Controller	disabled	
PassiveID WMI Service	disabled	
PassiveID Syslog Service	disabled	
PassiveID API Service	disabled	
PassiveID Agent Service	disabled	
PassiveID Endpoint Service	disabled	
PassiveID SPAN Service	disabled	
DHCP Server (dhcpd)	disabled	
DNS Server (named)	disabled	

セーフモードでの Cisco ISE アプリケーションの起動

「安全」オプションの目的は、誤って発動された可能性があるアクセス制限をバイパスすることです。Cisco ISE サービスを開始するためにセーフモードを使用した場合、次の動作が見られます。

- 管理者が誤って自身をロックした場合は、正しい IP アクセス制限にログインできるように IP アクセス制限が一時的にディセーブルになります。
- FIPS がイネーブルのホストで、「安全」オプションがアプリケーションの起動時に渡された場合、FIPS 整合性チェックが一時的にディセーブルになります。通常、FIPS 整合性チェックが失敗した場合は、Cisco ISE サービスは開始されません。ユーザはアプリケー

ションの起動時に「安全」オプションを使用して FIPS 整合性チェックをバイパスできません。

- FIPS がイネーブルのホストで、「安全」オプションがアプリケーションの起動時に渡された場合、ハードウェア乱数ジェネレータ整合性チェックがディセーブルになります。
- 証明書ベースの認証を使用する場合、アプリケーション起動時の「安全」オプションで一時的にユーザ名とパスワードベースの認証が使用されます。



(注) これらの変更は一時的なものであり、Cisco ISE アプリケーションのインスタンスだけに関連します。Cisco ISE サービスを「安全」オプションなしで再起動すると、デフォルトの機能がすべて復元されます。

```
ise/admin# application stop ise
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
PassiveID WMI Service is disabled
PassiveID Syslog Service is disabled
PassiveID API Service is disabled
PassiveID Agent Service is disabled
PassiveID Endpoint Service is disabled
PassiveID SPAN Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE EST Service...
ISE Sxp Engine Service is disabled
Stopping TC-NAC Service ...
Error response from daemon: no such id: irf-core-engine-runtimeirf-core-engine-runtime
is not running
Error response from daemon: no such id: irf-rabbitmq-runtimeirf-rabbitmq-runtime is not
running
Error response from daemon: no such id: irf-mongo-runtimeirf-mongo-runtime is not running
VA Service is not running
ISE VA Database is not running
Stopping container wifisetup-container
Stopping docker daemon...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Indexing Engine...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
```

```
ise/admin# application start ise safe

Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE Indexing Engine...
Starting docker daemon ...
38a408c9alc8
Starting container wifisetup-container
Starting ISE Certificate Authority Service...
```

```
Starting ISE AD Connector...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
Starting ISE EST Service...
```

application stop

特定のアプリケーションをディセーブルにするには、EXEC モードで **application stop application stop** コマンドを使用します。アプリケーションの停止をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

application [stop {application-name}]

no application [stop {application-name}]

構文の説明

stop	アプリケーションをディセーブルにします。
<i>application-name</i>	ディセーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションをディセーブルにします。

展開内で自動フェールオーバー設定がイネーブルになっていると、次の警告メッセージが表示されます。

```
PAN Auto Failover feature is enabled, therefore
this operation will trigger a failover if ISE services are not
restarted within the fail-over window. Do you want to continue (y/n)?
```

続行する場合は「y」、中止する場合は「n」を入力します。

例

```
ise/admin# application stop ise
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Identity Mapping Service...
Stopping ISE pxGrid processes...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
ise//admin# show application status ise
```

ISE PROCESS NAME	STATE	PROCESS ID
Database Listener	not running	
Application Server	not running	
Profiler Database	not running	
AD Connector	not running	
M&T Session Database	not running	
M&T Log Collector	not running	

application stop

```
M&T Log Processor          not running
Certificate Authority Service disabled
pxGrid Infrastructure Service not running
pxGrid Publisher Subscriber Service not running
pxGrid Connection Manager  not running
pxGrid Controller          not running
Identity Mapping Service    not running
ise//admin#
```

アプリケーションのアップグレード

特定のアプリケーションバンドルをアップグレードするには、EXEC モードで `application upgrade application upgrade` コマンドを使用します。

`application [upgrade {application-bundle |remote-repository-name}`]

構文の説明	upgrade	リモートリポジトリ内の特定のアプリケーションバンドルをアップグレードします。
	<i>application-bundle</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
	<i>remote-repository-name</i>	リモートリポジトリ名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
	cleanup	以前に準備されたアップグレードバンドルを削除し、新しいアップグレードバンドルを準備します。
	prepare	アップグレードバンドルをダウンロードし、内容をローカルディスクに解凍して、アップグレードするアプリケーションを準備します。
	<i>application-bundle</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
	proceed	ローカルファイルを使用してアップグレードを続行します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン アプリケーションをアップグレードし、アプリケーション コンフィギュレーションデータを保存します。詳細については、『*Cisco Identity Services Engine Upgrade Guide*』を参照してください。

- 失敗した場合や別のバージョンを使用する場合に他のアップグレードバンドルを試すには、**cleanup** オプションを使用します。
- ローカルでアップグレードバンドルをダウンロードして抽出するには、**prepare** オプションを使用します。
- **prepare** オプションで抽出したアップグレードバンドルを使用して Cisco ISE をアップグレードするには、**proceed** オプションを使用します。直接 `application upgrade application`

upgrade コマンドを使用する代わりに、アップグレードバンドルを用意してからこのオプションを使用できます。

- アップグレードが成功した場合、このオプションはアップグレードバンドルを削除します。
- アップグレードが何らかの理由で失敗した場合、このオプションはアップグレードバンドルを保持します。

アプリケーションをアップグレードしている間に、**application upgrade** コマンドを別に発行すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.
```



注意 アップグレードの進行中は、**backupbackup** または **restorerestore** コマンドを発行しないでください。このアクションを実行すると、データベースが破損する可能性があります。



(注) この **application upgrade** コマンドを使用する前に、その新しいリリースで提供されているリリースノートのアップグレード手順を確認する必要があります。リリースノートには更新された重要な手順が含まれており、それに従う必要があります。

例 1

```
ise/admin# application upgrade prepare application upgrade prepare
ise-upgradebundle-2.3.0.x.x86_64.tar.gz upgrade
```

```
Getting bundle to local machine...
Unbundling Application Package...
Verifying Application Signature...
```

```
Application upgrade preparation successful
```

例 2

```
ise/admin# application upgrade proceed
Initiating Application Upgrade...
% Warning: Do not use Ctrl-C or close this terminal window until upgrade completes.
-Checking VM for minimum hardware requirements
STEP 1: Stopping ISE application...
STEP 2: Verifying files in bundle...
-Internal hash verification passed for bundle
STEP 3: Validating data before upgrade...
STEP 4: Taking backup of the configuration data...
STEP 5: Running ISE configuration database schema upgrade...
- Running db sanity to check and fix if any index corruption
- Auto Upgrading Schema for UPS Model
- Upgrading Schema completed for UPS Model
ISE database schema upgrade completed.
% Warning: Sanity test found some indexes missing in CEPM schema. Please recreate missing
indexes after upgrade using app configure ise cli
```

```
STEP 6: Running ISE configuration data upgrade...
- Data upgrade step 1/14, UPSUpgradeHandler(2.3.0.100)... Done in 53 seconds.
- Data upgrade step 2/14, UPSUpgradeHandler(2.3.0.110)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 3/14, NetworkAccessUpgrade(2.3.0.145)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 4/14, NodeGroupUpgradeService(2.3.0.155)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 5/14, IRFUpgradeService(2.3.0.155)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 6/14, UPSUpgradeHandler(2.3.0.158)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 7/14, NetworkAccessUpgrade(2.3.0.178)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 8/14, NetworkAccessUpgrade(2.3.0.182)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 9/14, CertMgmtUpgradeService(2.3.0.194)... Done in 3 seconds.
- Data upgrade step 10/14, UPSUpgradeHandler(2.3.0.201)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 11/14, NSFUpgradeService(2.3.0.233)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 12/14, ProfilerUpgradeService(2.3.0.233)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 13/14, GuestAccessUpgradeService(2.3.0.233)... Done in 7 seconds.
STEP 7: Running ISE configuration data upgrade for node specific data...
STEP 8: Running ISE M&T database upgrade...
ISE M&T Log Processor is not running
ISE database M&T schema upgrade completed.

Gathering Config schema(CEPM) stats ....
Gathering Operational schema(MNT) stats .....
% NOTICE: Upgrading ADEOS. Appliance will be rebooted after upgrade completes successfully.
warning: file /opt/xgrid/gc/pxgrid-controller-1.0.4.18-dist.tar.gz: remove failed: No
such file or directory

% This application Install or Upgrade requires reboot, rebooting now...

Broadcast message from root@IS137 (pts/3) (Fri Jun  2 12:22:49 2017):

Trying to stop processes gracefully. Reload might take approximately 3 mins

Broadcast message from root@IS137 (pts/3) (Fri Jun  2 12:22:49 2017):

Trying to stop processes gracefully. Reload might take approximately 3 mins

Broadcast message from root@IS137 (pts/3) (Fri Jun  2 12:23:10 2017):

The system is going down for reboot NOW

Broadcast message from root@IS137 (pts/3) (Fri Jun  2 12:23:10 2017):

The system is going down for reboot NOW
The upgrade is now complete.
```

backup

Cisco ISE と Cisco ADE OS データを含むバックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存するには、EXEC モードで **backupbackup** コマンドを使用します。



- (注) EXEC モードで **backupbackup** コマンドを使用する前に、実行コンフィギュレーションをネットワーク サーバなどの安全な場所にコピーするか、Cisco ISE サーバスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。このスタートアップコンフィギュレーションは、バックアップおよびシステム ログから Cisco ISE を復元またはトラブルシューティングする際に使用できます。

backup [*{backup-name}*] **repository** *{repository-name}* **ise-config encryption-key hash| plain** *{encryption-key name}*]

backup [*{backup-name}*] **repository** *{repository-name}* **ise-operational encryption-keyhash| plain** *{encryption-key name}*]

構文の説明

<i>backup-name</i>	バックアップ ファイルの名前。最大 100 文字の英数字をサポートします。
repository	バックアップ ファイルを保存するリポジトリを指定します。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。最大 80 文字の英数字をサポートします。
ise-config	Cisco ISE 設定データ (Cisco ISE ADE-OS を含む) をバックアップします。
ise-operational	Cisco ISE 動作データをバックアップします。
encryption-key	バックアップを保護するユーザ定義の暗号化キーを指定します。
hash	使用する暗号化された (ハッシュされた) 暗号キーを指定 (バックアップ保護のためのハッシュ暗号キー) します。40 文字までで指定します。
plain	使用する暗号化されていないプレーン テキスト暗号キーを指定 (バックアップ保護のためのプレーンテキスト暗号キー) します。15 文字までで指定します。
<i>encryption-key name</i>	バックアップ用のハッシュ/プレーン フォーマットの暗号キー。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン 暗号化された（ハッシュされた）パスワードまたは暗号化されていないプレーンテキストのパスワードと **ise-config** によって、リポジトリへの Cisco ISE と Cisco ADE OS データのバックアップを実行する際に、ユーザ定義の暗号キーを使用してバックアップを暗号化および復号化できるようにしました。Cisco ADE OS データを含まない Cisco ISE アプリケーションデータのみ
のバックアップを実行するには、**ise-operationalise-operational** コマンドを使用します。

プライマリまたはセカンダリ モニタリング ノードからのみ Cisco ISE 動作データをバックアップできます。



重要 バックアップと復元を行う場合、復元では、ターゲットシステムの信頼できる証明書のリストがソースシステムの証明書のリストで上書きされます。バックアップおよび復元機能に内部認証局（CA）の証明書に関連付けられた秘密キーが含まれないことに注意することが非常に重要です。

1つのシステムから別のシステムにバックアップと復元を行う場合は、エラーを回避するために、次のオプションのいずれかを選択する必要があります。

• オプション 1 :

CA 証明書をソース ISE ノードから CLI を使用してエクスポートし、ターゲットシステムに CLI を使用してインポートします。

長所 : ソースシステムからエンドポイントに発行されたすべての証明書が引き続き信頼されます。ターゲットシステムによって発行された新しい証明書は、同じキーによって署名されます。

短所 : 復元機能を使用する前にターゲットシステムによって発行された証明書は信頼されないため、再発行する必要があります。

• オプション 2 :

復元処理の後、内部 CA のすべての新しい証明書を生成します。

長所 : このオプションは推奨される適切な方法です。元のソースの証明書も元のターゲットの証明書も使用されません。元のソースシステムによって発行された証明書は引き続き信頼されます。

短所 : 復元機能を使用する前にターゲットシステムによって発行された証明書は信頼されないため、再発行する必要があります。

Cisco ISE 設定データのバックアップ

Cisco ISE 設定データをバックアップするには、次のコマンドを使用します。

```
backup mybackuprepository myrepositoryise-configencryption-keyplainlablab12
```

例

```

ise/admin# backup test repository disk ise-config encryption-key plain Test_1234
Internal CA Store is not included in this backup. It is recommended to export it using
"application configure ise" CLI command
Creating backup with timestamped filename: test-CFG-141006-1350.tar.gpg
backup in progress: Starting Backup...10% completed
backup in progress: Validating ISE Node Role...15% completed
backup in progress: Backing up ISE Configuration Data...20% completed
backup in progress: Backing up ISE Logs...45% completed
backup in progress: Completing ISE Backup Staging...50% completed
backup in progress: Backing up ADEOS configuration...55% completed
backup in progress: Moving Backup file to the repository...75% completed
backup in progress: Completing Backup...100% completed
ise/admin#

```

Cisco ISE 動作データのバックアップ

Cisco ISE 動作データをバックアップするには、次のコマンドを使用します。

```
backup mybackuprepository myrepositoryise-operationalencryption-key plainlablab12
```

例

```

ise/admin# backup mybackup repository myrepository ise-operational encryption-key plain
lablab12
backup in progress: Starting Backup...10% completed
Creating backup with timestamped filename: mybackup-OPS-130103-0019.tar.gpg
backup in progress: starting dbbackup using expdp.....20% completed
backup in progress: starting cars logic.....50% completed
backup in progress: Moving Backup file to the repository...75% completed
backup in progress: Completing Backup...100% completed
ise/admin#

```

backup-logs

システム ログをバックアップするには、EXEC モードで **backup-logs backup-logs** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



- (注) EXEC モードで **backup-logs backup-logs** コマンドを使用する前に、実行コンフィギュレーションをネットワーク サーバなどの安全な場所にコピーするか、Cisco ISE サーバスタートアップコンフィギュレーションとして保存する必要があります。このスタートアップコンフィギュレーションは、バックアップおよびシステム ログから Cisco ISE を復元またはトラブルシューティングする際に使用できます。

```
backup-logs backup-name repository repository-name {public-key | {encryption-key { hash | plain } encryption-key name}}
```

構文の説明

<i>backup-name</i>	バックアップする 1 つまたは複数のファイルの名前。最大 100 文字の英数字をサポートします。
repository	リポジトリ コマンド。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。最大 80 文字の英数字をサポートします。
public-key	暗号化のために Cisco ISE が Cisco PKI 公開キーを使用することを指定します。このオプションは、トラブルシューティング用に Cisco TAC にサポートバンドルを提供する場合に選択します。秘密キーを使用してサポートバンドルを復号化できるのは Cisco TAC だけです。オンプレミスで問題をローカルにトラブルシューティングする場合は、 encryption-key オプションを選択します。
encryption-key	暗号キーを指定して、バックアップ ログを保護します。
hash	バックアップ ログを保護するためのハッシュされた暗号キー。使用する暗号化された（ハッシュ化された）暗号化キーを指定します。40 文字までで指定します。

plain	バックアップ ログを保護するためのプレーンテキスト暗号キー。使用する暗号化されたプレーンテキストの暗号化キーを指定します。15 文字までで指定します。
<i>encryption-key name</i>	ハッシュまたはプレーン形式の暗号キー。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン 暗号化された（ハッシュされた）、または暗号化されていないプレーンテキストのパスワードを使用して、システム ログをバックアップします。

例 1

```
ise/admin# backup-logs Test repository disk encryption-key plain Test_1234
% Creating log backup with timestamped filename: Test-141006-1351.tar.gpg
% supportbundle in progress: Copying database config files...10% completed
% supportbundle in progress: Copying debug logs...20% completed
% supportbundle in progress: Copying local logs...30% completed
% supportbundle in progress: Copying monitor logs...40% completed
% supportbundle in progress: Copying policy xml...50% completed
% supportbundle in progress: Copying system logs...60% completed
% supportbundle in progress: Moving support bundle to the repository...75% completed
% supportbundle in progress: Completing support bundle generation.....100% completed
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# backup-logs test repository disk public-key
% Creating log backup with timestamped filename: new-pk-160520-0259.tar.gpg
% supportbundle in progress: Copying database config files...10% completed
% supportbundle in progress: Copying debug logs...20% completed
% supportbundle in progress: Copying local logs...30% completed
% supportbundle in progress: Copying monitor logs...40% completed
% supportbundle in progress: Copying policy xml...50% completed
% supportbundle in progress: Copying system logs...60% completed
% supportbundle in progress: Moving support bundle to the repository...75% completed
% supportbundle in progress: Completing support bundle generation.....100% completed
```

clock

システムクロックを設定するには、EXEC モードで **clock clock** コマンドを使用します。システムクロックの設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock [**set** {*month* | *day* | *hh:min:ss* | *yyyy*}]

構文の説明

set	システムクロックを設定します。
<i>month</i>	現在の月の名前。3文字までの英字をサポートします。たとえば、January は Jan と指定します。
<i>day</i>	現在の日（日付）。有効な値は0～31の範囲です。最大2桁の数字をサポートします。
<i>hh:mm:ss</i>	現在の時間（24時間形式）、分、および秒。
<i>yyyy</i>	現在の年（短縮表記しない）。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン



注意 Cisco ISE アプライアンスのシステム時刻を変更すると、Cisco ISE アプリケーションを使用できなくなります。

システムクロックを設定します。変更を有効にするには、クロックをリセット後に Cisco ISE サーバを再起動する必要があります。システム時間を変更した場合、導入の異なる Cisco ISE ノードタイプに影響を与えます。

影響から回復するには、次の手順を使用します。

スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノード



(注) インストール後のシステム時刻の変更は、スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノードでサポートされていません。

誤ってシステム時刻を変更した場合は、次の手順を実行します。

- 元のシステム時刻（変更される前の時刻）に戻します。
- そのノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。

- そのノードで時刻が変更される前の、正常な既知の最終バックアップから復元します。

セカンダリ ISE ノード



(注) セカンダリ ノードでシステム時刻を変更すると、導入に使用できなくなります。

プライマリ ノードとセカンダリ ノードのシステム時刻を同期するには、次の手順を実行します。

- セカンダリ ISE ノードを登録解除します。
- プライマリ ISE ノードと同期するようにシステム時刻を修正します。
- プライマリ ISE ノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- プライマリ ISE ノードにセカンダリ ISE ノードとして ISE ノードを再登録します。



(注) インストール時に設定された正しいシステム時刻に確実に設定されるように、セットアップウィザードによってネットワーク タイムプロトコル (NTP) サーバの指定が要求され、このサーバとの同期が試行されます。セットアップ中に設定された NTP サーバが常に到達可能であり、システム時刻が常に正確さを保つようにする必要があります。これは、特に、電源の障害や CMOS バッテリの障害によって BIOS 時刻が破損するというまれな状況において重要です。この場合、リブート時に Cisco ADE-OS のシステム時刻が破損するおそれがあります。セットアップ中に NTP サーバを設定しない場合は、『*Cisco Identity Services Engine Hardware Installation Guide*』に記載されているように、システムの BIOS 時刻が協定世界時 (UTC) 時間帯を基準にして設定されていることを確認する必要があります。

例

```
ise/admin# clock set August 30 18:07:20 2013
ise/admin# show clock
Fri Aug 30 18:07:26 UTC 2013
ise/admin#
```

configure

コンフィギュレーションモードを開始するには、EXEC モードで `configure` コマンドを使用します。

configure terminal

構文の説明

terminal

コンフィギュレーション コマンドを端末から実行します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

コンフィギュレーションモードを開始するには、このコマンドを使用します。このモードのコマンドは、入力するとすぐに、実行コンフィギュレーションファイルへの書き込みを行うことに注意してください。

コンフィギュレーションモードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** または **exit** と入力するか、**Ctrl+zCtrl-z** を押します。

コンフィギュレーションに加えた変更内容を表示するには、EXEC モードで `show running-config` コマンドを使用します。

このコマンドで **replace** オプションを使用すると、システムにリモート コンフィギュレーションがコピーされ、既存のコンフィギュレーションが上書きされます。

例

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)#
```

copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、EXEC モードで **copy copy** コマンドを使用します。



(注) **copy copy** コマンドは、ローカルディスクに対してだけサポートされており、リポジトリに対してはサポートされていません。

copy コマンドを使用すると、コア ファイルとヒープ ダンプを Cisco ISE からリモートリポジトリにコピーできます。詳細については、[ログ ファイルのコピー \(52 ページ\)](#) にある例 3 を参照してください。

構文の説明

running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルを表します。
startup-config	初期化 (スタートアップ) 時に使用されたコンフィギュレーション ファイルを表します。
プロトコル	コピーの宛先。protocol のキーワードオプションについては、表 2-1 を参照してください。
<i>hostname</i>	コピー先のホスト名。
場所	コピー先の場所。 現在の実行コンフィギュレーション ファイルを表します。
logs	システムのログ ファイル。
all	すべての Cisco ISE ログ ファイルをシステムから別の場所にコピーします。すべてのログは、 iselogs.tar.gz としてパッケージ化され、リモートホストの指定されたディレクトリに転送されます。
filename	単一の Cisco ISE ログ ファイルをコピーし、そのファイルをリモートホストにある指定されたディレクトリに、元の名前で転送できます。
<i>log_filename</i>	show logsshow logs コマンドによって表示される Cisco ISE ログ ファイルの名前 (255 文字以内)。

mgmt	Cisco ISE 管理デバッグ ログと Tomcat ログをシステムからコピーし、 mgmtlogs.tar.gz としてバンドルしたうえで、リモートホスト上の指定されたディレクトリに転送します。
runtime	Cisco ISE ランタイムデバッグ ログをシステムからコピーし、 runtimelogs.tar.gz としてバンドルしたうえで、リモートホスト上の指定されたディレクトリに転送します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン Cisco ISE の **copycopy** コマンドは、システムの実行コンフィギュレーションまたはスタートアップコンフィギュレーション、およびログ ファイルを別の場所にコピーします。

copycopy コマンドの基本的な機能として、1つの場所から別の場所に、ファイル（システムイメージやコンフィギュレーション ファイルなど）をコピーできます。指定したファイルのコピー元およびコピー先には、Cisco ISE ファイルシステムを使用して、サポートされているローカルまたはリモートファイルの場所を指定できます。使用されているファイルシステム（ローカルメモリソースまたはリモートシステム）によって、コマンドで使用される構文が決定されます。

必要なすべてのコピー元とコピー先の情報、および使用するユーザ名とパスワードを入力できます。または、**copycopy** コマンドを入力して、不足情報がある場合にサーバにプロンプトを表示させることもできます。

コピープロセスが完全に完了するまでには、数分間かかることがあります。これは、使用しているプロトコルやネットワークによって異なります。

ファイル転送には、ディレクトリに対する相対ファイル名を使用します。

考えられるエラーは標準ファイル転送プロトコル (FTP) またはセキュアコピー (SCP) のエラーメッセージです。

表 1: 表 2-1 *protocol* のプレフィクス キーワード (続き)

キーワード	コピー元またはコピー先
ftp	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文： ftp:[[/username[:password]@]location]/directory]/filename
scp	SCP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文： scp:[[/username[:password]@]location]/directory]/filename

キーワード	コピー元またはコピー先
sftp	SFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文： <code>sftp:[[/location]/directory]/filename</code>
tftp	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文： <code>tftp:[[/location]/directory]/filename</code>

実行コンフィギュレーション

Cisco ISE のアクティブなコンフィギュレーションでは、そのコンフィギュレーション自体が Cisco ISE RAM に保存されます。入力するすべてのコンフィギュレーション コマンドは、実行コンフィギュレーションに含まれます。Cisco ISE サーバをリブートすると、実行コンフィギュレーションが失われます。加えた変更を保存する場合は、実行コンフィギュレーションをネットワーク サーバなどの安全な場所にコピーするか、Cisco ISE サーバのスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。

実行コンフィギュレーションを保存しない場合、次回 Cisco ISE サーバをリブートしたときに、コンフィギュレーションに加えた変更がすべて失われます。現在のコンフィギュレーションが正しいことが確認できたら、`copy run start` コマンドを使用して、コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。



- (注) エイリアスを使用すると必要な入力文字数が減ります。たとえば、`copy run` と入力して Tab キーを押し、`start` と入力して Tab キーを押します (copy running-config startup-config `copy running-config startup-config` コマンドの省略形)。

スタートアップコンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションに置き換えるには、次のコマンドを使用します。

copy run start

実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーするには、次のコマンドを使用します。

copy running-config startup-config

実行コンフィギュレーションの上部にスタートアップコンフィギュレーションをマージするには、次のコマンドを使用します。

copy start run

例 1

```
ise/admin# copy run start
```

```
Generating configuration...
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# copy running-config startup-config
Generating configuration...
ise/admin#
```

リモート ロケーションへの実行コンフィギュレーションのコピー

実行コンフィギュレーションをリモートシステムにコピーするには、次のコマンドを使用します。

```
copy running-config [protocol://hostname/location]
```

リモート ロケーションからの実行コンフィギュレーションのコピー

実行コンフィギュレーションにリモートファイルをコピーしてマージするには、次のコマンドを使用します。

```
copy [protocol://hostname/location] running-config : 実行コンフィギュレーションにリモートファイルをコピーしてマージします。
```

スタートアップコンフィギュレーション

スタートアップコンフィギュレーションは直接編集できません。入力するすべてのコマンドは、実行コンフィギュレーションに保存され、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーすることができます。

つまり、Cisco ISE サーバをブートすると、スタートアップコンフィギュレーションが最初の実行コンフィギュレーションとなります。コンフィギュレーションを変更すると、実行コンフィギュレーションは更新されますがスタートアップコンフィギュレーションは変更されないため、2つのコンフィギュレーションに差異が生じます。変更を永続的なものにするには、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーする必要があります。

スタートアップコンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションにコピーするには、次のコマンドを使用します。

```
copy startup-config running-config
```

例 1

```
ise/admin# copy start run
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# copy startup-config running-config
ise/admin#
```

リモート ロケーションへのスタートアップコンフィギュレーションのコピー

スタートアップコンフィギュレーションをリモートシステムにコピーするには、次のコマンドを使用します。

```
copy startup-config [protocol://hostname/location]
```

リモート ロケーションからのスタートアップコンフィギュレーションのコピー

リモートファイルをスタートアップコンフィギュレーションにコピーしてもマージしない場合は、次のコマンドを使用します。

copy [protocol://hostname/location] **startup-config** : リモートファイルをスタートアップコンフィギュレーションにコピーしますが、マージしません。

ログファイルのコピー

Cisco ISE システムから別の場所にログファイルをコピーするには、次の **copycopy** コマンドを使用します。

```
copy logs [protocol://hostname/location]
```

例 1

ログファイルをローカルディスクにコピーするには、次のコマンドを使用します。

```
ise/admin# copy logs disk:/
Collecting logs...
ise/admin#
```

例 2

ログファイルを別の場所にコピーするには、次のコマンドを使用します。

```
ise/admin# copy disk://mybackup-100805-1910.tar.gz ftp://myftpserver/mydir
Username:
Password:
ise/admin#
```

例 3

Cisco ISE では、時間単位でコアファイルとヒープダンプが `/var/tmp` ディレクトリから `disk:/corefiles` ディレクトリに移動します。copy コマンドを使用して、これらのログをローカルディスクからリモートリポジトリにコピーできます。コアファイルとヒープダンプには、クラッシュの原因の特定に役立つ重要な情報が含まれています。これらのログは、アプリケーション

ションがクラッシュすると作成されます。dir コマンドを使用して、ローカル ディスクでコア ファイルを表示することができます。

```
ise/admin# copy disk:/corefiles ftp://192.0.2.2/  
Username: ftp  
Password:  
ise36/admin#  
ise36/admin# dir
```

Directory of disk:/

```
 70 May 20 2016 00:57:28 1  
4096 May 20 2016 06:34:49 corefiles/  
  0 May 20 2016 00:57:28 err.out  
4096 May 20 2016 00:57:28 lost+found/
```

```
Usage for disk: filesystem  
51474489344 bytes total used  
123938643968 bytes free  
184807632896 bytes available
```

crypto

新しい公開キーペアを生成して現在の公開キーをリポジトリにエクスポートし、公開キーを許可キーリストにインポートするには、EXEC モードで **cryptocrypto** コマンドを使用します。公開キー情報を確認し、指定したキーを削除することもできます。

crypto key [**delete** {*hash* | *authorized_keys* | *rsa*}]

crypto key [**export** {*filename* | *repository*}]

crypto key [**generate** {*rsa*}]

crypto key [**import** {*filename* | *repository*}]

crypto ntp_import_autokey *ntpkey*

構文の説明

key	暗号キー操作を実行できます。
delete	公開キー/秘密キー ペアを削除します。
<i>ハッシュ</i>	ハッシュ値。80 文字までで指定します。
<i>authorized_keys</i>	許可キーを削除します。
<i>rsa</i>	RSA キー ペアを削除します。
export	リポジトリに公開キー/秘密キーペアをエクスポートします。
<i>filename</i>	公開キーをエクスポートするファイル名。80 文字までで指定します。
リポジトリ	公開キーをエクスポートするリポジトリ。
generate	公開/秘密キー ペアを生成します。
<i>rsa</i>	RSA キー ペアを生成します。
import	公開キー/秘密キーペアをインポートします。
<i>filename</i>	公開キーをインポートするファイル名。80 文字までで指定します。
リポジトリ	公開キーをインポートするリポジトリ。
host_key	ホスト キー操作を実行できます。
add	信頼できるホストのキーを追加します。
host	ホスト名を指定します。
delete	信頼できるホストのキーを削除します。

ntp_import_autokey	NTP サーバから生成された公開キーをインポートします。
<i>ntpkey</i>	NTP サーバから生成された公開キー。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン Cisco ADE OS では、管理者およびユーザの ID への SSH アクセスのためにパスワードなしの公開キー認証をサポートします。

現在のユーザ用に 2048 ビット長の新しい公開キー/秘密キー ペアを生成するには、**crypto key generate rsacrypto key generate rsa** コマンドを使用します。キー属性は固定で、RSA キータイプをサポートしています。キーペアがすでにある場合は、パスフレーズを使用して続行する前に上書きを許可するようにメッセージが表示されます。パスフレーズを入力すると、公開/秘密キーにアクセスするたびにパスフレーズを入力するように促されます。パスフレーズが空の場合は、それ以降、パスフレーズを入力するよう促されません。

crypto ntp_import_autokey コマンドを使用して、NTP サーバから生成された公開キーをインポートします。

例 1

```
ise/admin# crypto key generate rsa
Enter passphrase (empty for no passphrase):
Enter same passphrase again:
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa ad:14:85:70:fa:c3:c1:e6:a9:ff:b1:b0:21:a5:28:94 admin@ise
ise/admin# crypto key generate rsa
Private key for user admin already exists. Overwrite? y/n [n]: y
Enter passphrase (empty for no passphrase):
Enter same passphrase again:
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa 41:ab:78:26:48:d3:f1:6f:45:0d:99:d7:0f:50:9f:72 admin@ise
ise/admin# crypto key export mykey_rsa repository myrepository
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa f8:7f:8a:79:44:b8:5d:5f:af:e1:63:b2:be:7a:fd:d4 admin@ise
ise/admin# crypto key delete f8:7f:8a:79:44:b8:5d:5f:af:e1:63:b2:be:7a:fd:d4
ise/admin#
ise/admin# crypto key delete rsa
ise/admin# show crypto key
ise/admin#
ise/admin# show crypto authorized_keys
Authorized keys for admin
ise/admin# crypto key delete authorized_keys
ise/admin# show crypto authorized_keys
ise/admin#
ise/admin# crypto key import mykey_rsa repository myrepository
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa f8:7f:8a:79:44:b8:5d:5f:af:e1:63:b2:be:7a:fd:d4 admin@ise
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# crypto host_key add host ise
host key fingerprint added
# Host ise found: line 1 type RSA
2048 1d:72:73:6e:ad:f7:2d:11:ac:23:e7:8c:81:32:c5:ea ise (RSA)
ise/admin#
ise/admin# crypto host_key delete host ise
host key fingerprint for ise removed
ise/admin#
```

例 3

```
ise/admin# crypto ntp_import_autokey ntpkey repository nfs
ise/admin#
```


debug

実行したコマンドのエラーまたはイベントを表示するには、EXEC モードで **ddebug** コマンドを使用します。

debug allapplicationbackup-restorecdpconfigcopyicmpllocksloggingnmpssystemtransferuserutils

構文の説明

all	すべてのデバッグをイネーブルにします。
application	<p>アプリケーション関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • all : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。 • install : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。 • operation : アプリケーション操作のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。 • uninstall : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。

backup-restore

バックアップと復元関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。

- **all** : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **backup** : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **backup-logs** : バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **history** : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **restore** : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。

cdp

Cisco Discovery Protocol 設定関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。

- **all** : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **config** : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **infra** : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。

config	Cisco ISE 設定関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。 <ul data-bbox="1016 327 1520 1650" style="list-style-type: none">• all : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• backup : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• clock : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• infra : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• kron : コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• network : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• repository : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• service : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
copy	copy コマンドのデバッグをイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。

icmp	<p>インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) エコー応答の設定に関連するエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <p>all : ICMP エコー応答のコンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>
locks	<p>リソース ロック関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • all : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。 • file : ファイルロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
logging	<p>ロギングコンフィギュレーション関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <p>all : すべてのロギング コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>
snmp	<p>SNMP 設定関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <p>all : すべての SNMP コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>

system	<p>Cisco ISE システム関連のエラーおよびイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none">• all : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• id : システム ID のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• info : システム情報のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• init : システムの初期化のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
transfer	<p>ファイル転送のデバッグをイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>
user	<p>ユーザ管理のデバッグをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none">• all : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。• password-policy : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
utils	<p>ユーティリティ設定関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <p>all : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン セットアップやコンフィギュレーションのエラーなど、Cisco ISE サーバ内のさまざまなエラーまたはイベントを表示するには、`debugdebug` コマンドを使用します。**例**

```
ise/admin# debug all
ise/admin# mkdir disk:/1
ise/admin# 6 [15347]: utils: vsh_root_stubs.c[2742] [admin]: mkdir operation success
ise/admin# rmdir disk:/1
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2601] [admin]: Invoked Remove Directory disk:/1 command
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2663] [admin]: Remove Directory operation success
ise/admin#
ise/admin# undebug all
ise/admin#
```

削除

Cisco ISE サーバからファイルを削除するには、EXEC モードで **delete** コマンドを使用します。Cisco ISE サーバからのファイルの削除を取り消すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

delete [*filename disk:/path*]

構文の説明	<i>filename</i>	[ファイル名 (Filename)] : 最大 80 文字の英数字をサポートします。
	<i>disk:/path</i>	リポジトリ内のファイルの場所。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	コンフィギュレーションファイルまたはイメージを削除しようとする、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。また、最新の有効なシステムイメージを削除しようとした場合も、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。	

例

```
ise/admin# delete disk:/hs_err_pid19962.log
ise/admin#
```

dir

Cisco ISE サーバ上のファイルを一覧表示するには、EXEC モードで **dir** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dir

dir *disk:/logs*

dir recursive

構文の説明

directory-name

ディレクトリ名。最大 80 文字の英数字をサポートします。ディレクトリ名の前には **disk:/** を指定する必要があります。

recursive

(任意)。ローカルファイルシステムのディレクトリとファイルを一覧表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例 1

```
ise/admin# dir
Directory of disk:/
 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
 16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/
 2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/
Usage for disk: filesystem
           8076189696 bytes total used
           6371618816 bytes free
           15234142208 bytes available

ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# dir disk:/logs
0 Aug 05 2010 11:53:52 usermgmt.log
Usage for disk: filesystem
           8076189696 bytes total used
           6371618816 bytes free
           15234142208 bytes available

ise/admin#
```


例 3

```
ise/admin# dir recursive
Directory of disk:/
 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
 16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/
2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/
Directory of disk:/logs
Directory of disk:/temp
Directory of disk:/activemq-data
Directory of disk:/activemq-data/localhost
Directory of disk:/activemq-data/localhost/journal
Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store
Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/data
Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/state
Directory of disk:/activemq-data/localhost/tmp_storage
Directory of disk:/target
Directory of disk:/target/logs
Directory of disk:/lost+found
Usage for disk: filesystem
           8076189696 bytes total used
           6371618816 bytes free
           15234142208 bytes available

ise/admin#
```

exit

Cisco ISE サーバからのログアウトによってアクティブなターミナルセッションを終了するか、コンフィギュレーションモードから 1 つ上のモード レベルに移行するには、EXEC モードで **exit** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

exit

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

例

```
ise/admin# config t
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

forceout

ユーザを Cisco ISE サーバからログアウトさせることで、アクティブなターミナルセッションを強制的に終了させるには、EXEC モードで **forceoutforceout** コマンドを使用します。

forceout ユーザ名

構文の説明	<i>username</i>	ユーザ名。最大31文字の英数字をサポートします。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
使用上のガイドライン	ユーザのアクティブなセッションを強制的に終了させるには、EXEC モードで forceoutforceout コマンドを使用します。	

例

```
ise/admin# forceout user1  
ise/admin#
```

halt

システムをシャットダウンしてシステムの電源を切るには、EXEC モードで **halthalt** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

halt

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **halthalt** コマンドを実行する前に、Cisco ISE が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作を実行中でないことを確認します。Cisco ISE がこれらの操作を行っている間に **halthalt** コマンドを実行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with halt?  
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with halt?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、停止操作を続行するには **Yes** と入力し、停止をキャンセルするには **No** と入力します。

halthalt コマンドの使用時に他のプロセスが実行されていない場合、または表示される警告メッセージに応じて **Yes** と入力した場合は、次の質問に回答する必要があります。

```
Do you want to save the current configuration?
```

Yes を入力して既存の Cisco ISE コンフィギュレーションを保存すると、次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

例

```
ise/admin# halt  
ise/admin#
```

ヘルプ

Cisco ISE サーバの対話型のヘルプ システムを表示するには、EXEC モードで **help** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

help

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC およびすべてのコンフィギュレーション (config)。

使用上のガイドライン **help** コマンドを実行すると、状況依存ヘルプ システムの簡単な説明が表示されます。

- 特定のコマンド モードで使用可能なすべてのコマンドを一覧表示するには、システム プロンプトで疑問符 (?) を入力します。
- 特定の文字列で始まるコマンドのリストを取得するには、省略形のコマンドエントリと直後に ? を入力します。このヘルプの形式は、入力された省略形で始まるキーワードまたは引数だけ一覧表示するので、ワード ヘルプと呼ばれます。
- コマンドに関連付けられたキーワードおよび引数の一覧を表示するには、キーワードまたは引数の代わりに ? をコマンドラインに入力します。このヘルプの形式は、入力したコマンド、キーワード、および引数に基づいて適用されるキーワードまたは引数を一覧表示するので、コマンド構文ヘルプと呼ばれます。

例

```
ise/admin# help
Help may be requested at any point in a command by entering
a question mark '?'. If nothing matches, the help list will
be empty and you must backup until entering a '?' shows the
available options.
Two styles of help are provided:
1. Full help is available when you are ready to enter a
   command argument (e.g. 'show?') and describes each possible
   argument.
2. Partial help is provided when an abbreviated argument is entered
   and you want to know what arguments match the input
   (e.g. 'show pr?'.)
ise/admin#
```

mkdir

Cisco ISE サーバに新しいディレクトリを作成するには、EXEC モードで `mkdir` コマンドを使用します。

mkdir *directory-name*

構文の説明

directory-name

作成するディレクトリの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。*disk:/directory-name* を使用します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

disk:/directory-name を使用してください。使用しないと、*disk:/directory-name* を含める必要があることを示すエラーが表示されます。

例

```
ise/admin# mkdir disk:/test
ise/admin# dir
Directory of disk:/
 4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
 4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
 4096 May 06 2010 13:42:53 target/
 4096 May 07 2010 12:26:04 test/
Usage for disk: filesystem
      181067776 bytes total used
      19084521472 bytes free
      20314165248 bytes available
ise/admin#
```

nslookup

Cisco ISE サーバにあるリモート システムのホスト名を検索するには、EXEC モードで `nslookup` コマンドを使用します。

```
nslookup {ip-address |hostname}
```

```
nslookup [ {ip-address |hostname} name-server {ip-address }]
```

```
nslookup [ {ip-address |hostname} querytype AAAA]
```

構文の説明

<i>ip-address</i>	リモート システムの IPv4 または IPv6 アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	リモートシステムの名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
AAAA	Web サイト名に対応する IPv6 アドレスのインターネットドメインネームサーバを照会します。
name-server	代替ネームサーバを指定します。最大 64 文字の英数字をサポートします。
querytype	リモート システムの IPv4 または IPv6 アドレス、あるいはホスト名を問い合わせます。これには、PTR、A、AAAA、SRV のようなクエリタイプも含まれます。最大 16 文字の英数字をサポートします。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

例 1

```
ise/admin# nslookup 1.2.3.4
Trying "4.3.2.1.in-addr.arpa"
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms
Trying "4.3.2.1.in-addr.arpa"
Host 4.3.2.1.in-addr.arpa. not found: 3(NXDOMAIN)
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# nslookup ipv6.google.com querytype AAAA
Server:          10.106.230.244
Address:         10.106.230.244#53
```

```
Non-authoritative answer:
ipv6.google.com canonical name = ipv6.l.google.com.
ipv6.l.google.com      has AAAA address 2404:6800:4007:803::1001
Authoritative answers can be found from:
google.com      nameserver = ns4.google.com.
google.com      nameserver = ns3.google.com.
google.com      nameserver = ns2.google.com.
google.com      nameserver = ns1.google.com.
ns1.google.com  internet address = 216.239.32.10
ns2.google.com  internet address = 216.239.34.10
ns3.google.com  internet address = 216.239.36.10
ns4.google.com  internet address = 216.239.38.10
ise/admin#
```


password

CLI アカウントのパスワードを更新するには、EXEC モードで `passwordpassword` コマンドを使用します。

password



- (注) CLI でインストール中またはインストール後に管理者のパスワードを作成する際に、パスワードの最後の文字の場合を除いて文字「\$」を使わないでください。この文字が最初または他の文字の間にあると、パスワードは受け入れられますが、CLI へのログオンには使用できません。

コンソールにログインして CLI コマンドを使用するか、ISE CD または ISO ファイルを取得することによってこれを修正できます。ISO を使用してパスワードをリセットする手順は、次のドキュメントで説明されています。 <https://www.cisco.com/c/en/us/support/docs/security/identity-services-engine/200568-ISE-Password-Recovery-Mechanisms.html>

構文の説明

Enter old password	現在の CLI パスワードを入力します。
Enter new password	新しい CLI パスワードを入力します。
Confirm new password	新しい CLI パスワードを確認します。

コマンドモード

EXEC

例

```
ise/admin# password
Enter old password:
Enter new password:
Confirm new password:
ise/admin#
```

patch install

patch installコマンドを使用してパッチをインストールする前に、そのパッチに付随するリリースノートでパッチのインストール手順を参照してください。リリースノートには、重要な更新手順が含まれており、従う必要があります。

特定のノードでCLIからアプリケーションのパッチバンドルをインストールするには、EXECモードで **patch install**コマンドを使用します。

patch install *patch-bundle* *repository*



(注) Cisco ISE 分散展開環境では、パッチバンドルがすべてのセカンダリノードで自動的にインストールされるように、管理者ポータルからパッチバンドルをインストールします。

構文の説明

install	アプリケーションの特定のパッチバンドルをインストールします。
<i>patch-bundle</i>	パッチバンドルのファイル名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
repository	指定したリポジトリ名にパッチをインストールします。最大 255 文字の英数字をサポートします。

展開内でプライマリ管理ノード (PAN) の自動フェールオーバー設定をイネーブルにしている場合は、パッチをインストールする前にディセーブルにしてください。展開内のすべてのノードでパッチインストールが完了したら、PAN の自動フェールオーバー設定をイネーブルにします。

リリース 2.0 にパッチをインストールするときに、パッチのインストールプロセスでは、ソフトウェアのハッシュ値を確認するように促されません。リリース 2.0 以降では、パッチのインストールソフトウェアがデジタル署名を使用して、パッチソフトウェアの整合性を自動的に確認します。**patch install** コマンドのサンプル出力については、以下の例を参照してください。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン アプリケーションの特定のパッチバンドルをインストールします。

既存のパッチの古いバージョンであるパッチをインストールしようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
```

CLI からパッチ インストールのステータスを確認する場合は、Cisco ISE サポートバンドルの `ade.log` ファイルを参照してください。

展開内で PAN の自動フェールオーバー設定がイネーブルになっていると、次のメッセージが表示されます。

```
PAN Auto Failover is enabled, this operation is
not allowed! Please disable PAN Auto-failover first.
```

PAN の自動フェールオーバー設定をディセーブルにして、展開内のすべてのノードでパッチインストールが完了したらイネーブルに戻します。

例

```
ise/admin# patch install ise-patchbundle-2.0.0.306-Patch2-164765.SPA.x86_64.tar.gz disk
%Warning: Patch will be installed only on this node. Install using Primary Administration
node GUI to install on all nodes in deployment. Continue? (yes/no) [yes] ?
Save the current ADE-OS running configuration? (yes/no) [yes] ?
Generating configuration...
Saved the ADE-OS running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...

Getting bundle to local machine...
Unbundling Application Package...
Verifying Application Signature...

Patch successfully installed
ise/admin#
```

patch remove

patch remove コマンドを使用してパッチをロールバックする前に、そのパッチに付随するリリース ノートでパッチのロールバック手順を参照してください。リリース ノートには、重要な更新手順が含まれており、従う必要があります。

アプリケーションの特定のパッチバンドルのバージョンを削除するには、EXEC モードで **patch remove** コマンドを使用します。

```
patch [ remove {application_name | version}]
```



(注) Cisco ISE 分散展開環境では、管理者ポータルからパッチ バンドルを削除すると、セカンダリ ノードから自動的にパッチが削除されます。

構文の説明

remove	アプリケーションの特定のパッチ バンドルのバージョンを削除するコマンド。
<i>application_name</i>	パッチが削除されるアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>version</i>	削除されるパッチ バージョン番号。最大 255 文字の英数字をサポートします。

展開内でプライマリ管理ノード (PAN) の自動フェールオーバー設定をイネーブルにしている場合は、パッチを削除する前にディセーブルにしてください。パッチの削除が完了したら、PAN の自動フェールオーバー設定をイネーブルに戻すことができます。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

インストールされていないパッチを削除しようとする、次のエラーメッセージが表示されません。

```
% Patch is not installed
```

展開内で PAN の自動フェールオーバー設定がイネーブルになっていると、次のメッセージが表示されます。

```
PAN Auto Failover is enabled, this operation is not allowed! Please disable PAN Auto-failover first.
```

例 1

```
ise/admin# patch remove ise 3
Continue with application patch uninstall? [y/n] y
```

```
Application patch successfully uninstalled  
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# patch remove ise 3  
Continue with application patch uninstall? [y/n] y  
% Patch is not installed  
ise/admin#
```

ping

リモートシステムとの基本的な IPv4 ネットワーク接続を診断するには、EXEC モードで **pingping** コマンドを使用します。

ping {*ip-address* | *hostname*} [**df** *df*] [**packetsize** *packetsize*] [**pingcount** *pingcount*]

構文の説明

<i>ip-address</i>	PING を実行するシステムの IP アドレス。最大 32 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	PING を実行するシステムのホスト名。最大 32 文字の英数字をサポートします。
df	(任意)。パケットフラグメンテーションに関する指定。
<i>df</i>	パケットフラグメンテーションを禁止する場合は、値を 1 に指定し、ローカルにパケットをフラグメントする場合は 2、DF を設定しない場合は 3 に指定します。
packetsize	(任意)。PING パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	PING パケットのサイズを 0～65507 の範囲で指定します。
pingcount	(任意)。PING エコー要求の数。
<i>pingcount</i>	PING エコー要求の数を 1～10 の範囲で指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

pingping コマンドは、エコー要求パケットをアドレスに送信して応答を待ちます。ping 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

例

```
ise/admin# ping 172.16.0.1 df 2 packetsize 10 pingcount 2
PING 172.16.0.1 (172.16.0.1) 10(38) bytes of data.
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=0 ttl=40 time=306 ms
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=1 ttl=40 time=300 ms
--- 172.16.0.1 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1001ms
rtt min/avg/max/mdev = 300.302/303.557/306.812/3.255 ms, pipe 2
ise/admin#
```

ping6

リモートシステムとの基本的な IPv6 ネットワーク接続を診断するには、EXEC モードで **ping6ping6** コマンドを使用します。これは IPv4 の **pingping** コマンドと類似しています。

ping6 {*ip-address*} [**GigabitEthernet** {0-3}][**packetsize** {*packetsize*}] [**pingcount** {*pingcount*}]

構文の説明	<i>ip-address</i>	PING を実行するシステムの IP アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
	GigabitEthernet	(任意)。イーサネットインターフェイス。
	0-3	イーサネットインターフェイスを選択します。
	packetsize	(任意)。PING パケットのサイズ。
	<i>packetsize</i>	PING パケットのサイズを 0 ~ 65507 の範囲で指定します。
	pingcount	(任意)。PING エコー要求の数。
	<i>pingcount</i>	PING エコー要求の数を 1 ~ 10 の範囲で指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **ping6ping6** コマンドは、エコー要求パケットをアドレスに送信して応答を待ちます。ping 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

ping6ping6 コマンドは、既存の **ping ping** コマンドに類似しています。**ping6ping6** コマンドは、IPv4 のパケットフラグメンテーション (**pingping** コマンドで説明されている **df**) オプションをサポートしませんが、必要に応じてインターフェイスを指定できます。インターフェイスオプションは、主にインターフェイス固有のアドレスであるリンクローカルアドレスとのピン接続に役立ちます。**packetsize** オプションと **pingcount** オプションは、**pingping** コマンドの場合と同様に機能します。

例 1

```
ise/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05(3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 56 data bytes
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.599 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.150 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.070 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.065 ms
--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
```

```
4 packets transmitted, 4 received, 0% packet loss, time 3118ms
rat min./aft/max/endive = 0.065/0.221/0.599/0.220 ms, pipe 2
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 GigabitEthernet 0 packetsize 10 pingcount
2
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05(3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 10 data bytes
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.073 ms
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.073 ms
--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1040ms
rat min./aft/max/endive = 0.073/0.073/0.073/0.000 ms, pipe 2
ise/admin#
```


reload

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。Cisco ISE オペレーティング システムをリブートするには、EXEC モードで **reloadreload** コマンドを使用します。

reload

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **reloadreload** コマンドはシステムをリブートします。コンフィギュレーション情報をファイルに入力して、CLI で永続的なスタートアップ コンフィギュレーションに実行コンフィギュレーションを保存し、Cisco ISE 管理者ポータルセッションに設定を保存した後で、**reloadreload** コマンドを使用します。

reloadreload コマンドを実行する前に、Cisco ISE が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作を実行中でないことを確認します。Cisco ISE がこれらの操作を行っている間に **reloadreload** コマンドを実行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with reload?
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with reload?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、リロード操作を続行するには **Yes** と入力し、キャンセルするには **No** と入力します。

reloadreload コマンドの使用時に他のプロセスが実行されていない場合、または表示される警告メッセージに応じて **Yes** と入力した場合は、次の質問に応答する必要があります。

```
Do you want to save the current configuration?
```

Yes を入力して既存の Cisco ISE コンフィギュレーションを保存すると、次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

展開内で自動フェールオーバーがイネーブルになっていると、次の警告メッセージが表示されます。

```
PAN Auto Failover feature is enabled, therefore
this operation will trigger a failover if ISE services are not
restarted within the fail-over window. Do you want to continue (y/n)?
```

続行する場合は「y」、中止する場合は「n」を入力します。

例

```
ise/admin# reload
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
```

```
Continue with reboot? [y/n] y
Broadcast message from root (pts/0) (Fri Aug 7 13:26:46 2010):
The system is going down for reboot NOW!
ise/admin#
```

reset-config

IPアドレスとマスクとゲートウェイ、ホスト名、ドメイン名、DNSサーバ、NTPサーバなど、ADE-OS ネットワーク コンフィギュレーションをリセットするには、EXECモードで **reset-config** コマンドを使用します。これらのパラメータは、設定時に要求されるパラメータと基本的に同じです。管理者は、このCLIから管理者パスワードを要求されることはありません。また、このコマンドは現在の ISE 設定または動作データをリセットしません。 **application reset-config** コマンドを使用して、これらのタスクを実行できるからです。

reset-config

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
コマンド モード	EXEC
使用上のガイドライン	完了時にすべてのサービスが再起動されます。



- (注) ホスト名を更新すると、古いホスト名を使用している証明書が無効になります。新しいホスト名を使用している新しい自己署名証明書が生成され、HTTPS/EAP で使用されます。このノードで CA 署名付き証明書を使用する場合、正しいホスト名が設定された新しい証明書をインポートします。また、このノードが AD ドメインの一部である場合、続行する前に、AD メンバシップを削除します。

restore

システムの以前のバックアップを復元するには、EXEC モードで **restore** コマンドを使用します。復元操作は Cisco ISE および Cisco ADE OS 関連のデータを復元します。

Cisco ISE アプリケーションと Cisco ADE OS に関するデータを復元するには、次のコマンドを使用します。



```
restore [{filename}] repository {repository-name} encryption-key hash | plain {encryption-key-name}]
```

```
restore [{filename}] repository {repository-name} encryption-key hash | plain {encryption-key-name} include-adeos]
```

構文の説明

<i>filename</i>	リポジトリに存在するバックアップファイルのファイル名。最大 120 文字の英数字をサポートします。 (注) ファイル名の後に、 tar.gpg という拡張子を付ける必要があります (myfile.tar.gpg など)。
repository	repository コマンド。
<i>repository-name</i>	バックアップを復元するリポジトリの名前。120 文字までで指定します。
encryption-key	(任意)。バックアップを復元するユーザ定義の暗号キーを指定します。
hash	バックアップを復元するためのハッシュされた暗号キー。使用する暗号化された (ハッシュ化された) 暗号化キーを指定します。40 文字までで指定します。
plain	バックアップを復元するためのプレーンテキストの暗号キー。使用する暗号化されたプレーンテキストの暗号化キーを指定します。15 文字までで指定します。
<i>encryption-key-name</i>	hash plain 形式で暗号キーを指定します。
include-adeos	ADE-OS 設定データがバックアップに存在する場合、バックアップを復元し、Cisco ISE をリブートします

展開内でプライマリ管理ノード (PAN) の自動フェールオーバー設定をイネーブルにしている場合は、バックアップを復元する前にこの設定をディセーブルにしてください。復元が完了したら、PAN の自動フェールオーバー設定をイネーブルに戻すことができます。

コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
コマンドモード	EXEC
使用上のガイドライン	<p>Cisco ISE で restore コマンドを使用すると、Cisco ISE サーバが自動的に再起動します。</p> <p>データの復元処理で、暗号キーはオプションです。暗号キーを提供する前のバックアップを復元するには、暗号キーを指定せずに restorerestore コマンドを使用します。</p> <p>展開内で PAN の自動フェールオーバー設定がイネーブルになっていると、次のメッセージが表示されます。</p> <pre>PAN Auto Failover is enabled, this operation is not allowed! Please disable PAN Auto-failover first.</pre>
	<p>(注) Cisco ISE Release 1.0 および Cisco ISE Release 1.0 MR のバックアップからの復元は、Cisco ISE Release 1.2 ではサポートされません。</p>
	<p>(注) Cisco ISE リリース 1.4 はリリース 1.2 以降で取得したバックアップからの復元をサポートしています。</p>

バックアップからの Cisco ISE 設定データの復元

バックアップから Cisco ISE 設定データを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore mybackup-CFG-121025-2348.tar.gpg repository myrepository encryption-key plain lablab12
```

例

```
ise/admin# restore latest-jul-15-CFG-140715-2055.tar.gpg repository CUSTOMER-DB-sftp
encryption-key plain Test_1234
% Warning: Do not use Ctrl-C or close this terminal window until the restore completes.
Initiating restore. Please wait...
% restore in progress: Starting Restore...10% completed
% restore in progress: Retrieving backup file from Repository...20% completed
% restore in progress: Decrypting backup data...25% completed
% restore in progress: Extracting backup data...30% completed
Leaving the currently connected AD domain
Please rejoin the AD domain from the administrative GUI
% restore in progress: Stopping ISE processes required for restore...35% completed
% restore in progress: Restoring ISE configuration database...40% completed
% restore in progress: Adjusting host data for upgrade...65% completed
UPGRADE STEP 1: Running ISE configuration DB schema upgrade...
- Running db sanity check to fix index corruption, if any...

UPGRADE STEP 2: Running ISE configuration data upgrade...
- Data upgrade step 1/67, NSFUpgradeService(1.2.1.127)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 2/67, NetworkAccessUpgrade(1.2.1.127)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 3/67, GuestUpgradeService(1.2.1.146)... Done in 43 seconds.
- Data upgrade step 4/67, NetworkAccessUpgrade(1.2.1.148)... Done in 2 seconds.
```

```

- Data upgrade step 5/67, NetworkAccessUpgrade(1.2.1.150)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 6/67, NSFUpgradeService(1.2.1.181)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 7/67, NSFUpgradeService(1.3.0.100)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 8/67, RegisterPostureTypes(1.3.0.170)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 9/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.187)... Done in 5 seconds.
- Data upgrade step 10/67, GuestUpgradeService(1.3.0.194)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 11/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.200)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 12/67, GuestUpgradeService(1.3.0.208)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 13/67, GuestUpgradeService(1.3.0.220)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 14/67, RBACUpgradeService(1.3.0.228)... Done in 15 seconds.
- Data upgrade step 15/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.230)... Done in 3 seconds.
- Data upgrade step 16/67, GuestUpgradeService(1.3.0.250)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 17/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.250)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 18/67, RBACUpgradeService(1.3.0.334)... Done in 9 seconds.
- Data upgrade step 19/67, RBACUpgradeService(1.3.0.335)... Done in 9 seconds.
- Data upgrade step 20/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.360)... Done in 236 seconds.
- Data upgrade step 21/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.380)... Done in 4 seconds.
- Data upgrade step 22/67, NSFUpgradeService(1.3.0.401)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 23/67, NSFUpgradeService(1.3.0.406)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 24/67, NSFUpgradeService(1.3.0.410)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 25/67, RBACUpgradeService(1.3.0.423)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 26/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.424)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 27/67, RBACUpgradeService(1.3.0.433)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 28/67, EgressUpgradeService(1.3.0.437)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 29/67, NSFUpgradeService(1.3.0.438)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 30/67, NSFUpgradeService(1.3.0.439)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 31/67, CdaRegistration(1.3.0.446)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 32/67, RBACUpgradeService(1.3.0.452)... Done in 16 seconds.
- Data upgrade step 33/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.458)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 34/67, NSFUpgradeService(1.3.0.461)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 35/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.462)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 36/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.476)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 37/67, TokenUpgradeService(1.3.0.500)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 38/67, NSFUpgradeService(1.3.0.508)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 39/67, RBACUpgradeService(1.3.0.509)... Done in 17 seconds.
- Data upgrade step 40/67, NSFUpgradeService(1.3.0.526)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 41/67, NSFUpgradeService(1.3.0.531)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 42/67, MDMUpgradeService(1.3.0.536)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 43/67, NSFUpgradeService(1.3.0.554)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 44/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.561)... Done in 3 seconds.
- Data upgrade step 45/67, RBACUpgradeService(1.3.0.563)... Done in 19 seconds.
- Data upgrade step 46/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.615)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 47/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.616)... Done in 15 seconds.
- Data upgrade step 48/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.617)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 49/67, OcspServiceUpgradeRegistration(1.3.0.617)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 50/67, NSFUpgradeService(1.3.0.630)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 51/67, NSFUpgradeService(1.3.0.631)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 52/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.634)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 53/67, RBACUpgradeService(1.3.0.650)... Done in 8 seconds.
- Data upgrade step 54/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.653)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 55/67, NodeGroupUpgradeService(1.3.0.655)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 56/67, RBACUpgradeService(1.3.0.670)... Done in 4 seconds.
- Data upgrade step 57/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.670)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 58/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.671)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 59/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.675)...
.....Done in 2118 seconds.
- Data upgrade step 60/67, NSFUpgradeService(1.3.0.676)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 61/67, AuthzUpgradeService(1.3.0.676)... Done in 20 seconds.
- Data upgrade step 62/67, GuestAccessUpgradeService(1.3.0.676)... Done in 454
seconds.
- Data upgrade step 63/67, NSFUpgradeService(1.3.0.694)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 64/67, ProvisioningRegistration(1.3.0.700)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 65/67, RegisterPostureTypes(1.3.0.705)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 66/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.727)... Done in 0 seconds.

```

```

- Data upgrade step 67/67, ProvisioningUpgradeService(1.3.105.181)... .Done in 103
seconds.
UPGRADE STEP 3: Running ISE configuration data upgrade for node specific data...
% restore in progress: Restoring logs...75% completed
% restore in progress: Restarting ISE Services...90% completed
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE AD Connector...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
% restore in progress: Completing Restore...100% completed
ise/admin#

```

バックアップからの Cisco ISE 動作データの復元

バックアップから Cisco ISE 動作データを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore mybackup-OPS-130103-0019.tar.gpg repository myrepository encryption-key plainlablab12
```

例

```

ise/admin# restore mybackup-OPS-130103-0019.tar.gpg repository myrepository
encryption-key plain lablab12
% Warning: Do not use Ctrl-C or close this terminal window until the restore completes.
Initiating restore. Please wait...
% restore in progress: Starting Restore...10% completed
% restore in progress: Retrieving backup file from Repository...20% completed
% restore in progress: Decrypting backup data...40% completed
% restore in progress: Extracting backup data...50% completed
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Profiler DB...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE Database processes...
% restore in progress: starting dbrestore.....55% completed
% restore in progress: ending dbrestore.....75% completed
checking for upgrade
Starting M&T DB upgrade
ISE Database processes already running, PID: 30124
ISE M&T Session Database is already running, PID: 484
Starting ISE Profiler DB...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
ISE M&T Log Processor is already running, PID: 837
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.

```

```
% restore in progress: Completing Restore...100% completed
ise/admin#
```

バックアップからの Cisco ISE 設定データおよび Cisco ADE OS データの復元

Cisco ISE ADE OS データを含む Cisco ISE 設定データを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore mybackup-CFG-130405-0044.tar.gpg repository myrepository encryption-key  
plain Mykey123 include-adeos
```

例

```
ise/admin# restore mybackup-CFG-130405-0044.tar.gpg repository myrepository encryption-key  
plain Mykey123 include-adeos
% Warning: Do not use Ctrl-C or close this terminal window until the restore completes.  
Initiating restore. Please wait...
% restore in progress: Starting Restore...10% completed
% restore in progress: Retrieving backup file from Repository...20% completed
% restore in progress: Decrypting backup data...25% completed
% restore in progress: Extracting backup data...30% completed
% restore in progress: Stopping ISE processes required for restore...35% completed
% restore in progress: Restoring ISE configuration database...40% completed
% restore in progress: Updating Database metadata...70% completed
% restore in progress: Restoring logs...75% completed
% restore in progress: Performing ISE Database synchup...80% completed
% restore in progress: Completing Restore...100% completed
Broadcast message from root (pts/2) (Fri Apr 5 01:40:04 2013):
The system is going down for reboot NOW!
Broadcast message from root (pts/2) (Fri Apr 5 01:40:04 2013):
The system is going down for reboot NOW!
ise/admin#
```


rmdir

既存のディレクトリを削除するには、EXEC モードで **rmdir** コマンドを使用します。

rmdir *directory-name*

構文の説明	<i>directory-name</i>	ディレクトリ名。最大 80 文字の英数字をサポートします。
-------	-----------------------	-------------------------------

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
------------	-------------------

コマンド モード	EXEC
----------	------

例

```
ise/admin# mkdir disk:/test
ise/admin# dir
Directory of disk:/
  4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
  4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
 16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
  4096 May 06 2010 13:42:53 target/
  4096 May 07 2010 12:26:04 test/
Usage for disk: filesystem
           181067776 bytes total used
           19084521472 bytes free
           20314165248 bytes available

ise/admin#
ise/admin# rmdir disk:/test
ise/admin# dir
Directory of disk:/
  4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
  4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
 16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
  4096 May 06 2010 13:42:53 target/
Usage for disk: filesystem
           181063680 bytes total used
           19084525568 bytes free
           20314165248 bytes available

ise/admin#
```

ssh

リモートシステムとの暗号化されたセッションを開始するには、EXEC モードで `sshssh` コマンドを使用します。



(注) 管理者またはユーザがこのコマンドを使用できます

```
ssh [{ip-address | hostname}] [username] [ port {port number | version {1 | 2}}]
```

```
ssh delete host {ip-address | hostname}
```

構文の説明

<i>ip-address</i>	リモートシステムの IPv4 アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>username</i>	SSH を介してログインしているユーザのユーザ名。
port	(任意)。リモートホストのポート番号を示します。
<i>port number</i>	ポートの有効範囲は 0 ~ 65,535 です。デフォルトポートは 22 です。
version	(任意)。バージョン番号を示します。
<i>version number</i>	SSH バージョン番号 1 および 2。デフォルトの SSH バージョンは 2 です。
delete	特定のホストの SSH フィンガープリントを削除します。
host	ホストキーが削除されるリモートシステムのホスト名。
<i>ip-address</i>	リモートシステムの IPv4 アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。

コマンド デフォルト デイセーブル。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン `ssh` コマンドは、システムから別のリモートシステムまたはサーバに、安全な暗号化された接続を確立します。この接続は、接続が暗号化される点を除いて Telnet のアウトバウンド接続と同様の機能を提供します。SSH クライアントは、認証および暗号化により、非セキュアなネットワーク上でセキュアな通信ができます。

例 1

```
ise/admin# ssh 172.79.21.96 admin port 22 version 2
ssh: connect to host 172.79.21.96 port 22: No route to host
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# ssh delete host ise
ise/admin#
```

tech

選択したネットワークインターフェイス上のトラフィックをダンプするには、EXECモードで **techtech** コマンドを使用します。

tech dumptcp {*interface-number* | *count* | *package-count*}

構文の説明

dumptcp	TCP パッケージをコンソールにダンプします。
<i>interface-number</i>	ギガビットイーサネットインターフェイスの番号 (0~3)。
<i>count</i>	最大パッケージ数を指定します。デフォルトは連続的です (制限なし)。
<i>package-count</i>	1 ~ 10000 をサポートします。
iostat	3 秒あたりの中央処理装置 (CPU) の統計情報およびデバイスとパーティションの入出力統計情報をコンソールにダンプします。Linux の iostat コマンドを参照してください。
iotop	ISE ノード上のプロセスごとに正確な I/O 使用率を提供します。
mpstat	コンソールに送信されるプロセッサ関連情報をダンプします。Linux の mpstat コマンドを参照してください。
netstat	3 秒あたりのコンソールに送信されるネットワーク関連情報をダンプします。Linux の netstat コマンドを参照してください。
top	実行中のシステムのダイナミックなリアルタイムビューをダンプします。バッチモードで 5 秒ごとに実行されます。Linux の top コマンドを参照してください。

support-tunnel	Cisco ISE は、Cisco IronPort トンネルインフラストラクチャを使用して、展開内の ISE サーバに接続してシステムの問題をトラブルシューティングするための、シスコテクニカルサポートエンジニア用のセキュアトンネルを作成します。Cisco ISE は SSH を使用して、トンネル経由のセキュアな接続を作成します。管理者として、トンネルアクセスを制御できます。サポートエンジニアにアクセス権を付与する時期と期間を選択できます。シスコカスタマーサポートは、ユーザの介入なしにトンネルを確立できません。サービスログインに関する通知を受信します。任意の時点でトンネル接続をディセーブルにできます。
vmstat	3 秒あたりのメモリ、プロセスとページングサマリー情報をダンプします。Linux の vmstat コマンドを参照してください。

コマンド デフォルト ディセーブル。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン tech dumptcp の出力で bad UDP cksum の警告が表示された場合は、問題の原因ではない場合があります。tech dumtpctech dumptcp コマンドは、発信パケットがイーサネットマイクロプロセッサから出る前にこれを検査します。最新のイーサネットチップは発信パケットのチェックサムを計算しますが、オペレーティングシステムソフトウェアのスタックは実行しません。したがって、発信パケットが bad UDP cksum として宣言されることは異常ではありません。

例 1

```
ise/admin# tech dumptcp 0 count 2
Invoking tcpdump. Press Control-C to interrupt.
tcpdump: listening on eth0, link-type EN10MB (Ethernet), capture size 96 bytes
2 packets captured
2 packets received by filter
0 packets dropped by kernel
02:38:14.869291 IP (tos 0x0, ttl 110, id 4793, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 40) 10.77.202.52.1598 > 172.21.79.91.22: ., cksum 0xe105 (correct),
234903779:234903779(0) ack 664498841 win 63344
02:38:14.869324 IP (tos 0x0, ttl 64, id 19495, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 200) 172.21.79.91.22 > 10.77.202.52.1598: P 49:209(160) ack 0 win
12096
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# tech iostat
Linux 2.6.18-348.el5 (ise)                    02/25/13
```

```

avg-cpu:  %user   %nice %system %iowait  %steal   %idle
           7.26    0.73   4.27   0.77    0.00   86.97
Device:            tps    Blk_read/s    Blk_wrtn/s    Blk_read    Blk_wrtn
sda                16.05    415.47       1802.16       3761049    16314264
sda1               0.01     0.23         0.00          2053       22
sda2               0.02     0.22         0.04          1982       354
sda3               0.01     0.29         0.02          2626       152
sda4               0.00     0.00         0.00           14         0
sda5               0.00     0.16         0.00          1479       0
sda6               0.49     0.24         7.45          2189      67400
sda7               15.51    414.27       1794.66       3750186    16246336
ise/admin#

```

例 3

```

ise/admin# tech mpstat
Linux 2.6.18-348.el5 (ise)      02/25/13
02:41:25   CPU   %user   %nice   %sys %iowait   %irq   %soft   %steal   %idle
intr/s
02:41:25  all    7.07    0.70    3.98   0.74    0.02   0.14    0.00   87.34  1015.49
ise/admin#

```

telnet

Telnet をサポートするホストにログインする場合、管理者およびオペレータは EXEC モードで `telnettelnet` コマンドを使用できます。

telnet {*ip-address* | *hostname*} **port** {*portnumber*}

構文の説明

<i>ip-address</i>	リモート システムの IPv4 アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	リモート システムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
port	宛先の Telnet ポートを指定します。
<i>portnumber</i>	(任意)。リモート ホストのポート番号を示します。0 ~ 65,535 の範囲で指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

例

```
ise/admin# telnet 172.16.0.11 port 23
ise.cisco.com login: admin
password:
Last login: Mon Jul 2 08:45:24 on ttyS0
ise/admin#
```

terminal length

現在のセッションでの現在の端末画面の行数を設定するには、EXEC モードで `terminal length` コマンドを使用します。

terminal length *integer*

構文の説明	<p>length 現在の端末画面に表示する、現在のセッションの行数を指定します。</p>
	<p><i>integer</i> 画面の行数。0～511 行の範囲で指定します。0 を指定すると、出力画面間での一時停止がディセーブルになります。</p>
コマンド デフォルト	デフォルトの行数は現在のセッションにおける現在の端末画面に対して 24 です。
コマンド モード	EXEC
使用上のガイドライン	システムは <code>length</code> の値を使用して、複数画面の出力時に一時停止するタイミングを決定します。

例

```
ise/admin# terminal length 24
ise/admin#
```


terminal session-timeout

すべてのセッションに対する非アクティブ タイムアウトを設定するには、EXEC モードで `terminal session-timeout` **terminal session-timeout** コマンドを使用します。

terminal session-timeout 分

構文の説明

session-timeout	すべてのセッションに対して、非アクティブ タイムアウトを設定します。
分	非アクティブ タイムアウトの分数。値の範囲は 0 ~ 525,600 です。ゼロ (0) を指定するとタイムアウトがディセーブルになります。

コマンド デフォルト

デフォルトのセッション タイムアウトは 30 分です。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

`terminal session-timeout` **terminal session-timeout** コマンドをゼロ (0) に設定すると、タイムアウトが設定されません。

例

```
ise/admin# terminal session-timeout 40
ise/admin#
```

terminal session-welcome

システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定するには、EXEC モードで `terminal session-welcome` **terminal session-welcome** コマンドを使用します。

terminal session-welcome *string*

構文の説明	session-welcome	システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定します。
	<i>string</i>	初期メッセージ。最大2023文字の英数字をサポートします。XMLで予約された文字は許可されません。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
使用上のガイドライン	CLIにログインしたときにコマンドプロンプト画面の上部に表示される初期メッセージを指定します。	

例

```
ise/admin# terminal session-welcome Welcome
ise/admin#
```

terminal terminal-type

現在のセッションの現在の回線に接続される端末のタイプを指定するには、EXEC モードで `terminal terminal-type terminal terminal-type` コマンドを使用します。

terminal terminal-type *type*

構文の説明	terminal-type	接続されている端末のタイプを指定します。デフォルトの端末タイプは VT100 です。
	<i>type</i>	端末の名前とタイプを定義し、そのサービスのタイプを提供するホストによる端末ネゴシエーションを許可します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
コマンド デフォルト	VT100	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	VT100 と異なる場合、端末タイプを示します。	

例

```
ise/admin# terminal terminal-type vt220
ise/admin#
```

tracert

パケットが宛先のアドレスに送信されるときに実際に通るルートを検出するには、EXEC モードで **tracert *tracert*** コマンドを使用します。

tracert [*ip-address* | *hostname*]

構文の説明	<i>ip-address</i>	リモートシステムの IPv4 アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
	<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	

例

```
ise/admin# tracert 172.16.0.11
tracert to 172.16.0.11 (172.16.0.11), 30 hops max, 38 byte packets
 1 172.16.0.11 0.067 ms 0.036 ms 0.032 ms
ise/admin#
```

undebug

デバッグ機能をディセーブルにするには、EXEC モードで `undebug undebug` コマンドを使用します。

`undebug all application backup-restore cdpcnfigcopy icmp locks logging snmp system transfer user utils`

構文の説明

all	すべてのデバッグをディセーブルにします
application	アプリケーション ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> • all : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • install : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。 • operation : アプリケーション操作のデバッグ出力をディセーブルにします。 • uninstall : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。
backup-restore	ファイルをバックアップおよび復元します。 <ul style="list-style-type: none"> • all : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をディセーブルにします。 • backup : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をディセーブルにします。 • backup-logs : バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をディセーブルにします。 • history : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をディセーブルにします。 • restore : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をディセーブルにします。

cdp	<p>Cisco Discovery Protocol (CDP) コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none">• all : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• config : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• infra : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。
config	<p>コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none">• all : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• backup : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• clock : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• infra : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。• kron : コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• network : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• repository : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。• service : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。
copy	<p>コピー コマンド。</p>

icmp	ICMP エコー応答のコンフィギュレーション。 all : ICMP エコー応答のコンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
locks	リソース ロッキング。 <ul style="list-style-type: none">• all : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。• file : ファイルロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。
logging	ロギング コンフィギュレーションファイル。 all : ロギング コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。
snmp	SNMP コンフィギュレーションファイル。 all : SNMP コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。
system	システム ファイル。 <ul style="list-style-type: none">• all : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をディセーブルにします。• id : システム ID のデバッグ出力をディセーブルにします。• info : システム情報のデバッグ出力をディセーブルにします。• init : システムの初期化のデバッグ出力をディセーブルにします。
transfer	ファイル転送。
user	ユーザの管理。 <ul style="list-style-type: none">• all : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。• password-policy : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。

utils	ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。 all : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。
--------------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

例

```
ise/admin# undebug all
ise/admin#
```


write

Cisco ISE サーバ コンフィギュレーションをコピー、表示、または消去するには、適切な引数を指定して EXEC モードで **writewrite** コマンドを使用します。

write erasememoryterminal

構文の説明	オプション	説明
	erase	スタートアップ コンフィギュレーションを消去します。このオプションは、Cisco ISE ではディセーブルです。
	memory	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
	terminal	実行コンフィギュレーションをコンソールにコピーします。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン Cisco ISE では、**writewrite** コマンドで **erase** オプションを使用することはできません。

erase オプションと **write** コマンドをともに使用すると、Cisco ISE は次のエラー メッセージを表示します。

```
% Warning: 'write erase' functionality has been disabled by application: ise
```

例 1

```
ise/admin# write memory
Generating configuration...
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# write terminal
Generating configuration...
!
hostname ise
```

write



EXEC Show モードの Cisco ISE CLI コマンド

この章では、EXEC モードで Cisco ISE 設定の表示に使用する最も便利なコマンドの 1 つである **showshow** コマンドについて説明します。この章では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。

- [show](#) (109 ページ)
- [show application](#) (110 ページ)
- [show backup](#) (113 ページ)
- [show banner](#) (114 ページ)
- [show cdp](#) (115 ページ)
- [show clock](#) (116 ページ)
- [show container](#) (117 ページ)
- [show cpu](#) (121 ページ)
- [show crypto](#) (123 ページ)
- [show disks](#) (124 ページ)
- [show icmp-status](#) (126 ページ)
- [show interface](#) (128 ページ)
- [show inventory](#) (130 ページ)
- [show ip](#) (132 ページ)
- [show ipv6 route](#) (133 ページ)
- [show logging](#) (134 ページ)
- [show logins](#) (137 ページ)
- [show memory](#) (138 ページ)
- [show ntp](#) (139 ページ)
- [show ports](#) (140 ページ)
- [show process](#) (142 ページ)
- [show repository](#) (144 ページ)
- [show restore](#) (145 ページ)
- [show running-config](#) (146 ページ)
- [show snmp engineid](#) (148 ページ)
- [show snmp user](#) (149 ページ)

- `show startup-config` (150 ページ)
- `show tech-support` (151 ページ)
- `show terminal` (153 ページ)
- `show timezone` (154 ページ)
- `show timezones` (155 ページ)
- `show udi` (156 ページ)
- `show uptime` (157 ページ)
- `show users` (158 ページ)
- `show version` (159 ページ)

show

実行システムの情報を表示するには、EXEC モードで **showshow** コマンドを使用します。

show *keyword* (キーワード)

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン すべての **showshow** コマンドは、機能するために少なくとも 1 つのキーワードが必要です。

例

```
ise/admin# show application
<name>                    <Description>
ise                        Cisco Identity Services Engine
ise/admin#
```

show application

システムにインストールされているアプリケーションパッケージを表示するには、EXEC モードで `show applicationshow application` コマンドを使用します。

`show application >file-name`

`show application [status {application_name}]`

`show application [version {application_name}]`

構文の説明

<code>></code>	出力をファイルにリダイレクトします。
<code>file-name</code>	Cisco ISE アプリケーション情報を保存するファイルの名前。
<code>status</code>	インストールされているアプリケーションのステータスを表示します。
<code>version</code>	インストールされているアプリケーション (Cisco ISE) のアプリケーションバージョンを表示します。
<code>application_name</code>	インストールされているアプリケーションの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <code>begin</code> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>count</code> : 出力の行数をカウントします。単語 <code>count</code> の後に数字を追加します。 : <code>count</code> の出力修飾子変数。 • <code>end</code> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>exclude</code> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>include</code> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>last</code> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <code>last</code> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : <code>last</code> の出力修飾子変数。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン システムにインストールされているパッケージに関するアプリケーション ステータスとバージョンを表示するには、**show applicationshow application** コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# show application
<name>                <Description>
RootPatch             Cisco ADE Root Patch
ise                   Cisco Identity Services Engine
ise/admin#
```

例 1

```
ise/admin# show application
<name>                <Description>
ise                   Cisco Identity Services Engine
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show application version ise
Cisco Identity Services Engine
-----
Version       : 1.3.0.672
Build Date   : Thu Jun 19 19:33:17 2014
Install Date : Thu Jun 19 21:06:34 2014
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show application version ise
Cisco Identity Services Engine
-----
Version       : 1.4.0.205
Build Date   : Tue Mar  3 05:37:10 2015
Install Date : Tue Mar  3 21:06:34 2015
ise/admin#
```

例 3

CiscoISEではオプション（ペルソナベース）でプロセスのステータスが表示されます。pxGrid、Certificate Authority、M&T、Identity Mapping Service などのプロセスは、次の状態のいずれかになります。

- 実行中（Running） : Cisco ISE サービスは稼働中です
- 実行していない（Not Running） : Cisco ISE サービスはシャットダウンされています
- ディセーブル（Disabled） : Cisco ISE サービスはディセーブルです

show application

```

ise/admin# show application status ise
ISE PROCESS NAME                               STATE           PROCESS ID
-----
Database Listener                             running         3688
Database Server                               running         41 PROCESSES
Application Server                             running         6041
Profiler Database                             running         4533
AD Connector                                  running         6447
M&T Session Database                          running         2363
M&T Log Collector                             running         6297
M&T Log Processor                             running         6324
Certificate Authority Service                 running         6263
pxGrid Infrastructure Service                  disabled
pxGrid Publisher Subscriber Service           disabled
pxGrid Connection Manager                     disabled
pxGrid Controller                             disabled
Identity Mapping Service                     disabled
ise/admin#

```

例 4

```

ise/admin# show application status RootPatch
Root Patch installed, and enabled
ise/admin#

```

例 5

```

ise/admin# show application version RootPatch
Root Patch VERSION INFORMATION
-----
Version      : 1.3.0                               Vendor: Cisco Systems, Inc.
Build Date   : March 21 2014 13:04PDT
ise/admin#

```


show backup

システムのバックアップ履歴またはバックアップのステータスを表示するには、EXEC モードで `show backupshow backup` コマンドを使用します。

show backup historystatus

構文の説明	history	システム上のバックアップに関する履歴情報を表示します。
	progress	システム上のバックアップ ステータスを表示します。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
使用上のガイドライン	システムのバックアップ履歴とステータスを表示するには、 <code>show backupshow backup</code> コマンドを使用します。	

例 1

```
ise/admin# Show backup history
Wed Apr 10 02:35:29 EDT 2013: backup mybackup-CFG-130410-0226.tar.gpg to repository
myrepository: success
Wed Apr 10 02:40:07 EDT 2013: backup mybackup1-OPS-130410-0239.tar.gpg to repository
myrepository: success
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show backup status
%% Configuration backup status
%% -----
%      backup name: mybackup
%      repository: myrepository
%      start date: Wed Apr 10 02:26:04 EDT 2013
%      scheduled: no
%      triggered from: Admin web UI
%      host: ise.cisco.com
%      status: backup mybackup-CFG-130410-0226.tar.gpg to repository myrepository:
success
%% Operation backup status
%% -----
%      backup name: mybackup1
%      repository: myrepository
%      start date: Wed Apr 10 02:39:02 EDT 2013
%      scheduled: no
%      triggered from: Admin web UI
%      host: ise.cisco.com
%      status: backup mybackup1-OPS-130410-0239.tar.gpg to repository myrepository:
success
ise/admin#
```

show banner

ログイン前バナーおよびログイン後バナーを表示するには、EXEC モードで **show bannershow banner** コマンドを使用します。

show banner [post-login | pre-login]

構文の説明

post-login	現在の CLI セッションの Cisco ISE サーバで設定されているログイン後の情報が表示されます。
pre-login	現在の CLI セッションの Cisco ISE サーバで設定されているログイン前の情報が表示されます。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アクティブな SSH セッションで **show bannershow banner** コマンドを使用します。アクティブな SSH セッションが Cisco ISE 管理者ポータルで設定された [最大同時セッション数 (Maximum Concurrent Sessions)] を超えた場合、「警告：最大アクティブ SSH セッション数に到達 (WARNING: Maximum active ssh sessions reached)」メッセージが表示されます。

show cdp

イネーブルになっているすべての Cisco Discovery Protocol (CDP) インターフェイスに関する情報を表示するには、EXEC モードで `show cdpshow cdp` コマンドを使用します。

show cdp all neighbors

構文の説明	all	イネーブルになっているすべての Cisco Discovery Protocol インターフェイスを表示します。
	neighbors	Cisco Discovery Protocol ネイバーを示します。
コマンドデフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンドモード	EXEC	
使用上のガイドライン	イネーブルになっている Cisco Discovery Protocol インターフェイスおよび CDP ネイバーを表示するには、 <code>show cdpshow cdp</code> コマンドを使用します。	

例 1

```
ise/admin# show cdp all
CDP protocol is enabled...
    broadcasting interval is every 60 seconds.
    time-to-live of cdp packets is 180 seconds.
    CDP is enabled on port GigabitEthernet0.
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show cdp neighbors
CDP Neighbor: 000c297840e5
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type     : ISE-1141VM-K9
    Port           : eth0
    Address        : 172.23.90.114
CDP Neighbor: isexp-esw5
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type     : cisco WS-C3560E-24TD
    Port           : GigabitEthernet0/5
    Address        : 172.23.90.45
CDP Neighbor: 000c29e29926
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type     : ISE-1141VM-K9
    Port           : eth0
    Address        : 172.23.90.115
CDP Neighbor: 000c290fba98
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type     : ISE-1141VM-K9
    Port           : eth0
    Address        : 172.23.90.111
ise/admin#
```

show clock

システムソフトウェアクロックの曜日、月、日付、時間、時間帯、および年を表示するには、EXEC モードで **show clock** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show clock

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン 次の例の **show clock** の出力には、協定世界時 (UTC)、グリニッジ標準時 (GMT)、英国時間、またはズールー時間が含まれます。

例

```
ise/admin# show clock
Fri Aug 6 10:46:39 UTC 2010
ise/admin#
```

show container

Threat-Centric NAC アダプタと Wifi 設定に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show container** コマンドを使用します。

このコマンドの出力は、脆弱性評価スキャン、アダプタが作成された日時、アダプタの実行時間、アダプタの現在の状態に関する統計情報を提供します。コンテナ名またはIDに基づいて、各アダプタに関する詳細情報を表示することができます。

show container {**tc-nac** {**adapters** | **all** | **inspect** {**container-id** *container-id* | **container-name** *container-name*} | **stats** {**container-id** *container-id* | **container-name** *container-name*}} | **wifi setup** **all**}

構文の説明

tc-nac	Threat-Centric NAC アダプタに関する情報を表示します。
wifi setup	Wi-Fi コンテナ設定情報を表示します。
all	TC NAC と併用すると、Cisco ISE で利用可能なすべてのアダプタ（コンテナ名やIDを含めて）を一覧表示します。 Wi-Fi 設定と併用すると、Wi-Fi コンテナ設定情報を表示します。
adapters	Cisco ISE で設定されている TC NAC アダプタを一覧表示します。コンテナIDおよびコンテナ名、アダプタが作成された日時、アダプタの実行時間、アダプタの現在の状態を一覧表示します。
inspect { container-id <i>container-id</i> container-name <i>container-name</i> }	特定のアダプタに関する詳細情報を一覧表示します。
stats { container-id <i>container-id</i> container-name <i>container-name</i> }	特定のアダプタに関する統計情報を提供します。
>	出力をファイルにリダイレクトします。

出力修飾子変数

- **begin** : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **count** : 出力の行数をカウントします。単語 **count** の後に数字を追加します。
| : **count** の出力修飾子変数。
- **end** : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **exclude** : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **include** : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **last** : 出力の最後の数行を表示します。単語 **last** の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。
| : **last** の出力修飾子変数。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン Threat-Centric NAC アダプタに関する情報を表示するには、**show container** コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# show container tc-nac adapters
```

CONTAINER ID	IMAGE	COMMAND	CREATED
STATUS	PORTS		NAMES
63b8904f41c6	irf-adapter-nexpose	"/opt/CSCOcpm/vaservi"	19 hours ago
Up 19 hours			nexpose
8389f7e249cf	irf-adapter-tenable	"/opt/CSCOcpm/vaservi"	2 days ago
Up 2 days			tenable

```
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show container tc-nac all
```

CONTAINER ID	IMAGE	COMMAND	CREATED
STATUS	PORTS		NAMES
63b8904f41c6	irf-adapter-nexpose	"/opt/CSCOcpm/vaservi"	19 hours ago
Up 19 hours			nexpose

```

8389f7e249cf      irf-adapter-tenable      "/opt/CSCOcpm/vaservi"  2 days ago
Up 2 days
41921c1539bf      irf-core-engine:2.2.6    "/bin/sh -c 'npm star"  3 days ago
Up 3 days
127.0.0.1:3000->3000/tcp
irf-core-engine-runtime
c4f6ff3cf628      irf-rabbitmq:2.2.6      "/docker-entrypoint.s"  3 days ago
Up 3 days
4369/tcp, 5671-5672/tcp, 15671-15672/tcp, 25672/tcp
irf-rabbitmq-runtime
e682a5a5ad69      irf-mongo:2.2.6         "/entrypoint.sh mongo"  3 days ago
Up 3 days
27017/tcp
irf-mongo-runtime

ise/admin#

```

例 3

```

ise/admin# show container tc-nac inspect container-name nexpose
[
{
  "Id": "63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044",
  "Created": "2016-09-22T11:38:03.146141316Z",
  "Path": "/opt/CSCOcpm/vaservice/nexposeadapter/bin/nexposeadaptercontrol.sh",
  "Args": [
    "start",
    "http://irf-core-engine-runtime:3000/api/adapter/instance/register",
    "07bc6aee-fb9f-4845-86cb-886c7c095188"
  ],
  "State": {
    "Status": "running",
    "Running": true,
    "Paused": false,
    "Restarting": false,
    "OOMKilled": false,
    "Dead": false,
    "Pid": 23433,
    "ExitCode": 0,
    "Error": "",
    "StartedAt": "2016-09-22T11:38:05.609439645Z",
    "FinishedAt": "0001-01-01T00:00:00Z"
  },
  "Image": "06ba3230bd64872b988f4506e7fffddc8c6374c7ece285555ee1cc57743ea7e0",
  "ResolvConfPath":
"/opt/docker/runtime/containers/63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044/resolv.conf",
  "HostnamePath":
"/opt/docker/runtime/containers/63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044/hostname",
  "HostsPath":
"/opt/docker/runtime/containers/63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044/hosts",
  "LogPath":
"/opt/docker/runtime/containers/63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044/
63b8904f41c6ce2a58660d38eb3500104038e650e4e3365e21e0a536a1ba3044-json.log",
  "Name": "/nexpose",
  "RestartCount": 0,
  "Driver": "devicemapper",
  "ExecDriver": "native-0.2",
  "MountLabel": "",
  "ProcessLabel": "",
  "AppArmorProfile": "",
  "ExecIDs": [

```

```

        "d76578aa48118167d9d029037fcb2e56aa7dce8672b8991a736617a6d6879750"
    ],
    .
    .
    .
    "NetworkSettings": {
        "Bridge": "",
        "SandboxID": "9873fb92f86e665039a6de15bfe057bc3fd341f7b39acedee57cbd89b3f56ce0",

        "HairpinMode": false,
        "LinkLocalIPv6Address": "",
        "LinkLocalIPv6PrefixLen": 0,
        "Ports": {},
        "SandboxKey": "/var/run/docker/netns/9873fb92f86e",
        "SecondaryIPAddresses": null,
        "SecondaryIPv6Addresses": null,
        "EndpointID": "",
        "Gateway": "",
        "GlobalIPv6Address": "",
        "GlobalIPv6PrefixLen": 0,
        "IPAddress": "",
        "IPPrefixLen": 0,
        "IPv6Gateway": "",
        "MacAddress": "",
        "Networks": {
            "irf-internal-nw": {
                "EndpointID":
"8999c12319144cfd66a4e99be40f7fbc228779e43f2a7f20c48867b8b3ca7a49",
                "Gateway": "169.254.1.1",
                "IPAddress": "169.254.1.6",
                "IPPrefixLen": 24,
                "IPv6Gateway": "",
                "GlobalIPv6Address": "",
                "GlobalIPv6PrefixLen": 0,
                "MacAddress": "02:42:a9:fe:01:06"
            }
        }
    }
}
]

```

例 4

```
ise/admin# show container tc-nac stats container-name nexpose
```

CONTAINER	CPU %	MEM USAGE / LIMIT	MEM %	NET
I/O	BLOCK I/O			
nexpose	0.07%	327.9 MB / 12.43 GB	2.64%	4.501
MB / 2.446 MB	106.4 MB / 21.27 MB			

例 5

```
ise/admin# show container wifi setup all
```

CONTAINER ID	IMAGE	COMMAND	CREATED	
STATUS	PORTS	NAMES		
d51711744e7c	wifisetup:0.0.12	"/sbin/tini -- /usr/b"	6 days ago	Up
6 days		wifisetup-container		

show cpu

CPU 情報を表示するには、EXEC モードで `show cpushow cpu` コマンドを使用します。

Cisco ISE コンポーネントごとの CPU 使用率の概要を表示するには、EXEC モードで `show cpu usage` コマンドを使用します。このコマンドの出力は、コマンドが実行された時点の CPU 使用率のスナップショットを提供します。

`show cpu >file-name`

`show cpu statistics`

`show cpu usage`

構文の説明

<code>></code>	出力をファイルにリダイレクトします。
<code>file-name</code>	リダイレクトするファイルの名前。
<code>statistics</code>	CPU 統計情報を表示します。
<code>cpu usage</code>	インストールされているアプリケーション (Cisco ISE) のコンポーネントごとの CPU 使用率を表示します。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <code>begin</code> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>count</code> : 出力の行数をカウントします。単語 <code>count</code> の後に数字を追加します。 : <code>count</code> の出力修飾子変数。 • <code>end</code> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>exclude</code> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>include</code> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>last</code> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <code>last</code> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : <code>last</code> の出力修飾子変数。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン CPU 情報とその統計情報を表示するには、`show cpushow cpu` コマンドを使用します。
例 1

```
ise/admin# show cpu
processor: 0
model : Intel(R) Xeon(R) CPU           E5320 @ 1.86GHz
speed(MHz): 1861.914
cache size: 4096 KB
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show cpu statistics
user time:          265175
kernel time:       166835
idle time:         5356204
i/o wait time:    162676
irq time:          4055
ise/admin#
```

例 3

```
ise/admin# show cpu usage
```

ISE Function	% CPU Usage	CPU Time	Number of threads
Profiler Database	0.01	1:26.27	3
M&T Session Database	0.01	1:23.06	18
Certificate Authority Service	0.04	6:57.38	31
M&T Log Collector	0.12	20:29.75	7
M&T Log Processor	0.09	15:44.23	60
ISE Indexing Engine	0.12	21:34.76	75
Database Listener	0.01	0:53.18	2
Database Server	0.36	62:48.64	64
processes			
Admin Webapp	0.04	6:46.68	53
Profiler	0.00	0:02.94	26
NSF Persistence Layer	0.05	8:09.70	46
Guest Services	0.00	0:00.32	5
Syslog Processor	0.00	0:12.79	3
Quartz Scheduler	0.05	9:08.80	29
RMI Services	0.00	0:05.98	10
Message Queue	0.00	0:43.99	4
BYOD Services	0.00	0:00.00	1
Admin Process JVM Threads	0.19	32:50.67	10
Miscellaneous services	0.17	30:30.47	3557
Identity Mapping Service	N/A		
SXP Engine Service	N/A		
Threat Centric NAC Docker Service	N/A		
Threat Centric NAC MongoDB Container	N/A		
Threat Centric NAC RabbitMQ Container	N/A		
Threat Centric NAC Core Engine Container	N/A		
Vulnerability Assessment Database	N/A		
Vulnerability Assessment Service	N/A		

show crypto

ログインしている管理者とユーザの公開キーおよび許可キーに関する情報を表示するには、`show cryptoshow crypto` コマンドを使用します。

show crypto authorized_keys

show crypto host-keys

show crypto key

構文の説明

authorized_keys	現在ログインしているユーザの許可キーの情報を表示します。
host_keys	現在ログインしているユーザのホスト キーを表示します。
key	現在ログインしているユーザのキーの情報を表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

現在ログインしているユーザの許可キーとキーを表示するには、`show cryptoshow crypto` コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# show crypto authorized_keys
Authorized keys for admin
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa f8:7f:8a:79:44:b8:5d:5f:af:e1:63:b2:be:7a:fd:d4 admin@ise
ise/admin#
```

show disks

ディスクのファイルシステム情報を表示するには、EXEC モードで `show disksshow disks` コマンドを使用します。

`show disks > file-name`

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を追加します。 : count の出力修飾子変数。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : last の出力修飾子変数。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

`show disksshow disks` コマンドは、ディスク ファイル システムを備えたプラットフォームでのみサポートされます。

例

```
ise/admin# show disks
disk repository: 24% used (3325484 of 14877092)
Internal filesystems:
/ : 5% used ( 24124436 of 540283556)
/storedconfig : 7% used ( 5693 of 93327)
```

```
/tmp : 2% used ( 35960 of 1976268)
/boot : 4% used ( 17049 of 489992)
/dev/shm : 0% used ( 0 of 1943756)
  all internal filesystems have sufficient free space
ise/admin#
```

show icmp-status

Internet Control Message Protocol (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、EXEC モードで `show icmp_status` コマンドを使用します。

`show icmp_status > file-name`

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子コマンド <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> • : <i>count</i> の出力修飾子コマンド。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 <ul style="list-style-type: none"> • : <i>last</i> の出力修飾子コマンド。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン Internet Control Message Protocol (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、`show icmp_status` コマンドを使用します。

例 1

```
ise/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned on
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show icmp_status  
icmp echo response is turned off  
ise/admin#
```

show interface

IP に設定されているインターフェイスのユーザビリティ ステータスを表示するには、EXEC モードで `show interfaces` **show interface** コマンドを使用します。

show interface > *file-name*

show interface GigabitEthernet {0-3}

構文の説明	>	出力をファイルにリダイレクトします。
	<i>file-name</i>	インターフェイス情報をリダイレクトするファイルの名前。
	GigabitEthernet	特定のギガビットイーサネットインターフェイスの情報を表示します。
	0-3	ギガビットイーサネット番号。使用できる可能性のある番号：0、1、2、3。
		出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を追加します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	<p><code>show interface GigabitEthernet 0</code> show interface GigabitEthernet 0 出力のインターフェイスには、3 つの IPv6 アドレスがあります。最初のインターネット アドレス (3ffe 以降) は、ステートレス自動設定を使用した結果です。有効にするには、そのサブネットで IPv6 ルート アドバタイズメントがイネーブルになっている必要があります。次のアドレス (fe80以降) は、ホストの</p>	

外部にスコープが存在しないリンク ローカルアドレスです。IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なくリンク ローカルアドレスが常に表示されます。最後のアドレス (2001以降) は、IPv6 DHCP サーバから取得した結果です。

例 1

```
ise/admin# show interface
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:6A:88:C4
          inet addr:172.23.90.113  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:fe6a:88c4/64 Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:48536 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:14152 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:6507290 (6.2 MiB)  TX bytes:12443568 (11.8 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
lo        Link encap:Local Loopback
          inet addr:127.0.0.1  Mask:255.0.0.0
          inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
          UP LOOPBACK RUNNING  MTU:16436  Metric:1
          RX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:0
          RX bytes:649425800 (619.3 MiB)  TX bytes:649425800 (619.3 MiB)
sit0      Link encap:IPv6-in-IPv4
          NOARP  MTU:1480  Metric:1
          RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:0
          RX bytes:0 (0.0 b)  TX bytes:0 (0.0 b)
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB)  TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
ise/admin#
```

show inventory

Cisco ISE アプライアンス モデルやシリアル番号など、ハードウェア インベントリに関する情報を表示するには、EXEC モードで `show inventory` コマンドを使用します。

`show inventory > file-name`

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	ハードウェア インベントリ情報をリダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を追加します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

Cisco ISE アプライアンスの情報を表示するには、`show inventory` コマンドを使用します。

例

```
ise/admin# show inventory
NAME: "ISE-VM-K9          chassis", DESCR: "ISE-VM-K9          chassis"
PID: ISE-VM-K9          , VID: V01 , SN: H8JESGOFHGG
Total RAM Memory: 1035164 kB
CPU Core Count: 1
CPU 0: Model Info: Intel(R) Xeon(R) CPU                E5320  @ 1.86GHz
Hard Disk Count(*): 1
Disk 0: Device Name: /dev/sda
```

```
Disk 0: Capacity: 64.40 GB
Disk 0: Geometry: 255 heads 63 sectors/track 7832 cylinders
NIC Count: 1
NIC 0: Device Name: eth0
NIC 0: HW Address: 00:0C:29:6A:88:C4
NIC 0: Driver Descr: eth0: registered as PCnet/PCI II 79C970A
(*) Hard Disk Count may be Logical.
ise/admin#
```

show ip

IP ルート情報を表示するには、EXEC モードで `show ipshow ip` コマンドを使用します。

show ip route

構文の説明	route	IP ルート情報を表示します。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	このコマンドは IP ルーティング テーブルを表示します。	

例

```
ise/admin# show ip route
Kernel IP routing table
Destination      Gateway         Genmask        Flags Metric Ref    Use Iface
172.21.79.0     0.0.0.0        255.255.255.0 U        0      0      0 eth0
0.0.0.0         172.21.79.1    0.0.0.0        UG       0      0      0 eth0
ise/admin#
```

show ipv6 route

IPv6 ルート情報を表示するには、EXEC モードで `show ipv6 route` コマンドを使用します。

show ipv6 route

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン このコマンドは、IPv6 ルーティング テーブルを表示します。

例 1

```
ise/admin# show ipv6 route
Destination          Gateway              Iface
-----
2001:DB8:cc00:1::/64 2001:DB8:cc00:1::1  eth0
ff02::1:2/128        ff02::1:2           eth0
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show ipv6 route
Destination          Gateway              Iface
-----
2001:db8::/64       ::                  eth0
2015:db8::/64       ::                  eth3
2020:db8::/64       2001:db8::5        eth0
default              2001:db8::5        eth0
ise/admin#
```

show logging

システム ロギング (syslog) の状態および標準のシステム ロギング バッファの内容を表示するには、EXEC モードで `show logging` コマンドを使用します。

`show logging > file-name`

`show logging application application-logfile-name`

`show logging container tc-nac {container-id container-id [log-name name-of-log-filetail] | container-name container-name}`

`show logging internal`

`show logging system system-logfile-name`

構文の説明

<code>></code>	出力をファイルにリダイレクトします。
<code>file-name</code>	システム ログ情報をリダイレクトするファイルの名前。
<code>application</code>	アプリケーション ログを表示します。
<code>application-logfile-name</code>	アプリケーション ログ ファイルの名前。
<code>container tc-nac</code>	Threat Centric-NAC コンテナを表示します。
<code>container-id container-id [log-name name-of-log-filetail]</code>	指定されたコンテナ (TC-NAC アダプタ) に関連するログ ファイルを表示します。
<code>container-name container-name</code>	指定されたコンテナ (TC-NAC アダプタ) に関連するログ ファイルを表示します。
<code>internal</code>	syslog のコンフィギュレーションを表示します。
<code>system</code>	システムの syslog を表示します。
<code>system-logfile-name</code>	システム ログ ファイルの名前。
<code>system-file-name</code>	システム ログ ファイル名の名前。

出力修飾子変数

- **begin** : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **count** : 出力の行数をカウントします。単語 **count** の後に数字を追加します。
- **end** : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **exclude** : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **include** : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **last** : 出力の最後の数行を表示します。単語 **last** の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン このコマンドは、**syslog** エラーおよびイベントロギングの状態を表示します。この状態には、ホストアドレス、ロギングがイネーブルになっているロギングの宛先（コンソール、モニタ、バッファ、またはホスト）が含まれます。

例 1

```
ise/admin# show logging system
      0 Feb 25 2013 15:57:43 tallylog
    1781 Feb 26 2013 02:01:02 maillog
    4690 Feb 26 2013 02:40:01 cron
      0 Feb 25 2013 15:56:54 spooler
      0 Feb 25 2013 16:10:03 boot.log
      0 Feb 25 2013 16:00:03 btmp
    38784 Feb 26 2013 02:19:48 wttmp
    16032 Feb 26 2013 02:19:47 faillog
    32947 Feb 26 2013 00:38:02 dmesg
    63738 Feb 26 2013 02:19:49 messages
    146292 Feb 26 2013 02:19:48 lastlog
    13877 Feb 26 2013 01:48:32 rpmpkgs
    129371 Feb 26 2013 02:40:22 secure
    27521 Feb 25 2013 16:10:02 anaconda.syslog
    345031 Feb 25 2013 16:10:02 anaconda.log
      0 Jul 28 2011 00:56:37 mail/statistics
    1272479 Feb 26 2013 02:42:52 ade/ADE.log
    567306 Feb 26 2013 02:40:22 audit/audit.log
    24928 Feb 26 2013 02:40:01 sa/sa26
      0 Feb 25 2013 16:01:40 pm/suspend.log
ise/admin#
```

例 2

Cisco ISE ノードのアプリケーション ログ ファイルを表示するには、次のコマンドを使用します。

```
ise/admin# show logging application
 61 Oct 07 2016 03:02:43 dbalert.log
4569 Oct 07 2016 03:21:18 ad_agent.log
   0 Oct 07 2016 03:13:18 ise-elasticsearch_index_indexing_slowlog.log
   0 Oct 07 2016 03:02:59 edf.log
 124 Oct 07 2016 03:21:59 diagnostics.log
8182 Oct 07 2016 03:26:45 caservice.log
 426 Oct 07 2016 03:19:17 redis.log
1056 Oct 07 2016 03:13:07 caservice_bootstrap.log
49637 Oct 07 2016 03:27:40 passiveid-mgmt.log
   0 Oct 07 2016 03:02:59 passiveid.log
   0 Oct 07 2016 03:13:18 ise-elasticsearch_index_search_slowlog.log
14152 Oct 07 2016 03:26:03 collector.log
   0 Oct 07 2016 03:02:59 idc-endpoint.log
  134 Oct 07 2016 03:22:34 ocsp.log
   0 Oct 07 2016 03:02:59 dbconn.log
   0 Oct 07 2016 03:02:59 idc-kerberos.log
100958 Oct 07 2016 03:24:43 crypto.log
   0 Oct 07 2016 03:02:59 idc-syslog.log
   0 Oct 07 2016 03:02:59 replication.log.2016-10-04.1
10394 Oct 07 2016 03:24:01 guest.log
   0 Oct 07 2016 03:02:59 guest.log.2016-10-07.1
   0 Oct 07 2016 03:02:59 vcs.log.2016-10-04.1
288624 Oct 07 2016 03:27:25 ise-psc.log
ise/admin#
```


show logins

システム ログインの状態を表示するには、EXEC モードで `show logins` コマンドを使用します。

show logins cli

構文の説明

cli cli ログイン履歴を一覧表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

cli キーワードを指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

例

```
ise/admin# show logins cli
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 09:45 still logged in
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 08:56 - 09:30 (00:33)
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 07:17 - 08:43 (01:26)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 18:17 (17:49)
admin tty1 Thu Aug 5 18:15 - down (00:00)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 18:09 (00:06)
setup tty1 Thu Aug 5 17:43 - 18:07 (00:24)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 16:05 (02:02)
wtm begins Thu Aug 5 16:05:36 2010
ise/admin#
```

show memory

すべての実行プロセスのメモリ使用量を表示するには、EXEC モードで `show memoryshow memory` コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show memory

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン 使用メモリを表示するには、`show memoryshow memory` コマンドを使用します。

例

```
ise/admin# show memory
total memory: 4394380 kB
free memory: 206060 kB
cached: 1111752 kB
swap-cached: 9072 kB

output of free command:
total used free shared buffers cached
Mem: 4394380 4188576 205804 0 147504 1111748
-/+ buffers/cache: 2929324 1465056
Swap: 8185108 192728 7992380
ise/admin#
```

show ntp

Network Translation Protocol (NTP) 関連付けのステータスを表示するには、EXEC モードで `show ntpshow ntp` コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show ntp

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
コマンド モード	EXEC
使用上のガイドライン	Network Translation Protocol (NTP) 関連付けを表示するには、 <code>show ntpshow ntp</code> コマンドを使用します。

例

```
ise/admin# show ntp
Primary NTP   : ntp.esl.cisco.com
Secondary NTP : 171.68.10.150
Tertiary NTP  : 171.68.10.80
synchronised to local net at stratum 11
  time correct to within 11 ms
  polling server every 128 s
remote          refid  st t when poll reach delay offset jitter
=====
*127.127.1.0    .LOCL. 10 1 9   64  377  0.000  0.000  0.001
 171.68.10.80   .RMOT. 16 u 11   64   0   0.000  0.000  0.000
 171.68.10.150  .INIT. 16 u 11   64   0   0.000  0.000  0.000

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
ise/admin#
```

show ports

アクティブなポートをリッスンするすべてのプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで `show portsshow ports` コマンドを使用します。

`show ports > file-name`

構文の説明

<code>></code>	出力をファイルにリダイレクトします。
<code>file-name</code>	リダイレクトするファイルの名前。
<code>\</code>	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <code>begin</code> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>count</code> : 出力の行数をカウントします。単語 <code>count</code> の後に数字を追加します。 : <code>count</code> の出力修飾子変数。 • <code>end</code> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>exclude</code> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>include</code> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • <code>last</code> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <code>last</code> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 : <code>last</code> の出力修飾子変数。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

`show portsshow ports` コマンドを実行する場合、ポートがアクティブなセッションに関連付けられている必要があります。

例

```
ise/admin# show ports
Process : java (22648)
      tcp: 0.0.0.0:9024, 127.0.0.1:2020, 0.0.0.0:9060, 0.0.0.0:37252, 127.0.0.1:8
005, 0.0.0.0:9990, 0.0.0.0:8009, 0.0.0.0:8905, 0.0.0.0:5514, 0.0.0.0:1099, 0.0.0
.0:61616, 0.0.0.0:80, 127.0.0.1:8888, 0.0.0.0:9080, 0.0.0.0:62424, 0.0.0.0:8443,
```

```
0.0.0.0:443, 0.0.0.0:8444
  udp: 172.21.79.91:1812, 172.21.79.91:1813, 172.21.79.91:1700, 0.0.0.0:48425
, 172.21.79.91:8905, 172.21.79.91:3799, 0.0.0.0:54104, 172.21.79.91:57696, 172.2
1.79.91:1645, 172.21.79.91:1646
Process : timestenrepd (21516)
  tcp: 127.0.0.1:56513, 0.0.0.0:51312
Process : timestensubd (21421)
  tcp: 127.0.0.1:50598
Process : rpc.statd (3042)
  tcp: 0.0.0.0:680
  udp: 0.0.0.0:674, 0.0.0.0:677
Process : ttcserver (21425)
  tcp: 0.0.0.0:53385, 127.0.0.1:49293
Process : timestensubd (21420)
  tcp: 127.0.0.1:51370
Process : redis-server (21535)
  tcp: 0.0.0.0:6379
Process : portmap (2999)
  tcp: 0.0.0.0:111
  udp: 0.0.0.0:111
Process : Decap_main (22728)
--More--
```

show process

アクティブなプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで `show process` コマンドを使用します。

`show process > file-name`

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
	(任意)。出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を追加します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

表 2: `show process` のフィールドの説明

フィールド	説明
USER	ログインしたユーザ。
PID	プロセス ID。
TIME	コマンドが最後に使用された時刻。
TT	プロセスを制御する端末。
COMMAND	使用されたプロセスまたはコマンドのタイプ。

例

```
ise/admin# show process
USER      PID      TIME TT      COMMAND
root      1 00:00:02 ?      init
root      2 00:00:00 ?      migration/0
root      3 00:00:00 ?      ksoftirqd/0
root      4 00:00:00 ?      watchdog/0
root      5 00:00:00 ?      events/0
root      6 00:00:00 ?      khelper
root      7 00:00:00 ?      kthread
root      10 00:00:01 ?      kblockd/0
root      11 00:00:00 ?      kacpid
root      170 00:00:00 ?      cqueue/0
root      173 00:00:00 ?      khubd
root      175 00:00:00 ?      kseriod
root      239 00:00:32 ?      kswapd0
root      240 00:00:00 ?      aio/0
root      458 00:00:00 ?      kpsmoused
root      488 00:00:00 ?      mpt_poll_0
root      489 00:00:00 ?      scsi_eh_0
root      492 00:00:00 ?      ata/0
root      493 00:00:00 ?      ata_aux
root      500 00:00:00 ?      kstriped
root      509 00:00:07 ?      kjournald
root      536 00:00:00 ?      kauditd
root      569 00:00:00 ?      udevd
root      1663 00:00:00 ?      kmpathd/0
root      1664 00:00:00 ?      kmpath_handlerd
root      1691 00:00:00 ?      kjournald
root      1693 00:00:00 ?      kjournald
root      1695 00:00:00 ?      kjournald
root      1697 00:00:00 ?      kjournald
root      2284 00:00:00 ?      auditd
root      2286 00:00:00 ?      audispd
root      2318 00:00:10 ?      debugd
rpc      2350 00:00:00 ?      portmap
root      2381 00:00:00 ?      rpciod/0
--More--
ise/admin#
```

show repository

リポジトリのファイルの内容を表示するには、EXEC モードで `show repository` コマンドを使用します。

show repository *repository-name*

構文の説明

repository-name

内容を表示するリポジトリの名前。最大 30 文字の英数字をサポートします。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

リポジトリの内容を表示するには、`show repository` コマンドを使用します。

例

```
ise/admin# show repository myrepository
back1.tar.gpg
back2.tar.gpg
ise/admin#
```


show restore

復元履歴と復元のステータスを表示するには、EXEC モードで `show restore` コマンドを使用します。

show restore history status

構文の説明	history	システムの復元履歴を表示します。
	status	システムの復元の状態を表示します。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	例	

```
ise/admin# show restore history
Wed Apr 10 03:32:24 PDT 2013: restore mybackup-CFG-130410-0228.tar.gpg from repository
myrepository: success
Wed Apr 10 03:45:19 PDT 2013: restore mybackup1-OPS-130410-0302.tar.gpg from repository
myrepository: success
ise/admin#
ise/admin# show restore status
%% Configuration restore status
%% -----
% No data found. Try 'show restore history' or ISE operation audit report
%% Operation restore status
%% -----
% No data found. Try 'show restore history' or ISE operation audit report
ise/admin#
```

show running-config

現在の実行コンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで `show running-config` コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show running-config

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン `show running-config` コマンドは、すべての実行コンフィギュレーション情報を表示します。

例

```
ise/admin# show running-config
Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
```

```
!  
ise/admin#
```

show snmp engineid

デフォルトの、または設定したエンジンIDを表示するには、EXECモードで **show snmp engineid** コマンドを使用します。このコマンドは、デバイスで設定されたローカルSNMPエンジンおよびすべてのリモートエンジンのIDを表示します。

show snmp engineid

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

例

```
ise/admin# show snmp engineid
Local SNMP EngineID: 0x1234567
```

```
ise/admin#
```

show snmp user

定義されている snmp ユーザのリストを表示するには、EXEC モードで **show snmp user** コマンドを使用します。

show snmp user

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

例

```
ise/admin# show snmp user
User: snmp3
  EngineID: 80001f88044b4951504a375248374c55
  Auth Protocol: sha
  Priv Protocol: aes-128

ise/admin#
```

show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで `show startup-config` コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show startup-config

コマンド デフォルト なし

使用上のガイドライン `show startup-config` コマンドは、すべてのスタートアップ コンフィギュレーション情報を表示します。

例

```
ise/admin# show startup-config
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!
ise/admin#
```

show tech-support

電子メールなどのテクニカル サポート情報を表示するには、EXEC モードで `show tech-support` コマンドを使用します。

show tech-support > *file-name*

show tech-support file *file-name*

構文の説明	>	出力をファイルにリダイレクトします。
	file	任意のテクニカルサポートデータをファイルとしてローカルディスクに保存します。
	<i>file-name</i>	テクニカルサポートデータを保存するファイル名。最大 80 文字の英数字をサポートします。
コマンドデフォルト	パスワードやその他のセキュリティ情報は、出力には表示されません。	
コマンドモード	EXEC	
使用上のガイドライン	<code>show tech-support</code> コマンドは、トラブルシューティングの目的で、Cisco ISE サーバに関する大量の情報を収集するのに役立ちます。問題を報告するときに、テクニカルサポートの担当者に出力を提供します。	

例

```
ise/admin# show tech-support
*****
Displaying ISE version ...
*****
Cisco Identity Services Engine
-----
Version       : 1.3.0.862
Build Date    : Tue Oct 14 19:02:08 2014
Install Date  : Wed Oct 15 09:08:53 2014

*****
Displaying Clock ...
*****
Tue Oct 21 11:24:08 IST 2014

*****
Displaying UDI ...
*****
ISE-VM-K9

*****
Displaying ISE application status ....
*****
ISE PROCESS NAME                STATE                PROCESS ID
```

```
--More--
(prompt Spacebar to continue)
ise/admin#
```

例

```
ise/admin# show tech-support
*****
Displaying ISE version ...
*****
Cisco Identity Services Engine
-----
Version      : 1.4.0.205
Build Date   : Tue 03 Mar 2015 05:37:10 AM UTC
Install Date : Tue 03 Mar 2015 08:25:37 PM UTC

*****
Displaying Clock ...
*****
Mon Mar 16 03:51:35 UTC 2015

*****
Displaying UDI ...
*****
ISE-VM-K9

*****
Displaying ISE application status ...
*****
ISE PROCESS NAME                STATE                PROCESS ID
--More--
(prompt Spacebar to continue)
ise/admin#
```


show terminal

端末コンフィギュレーションパラメータの設定に関する情報を取得するには、EXECモードで `show terminal` **show terminal** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show terminal

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン 次の表では、**show terminal** 出力のフィールドについて説明します。

表 3: *show terminal* のフィールドの説明

フィールド	説明
TTY: /dev/pts/0	端末のタイプに対する標準の出力を表示します。
Type: "vt100"	現在使用されている端末のタイプ。
Length: 27 lines	端末ディスプレイの長さ。
Width: 80 columns	端末ディスプレイの文字カラムの幅。
Session Timeout: 30 minutes	セッションで、接続を終了するまでの時間（単位：分）。

例

```
ise/admin# show terminal
TTY: /dev/pts/0 Type: "vt100"
Length: 27 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: 30 minutes
ise/admin#
```

show timezone

システムに設定されている時間帯を表示するには、EXEC モードで `show timezoneshow timezone` コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show timezone

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン 例

```
ise/admin# show timezone
UTC
ise/admin#
```

show timezones

選択可能な時間帯のリストを取得するには、EXEC モードで `show timezones` コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show timezones

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
コマンド モード	EXEC
使用上のガイドライン	Cisco ISE サーバで使用可能な時間帯の例については、「clock timezone」の項を参照してください。

例

```
ise/admin# show timezones
Africa/Cairo
Africa/Banjul
Africa/Nouakchott
Africa/Gaborone
Africa/Bangui
Africa/Malabo
Africa/Lusaka
Africa/Conakry
Africa/Freetown
Africa/Bamako
--More--
(press Spacebar to continue)
ise/admin#
```

show udi

Cisco ISE アプライアンスの固有デバイス識別子 (UDI) に関する情報を表示するには、EXEC モードで `show udi` コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

show udi

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン 例 1

```
ise/admin# show udi
SPID: ISE-3415-K9
VPID: V01
Serial: LAB12345678
ise/admin#
```

例 2

次の出力は、VMware サーバで `show udi` コマンドを実行したときに表示されます。

```
ise/admin# show udi
SPID: ISE-VM-K9
VPID: V01
Serial: 5C79C84ML9H
ise/admin#
```

show uptime

Cisco ISE サーバが最後にリブートされてからの実行時間を表示するには、EXEC モードで **show uptime** コマンドを使用します。

show uptime > *file-name*

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を追加します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン この **show uptime** を使用して、Cisco ISE サーバが最後にリブートされてからの実行時間を確認します。

例

```
ise/admin# show uptime
3 day(s), 18:55:02
ise/admin#
```

show users

Cisco ISE サーバにログインしているユーザの一覧を表示するには、EXEC モードで `show users` コマンドを使用します。

`show users > file-name`

構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を追加します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

この `show users` コマンドは、Cisco ISE サーバにログインしているユーザの一覧を確認する場合に使用します。

例

```
ise/admin# show users
USERNAME          ROLE   HOST                TTY   LOGIN DATETIME
admin             Admin  10.77.202.52       pts/0 Tue Feb 26 20:36:41 2013
-----
DETACHED SESSIONS:
-----
USERNAME          ROLE   STARTDATE
% No disconnected user sessions present
ise/admin#
```

show version

システムのソフトウェアバージョンに関する情報およびソフトウェアのインストール情報を表示するには、EXEC モードで `show versionshow version` コマンドを使用します。

show version > *file-name*

show version history

構文の説明	>	出力をファイルにリダイレクトします。
	<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
	history	ソフトウェア バージョンの履歴情報を示します。
		出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • begin : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • count : 出力の行数をカウントします。単語 count の後に数字を追加します。 • end : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • exclude : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • include : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • last : 出力の最後の数行を表示します。単語 last の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	EXEC	
使用上のガイドライン	このコマンドは、Cisco ISE サーバで動作している Cisco ADE-OS ソフトウェアに関するバージョン情報を表示し、Cisco ISE のバージョンも表示します。	

例 1

```
ise/admin# show version
```

```
Cisco Application Deployment Engine OS Release: 3.0
ADE-OS Build Version: 3.0.3.030
```

```
ADE-OS System Architecture: x86_64

Copyright (c) 2005-2014 by Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.
Hostname: docs-ise-23-lnx
```

```
Version information of installed applications
-----
```

```
Cisco Identity Services Engine
-----
```

```
Version      : 2.3.0.297
Build Date   : Mon Jul 24 18:51:29 2017
Install Date : Wed Jul 26 13:59:41 2017
```

```
ise/admin#
```

例 2

```
ise/admin# show version history
-----
```

```
Install Date: Wed Jul 26 19:02:13 UTC 2017
Application: ise
Version: 2.3.0.297
Install type: Application Install
Bundle filename: ise.tar.gz
Repository: SystemDefaultPkgRepos
ise/admin#
```




コンフィギュレーションモードの Cisco ISE CLI コマンド

この章では、Cisco ISE コマンドラインインターフェイス (CLI) のコンフィギュレーション (config) モードで使用するコマンドについて説明します。この章では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。

- EXEC モードでのコンフィギュレーションモードへの切り替え (163 ページ)
- コンフィギュレーションモードでの Cisco ISE の設定 (164 ページ)
- コンフィギュレーションサブモードでの Cisco ISE の設定 (165 ページ)
- CLI コンフィギュレーションコマンドのデフォルト設定 (166 ページ)
- backup interface (167 ページ)
- cdp holdtime (172 ページ)
- cdp run (173 ページ)
- cdp timer (174 ページ)
- clock timezone (175 ページ)
- conn-limit (179 ページ)
- do (180 ページ)
- 終了 (184 ページ)
- exit (185 ページ)
- hostname (186 ページ)
- icmp echo (188 ページ)
- interface (189 ページ)
- ipv6 address autoconfig (191 ページ)
- ipv6 address dhcp (193 ページ)
- ip address (194 ページ)
- ipv6 address (196 ページ)
- ipv6 enable (198 ページ)
- ip default-gateway (200 ページ)
- ip domain-name (201 ページ)

- ip host (203 ページ)
- ip name-server (206 ページ)
- ip route (208 ページ)
- ipv6 route (210 ページ)
- kron occurrence (212 ページ)
- kron policy-list (215 ページ)
- logging (217 ページ)
- max-ssh-sessions (218 ページ)
- ntp (219 ページ)
- ntp authenticate (220 ページ)
- ntp authentication-key (221 ページ)
- ntp server (223 ページ)
- ntp trusted-key (228 ページ)
- rate-limit (229 ページ)
- password-policy (230 ページ)
- リポジトリ (232 ページ)
- service (235 ページ)
- shutdown (237 ページ)
- snmp-server enable (238 ページ)
- snmp-server user (239 ページ)
- snmp-server host (242 ページ)
- snmp-server community (245 ページ)
- snmp-server contact (247 ページ)
- snmp-server location (248 ページ)
- snmp-server trap dskThresholdLimit (249 ページ)
- snmp engineid (250 ページ)
- username (251 ページ)

EXEC モードでのコンフィギュレーションモードへの切り替え

EXEC モードで `configure` または `configure terminal (conf t)` コマンドを実行すると、コンフィギュレーションモードを開始できます。

Cisco ISE CLI から EXEC モードでコンフィギュレーション コマンドを直接入力することはできません。一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コマンド コンフィギュレーションを完了するために、コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

コンフィギュレーションモードを終了するには、`exit` または `end` コマンドを入力するか、`Ctrl+z` コマンドを押します。

コンフィギュレーション コマンドには、`interface`、`Policy List`、`repository` などがあります。

コンフィギュレーションモードで設定作業を実行できます。コンフィギュレーションの変更内容を保存して、システムのリロードや停電時に変更内容が失われないようにする必要があります。

コンフィギュレーションを保存すると、これらのコマンドは、次のいずれかのコマンドを実行した場合に限り、Cisco ISE サーバのリブート後もそのまま有効です。

- `copy running-config startup-config`
- `write memory`

コンフィギュレーションモードでの Cisco ISE の設定

コンフィギュレーション コマンドおよびコンフィギュレーション サブモード コマンドを入力して、Cisco ISE サーバの実際の設定をコンフィギュレーションモードで変更できます。

ステップ 1 `configure terminal` を入力して、コンフィギュレーションモードを開始します。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL-Z.
ise/admin(config)# (configuration mode)
```

ステップ 2 疑問符 (?) を入力して、コンフィギュレーションモードのコマンドの一覧を表示します。

```
ise/admin(config)# ?
Configure commands:
cdp                CDP Configuration parameters
clock              Configure timezone
conn-limit         Configure a TCP connection limit from source IP
do                EXEC command
end                Exit from configure mode
exit               Exit from configure mode
hostname           Configure hostname
icmp               Configure icmp echo requests
interface          Configure interface
ip                 Configure IP features
kron               Configure command scheduler
logging            Configure system logging
max-ssh-sessions  Configure number of concurrent SSH sessions
no                 Negate a command or set its defaults
ntp                Specify NTP configuration
password-policy   Password Policy Configuration
rate-limit         Configure a TCP/UDP/ICMP packet rate limit from source IP
repository         Configure Repository
service            Specify service to manage
snmp-server        Configure snmp server
synflood-limit    Configure a TCP SYN packet rate limit
username           User creation
```

ステップ 3 コンフィギュレーションサブモードを開始します。コンフィギュレーションモードには数種類のコンフィギュレーションサブモードがあります。各サブモードに入ると、プロンプト階層のさらに深いレベルで操作できます。このレベルから、Cisco ISE コンフィギュレーションに直接コマンドを入力できます。

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

ステップ 4 コンフィギュレーションモードと EXEC モードの両方を終了するには、コマンドプロンプトで `exit` を順に入力します。`exit` と入力すると、Cisco ISE はユーザのレベルを 1 段階戻し、前のレベルに戻します。もう一度 `exit` と入力すると、Cisco ISE はユーザを EXEC レベルに戻します。

```
ise/admin(config)# exit
ise/admin# exit
```

コンフィギュレーションサブモードでの Cisco ISE の設定

コンフィギュレーションサブモードで特定の設定のコマンドを入力できます。このプロンプトを終了してコンフィギュレーションプロンプトに戻る場合は、**exit** コマンドまたは **end** コマンドを使用できます。

ステップ 1 **configure terminal** を入力して、コンフィギュレーションモードを開始します。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL-Z.
ise/admin(config)# (configuration mode)
```

ステップ 2 コンフィギュレーションサブモードを開始します。

```
ise/admin# configure terminal
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ?
Configure ethernet interface:
  backup    Configure NIC bonding feature
  do        EXEC command
  end       Exit from configure mode
  exit      Exit from this submode
  ip        Configure IP features
  ipv6     Configure IPv6 features
  no        Negate a command or set its defaults
  shutdown  Shutdown the interface
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

ステップ 3 コマンドプロンプトで **exit** を入力して、コンフィギュレーションサブモードとコンフィギュレーションモードの両方を終了します。

```
ise/admin(config-GigabitEthernet)# exit
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

CLI コンフィギュレーションコマンドのデフォルト設定

CLI コンフィギュレーションコマンドには、**default** 形式があることがあります。この形式は、コマンド設定をデフォルト値に戻します。ほとんどのコマンドはデフォルトでディセーブルに設定されているため、この場合はコマンドで **default** 形式を使用しても **no** 形式を使用しても同じ結果になります。

ただし、デフォルトでイネーブルに設定されていて、なおかつ変数が特定のデフォルト値に設定されているコマンドもあります。そのような場合に **default** 形式のコマンドを使用すると、コマンドがイネーブルになり、変数がデフォルト値に設定されます。

backup interface

高可用性のために単一の仮想インターフェイスに2つのイーサネットインターフェイスを設定 (NIC ボンディング機能または NIC チューニング機能とも呼ばれる) するには、コンフィギュレーションサブモードで **backup interface** コマンドを使用します。NIC ボンディング設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。2つのインターフェイスをボンディングすると、2つの NIC は1つの MAC アドレスを持つ単一のデバイスとして認識されます。

Cisco ISE の NIC ボンディング機能は、ロードバランシングまたはリンク アグリゲーション機能をサポートしていません。Cisco ISE は、NIC ボンディングの高可用性機能だけをサポートします。

インターフェイスのボンディングでは、次の状況でも Cisco ISE サービスが影響を受けないことを保証します。

- 物理インターフェイスの障害
- スイッチ ポート接続の喪失 (シャットダウンまたは障害)
- スイッチ ラインカードの障害

2つのインターフェイスをボンディングすると、インターフェイスの一方がプライマリ インターフェイスになり、もう一方はバックアップインターフェイスになります。2つのインターフェイスをボンディングすると、すべてのトラフィックは通常、プライマリインターフェイスを通過します。プライマリ インターフェイスが何らかの理由で失敗すると、バックアップインターフェイスがすべてのトラフィックを引き継いで処理します。ボンディングにはプライマリ インターフェイスの IP アドレスと MAC アドレスが必要です。

NIC ボンディング機能を設定する際に、Cisco ISE は固定物理 NIC を組み合わせて NIC のボンディングを形成します。ボンディングインターフェイスを形成するためにボンディングすることができる NIC について、次の表に概要を示します。

Cisco ISE の物理 NIC の名前	Linux 物理 NIC の名前	ボンディングされた NIC の役割	ボンディングされた NIC の名前
ギガビットイーサネット 0	Eth0	プライマリ (Primary)	ボンド 0
ギガビットイーサネット 1	Eth1	バックアップ	
ギガビットイーサネット 2	Eth2	プライマリ (Primary)	ボンド 1
ギガビットイーサネット 3	Eth3	バックアップ	

Cisco ISE の物理 NIC の名前	Linux 物理 NIC の名前	ボンディングされた NIC の役割	ボンディングされた NIC の名前
ギガビットイーサネット 4	Eth4	プライマリ (Primary)	ボンド 2
ギガビットイーサネット 5	Eth5	バックアップ	

NIC ボンディング機能は、サポートされているすべてのプラットフォームとノードペルソナでサポートされています。サポートされるプラットフォームは次のとおりです。

- SNS-3400 シリーズ アプライアンス：ボンド 0 および 1 (Cisco ISE 3400 シリーズ アプライアンスは最大 4 個の NIC をサポート)
- SNS-3500 シリーズ アプライアンス：ボンド 0、1、および 2
- VMware 仮想マシン：ボンド 0、1、および 2 (6 つの NIC が仮想マシンで使用可能な場合)
- Linux KVM ノード：ボンド 0、1、および 2 (6 つの NIC が仮想マシンで使用可能な場合)

構文の説明

backup interface	NIC ボンディング機能を設定します。
GigabitEthernet	バックアップ インターフェイスとして指定されるギガビットイーサネット インターフェイスを設定します。
0 ~ 3	バックアップ インターフェイスとして設定するギガビットイーサネット ポートの数。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション サブモード (config-GigabitEthernet)#

使用上のガイドライン

- Cisco ISE は最大 6 つのイーサネット インターフェイスをサポートするので、ボンドは 3 つ (ボンド 0、ボンド 1、ボンド 2) のみ設定できます。
- ボンドに含まれるインターフェイスを変更したり、ボンドのインターフェイスの役割を変更したりすることはできません。ボンディングできる NIC とボンドでの役割についての情報については、上記の表を参照してください。
- Eth0 インターフェイスは、管理インターフェイスとランタイム インターフェイスの両方として機能します。その他のインターフェイスは、ランタイムインターフェイスとして機能します。
- ボンドを作成する前に、プライマリ インターフェイス (プライマリ NIC) に IP アドレスを割り当てる必要があります。ボンド 0 を作成する前は、Eth0 インターフェイスに IPv4 アドレスを割り当てる必要があります。同様に、ボンド 1 と 2 を作成する前は、Eth2 と

Eth4 インターフェイスに IPv4 または IPv6 アドレスをそれぞれ割り当てる必要があります。

- ボンドを作成する前に、バックアップ インターフェイス (Eth1、Eth3、および Eth5) に IP アドレスが割り当てられている場合は、バックアップ インターフェイスからその IP アドレスを削除します。バックアップ インターフェイスには IP アドレスを割り当てないでください。
- ボンドを 1 つのみ (ボンド 0) 作成し、残りのインターフェイスをそのままにすることもできます。この場合、ボンド 0 は管理インターフェイスとランタイムインターフェイスとして機能し、残りのインターフェイスはランタイムインターフェイスとして機能します。
- ボンドでは、プライマリ インターフェイスの IP アドレスを変更できます。プライマリ インターフェイスの IP アドレスと想定されるので、新しい IP アドレスがボンディングされたインターフェイスに割り当てられます。
- 2 つのインターフェイス間のボンドを削除すると、ボンディングされたインターフェイスに割り当てられていた IP アドレスは、プライマリ インターフェイスに再び割り当てられます。
- 展開に含まれる Cisco ISE ノードで NIC ボンディング機能を設定するには、そのノードを展開から登録解除し、NIC ボンディングを設定して、展開に再度登録する必要があります。
- ボンド (Eth0、Eth2、または Eth4 インターフェイス) のプライマリ インターフェイスとして機能する物理インターフェイスにスタティックルートが設定されている場合は、物理インターフェイスではなくボンディングされたインターフェイスで動作するようにスタティック ルートが自動的に更新されます。

例 1 : NIC ボンディングの設定

次の手順では、Eth0 と Eth1 インターフェイス間にボンド 0 を設定する方法を説明します。



- (注) バックアップ インターフェイスとして動作する物理インターフェイス (Eth1、Eth3、Eth5 インターフェイスなど) に IP アドレスが設定されている場合は、バックアップ インターフェイスからその IP アドレスを削除する必要があります。バックアップ インターフェイスには IP アドレスを割り当てないでください。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# interface gigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)# backup interface gigabitEthernet 1
Changing backup interface configuration may cause ISE services to restart.
Are you sure you want to proceed? Y/N [N]: Y
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE PassiveID Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
```

```

Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE EST Service...
ISE Sxp Engine Service is disabled
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Indexing Engine...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Indexing Engine...
Starting ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE EST Service...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE AD Connector...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
ise/admin(config-GigabitEthernet)#

```

例 2 : NIC ボンディングの設定の確認

NIC ボンディング機能が設定されているかどうかを確認するには、Cisco ISE CLI から **show running-config** コマンドを実行します。次のような出力が表示されます。

```

!
interface GigabitEthernet 0
  ipv6 address autoconfig
  ipv6 enable
  backup interface GigabitEthernet 1
  ip address 192.168.118.214 255.255.255.0
!

```

上記の出力では、「**backup interface GigabitEthernet 1**」は、ギガビットイーサネット 0 に NIC ボンディングが設定されていて、ギガビットイーサネット 0 がプライマリ インターフェイス、ギガビットイーサネット 1 がバックアップ インターフェイスとされていることを示します。また、ADE-OS 設定では、プライマリおよびバックアップのインターフェイスに効果的に同じ IP アドレスを設定していても、**running config** でバックアップ インターフェイスの IP アドレスは表示されません。

また、**show interfaces** コマンドを実行して、ボンディングされたインターフェイスを表示できます。

```

ise/admin# show interface
bond0: flags=5187<UP,BROADCAST,RUNNING,MASTER,MULTICAST> mtu 1500
  inet 10.126.107.60 netmask 255.255.255.0 broadcast 10.126.107.255
  inet6 fe80::8a5a:92ff:fe88:4aea prefixlen 64 scopeid 0x20<link>
  ether 88:5a:92:88:4a:ea txqueuelen 0 (Ethernet)
  RX packets 1726027 bytes 307336369 (293.0 MiB)
  RX errors 0 dropped 844 overruns 0 frame 0
  TX packets 1295620 bytes 1073397536 (1023.6 MiB)
  TX errors 0 dropped 0 overruns 0 carrier 0 collisions 0

GigabitEthernet 0
  flags=6211<UP,BROADCAST,RUNNING,SLAVE,MULTICAST> mtu 1500

```

```

ether 88:5a:92:88:4a:ea txqueuelen 1000 (Ethernet)
RX packets 1726027 bytes 307336369 (293.0 MiB)
RX errors 0 dropped 844 overruns 0 frame 0
TX packets 1295620 bytes 1073397536 (1023.6 MiB)
TX errors 0 dropped 0 overruns 0 carrier 0 collisions 0
device memory 0xfab00000-fabfffff

GigabitEthernet 1
flags=6147<UP,BROADCAST,SLAVE,MULTICAST> mtu 1500
ether 88:5a:92:88:4a:ea txqueuelen 1000 (Ethernet)
RX packets 0 bytes 0 (0.0 B)
RX errors 0 dropped 0 overruns 0 frame 0
TX packets 0 bytes 0 (0.0 B)
TX errors 0 dropped 0 overruns 0 carrier 0 collisions 0
device memory 0xfaa00000-faafffff
    
```

cdp holdtime

受信デバイスが Cisco ISE サーバからの Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでの保持時間を指定するには、コンフィギュレーションモードで **cdp holdtime** **cdp holdtime** コマンドを使用します。

cdp holdtime 秒

デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no cdp holdtime

構文の説明

holdtime	アダプタイズされた Cisco Discovery Protocol の保持時間を指定します。
秒	秒単位のアダプタイズされた保持時間値。値の範囲は、10 ~ 255 秒です。

コマンド デフォルト

CDP 保持時間のデフォルト値は、180 秒です。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

Cisco Discovery Protocol パケットを存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。受信デバイスは、保持時間の経過後に、Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を廃棄します。

cdp holdtime **cdp holdtime** コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

例

```
ise/admin(config)# cdp holdtime 60
ise/admin(config)#
```

cdp run

すべてのインターフェイスで Cisco Discovery Protocol をイネーブルにするには、コンフィギュレーションモードで **cdp run cdp run** コマンドを使用します。

cdp run GigabitEthernet

Cisco Discovery Protocol をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no cdp run

構文の説明

run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。 cdp run cdp run コマンドの no 形式を使用した場合は、Cisco Discovery Protocol がディセーブルになります。
<i>GigabitEthernet</i>	(任意)。Cisco Discovery Protocol をイネーブルにする GigabitEthernet インターフェイスを指定します。
0-3	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにする GigabitEthernet インターフェイス番号を指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

このコマンドでは、1つのオプションの引数（インターフェイス名）を指定します。オプションのインターフェイス名を指定しない場合、このコマンドは、すべてのインターフェイス上で Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。



- (注) このコマンドのデフォルトでは、すでに実行されているインターフェイスで動作します。インターフェイスの起動時に、最初に Cisco Discovery Protocol を停止します。次に、Cisco Discovery Protocol を起動します。

例

```
ise/admin(config)# cdp run GigabitEthernet 0
ise/admin(config)#
```

cdp timer

Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol アップデートを送信する頻度を指定するには、コンフィギュレーションモードで `cdp timer` **cdp timer** コマンドを使用します。

cdp timer 秒

デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no cdp timer

構文の説明	timer	指定した間隔で更新されます。
	秒	Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol 更新を送信する頻度を秒単位で指定します。値の範囲は、5 ~ 254 秒です。
コマンド デフォルト	更新間隔値のデフォルトは 60 秒です。	
コマンド モード	コンフィギュレーション (config) #	
使用上のガイドライン	Cisco Discovery Protocol パケットを存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。受信デバイスは、保持時間の経過後に、Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を廃棄します。	
	cdp timer cdp timer コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。	
	例	
	<pre>ise/admin(config)# cdp timer 60 ise/admin(config)#</pre>	

clock timezone

時間帯を設定するには、コンフィギュレーションモードで `clock timezone` コマンドを実行します。

clock timezone タイムゾーン

時間帯をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no clock timezone

構文の説明

timezone	システムの時間帯を設定します。
タイムゾーン	標準時に表示する時間帯の名前。最大 64 文字の英数字をサポートします。

プライマリ管理ノード (PAN) の自動フェールオーバー設定をイネーブルにしている場合は、時間帯を設定する前にディセーブルにしてください。時間帯を設定した後でイネーブルに戻すことができます。

コマンドデフォルト

協定世界時 (UTC)

コマンドモード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

システムの内部的には、UTC での時刻が保持されます。特定の時間帯がわからない場合は、地域、国、都市を入力できます (システムに入力する共通の時間帯およびオーストラリアとアジアの時間帯については、表 4-1、4-2、4-3 を参照)。



(注) これ以外にも使用可能な時間帯がいくつかあります。 **show timezones** を入力すると、使用可能なすべての時間帯のリストが Cisco ISE サーバに表示されます。該当地域の時間帯に最も適した時間帯を選択します。

展開内で PAN の自動フェールオーバー設定がイネーブルになっていると、次のメッセージが表示されます。

```
PAN Auto Failover is enabled, this operation is not
allowed! Please disable PAN Auto-failover first.
```

例

```
ise/admin(config)# clock timezone EST
ise/admin(config)# exit
ise/admin# show timezone
EST
ise/admin#
```

Cisco ISE ノードの時間帯の復元

警告 インストール後に Cisco ISE アプライアンス上で時間帯を変更すると、そのノード上で Cisco ISE アプリケーションを使用できなくなります。ただし、初期設定ウィザードで時間帯の設定を求めるプロンプトが表示されたら、優先する時間帯（デフォルト UTC）をインストール中に設定できます。

時間帯の変更は、導入の異なる Cisco ISE ノードタイプに影響を与えます。

影響から回復するには、次の手順を使用します。

スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノード

インストールの後の時間帯の変更は、スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノードでサポートされていません。

誤って時間帯を変更した場合は、次の手順を実行します。

- 時間帯に戻ります。（変更される前の時間帯）。
- そのノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- そのノードで時間帯が変更される前の、正常な既知の最終バックアップから復元します。

セカンダリ ISE ノード

セカンダリ ノードで時間帯を変更すると、導入に使用できなくなります。

プライマリ ノードの時間帯と同じになるようにセカンダリ ノードの時間帯を変更する場合、次の手順を実行します。

- セカンダリ ノードの登録を解除します。
- プライマリ ノードと同じになるように時間帯を修正します。
- そのノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- プライマリ ノードにセカンダリ ノードとしてノードを再登録します。

共通の時間帯

表 4: 表 4-1 共通の時間帯（続き）

略語または名前	時間帯名
欧州	
GMT、GMT0、GMT-0、GMT+0、UTC、Greenwich、Universal、Zulu	グリニッジ標準時 (UTC)
GB	英国

略語または名前	時間帯名
GB-Eire、Eire	アイルランド
WET	西ヨーロッパ時間 (UTC)
CET	中央ヨーロッパ標準時 (UTC + 1 時間)
EET	東ヨーロッパ時間 (UTC + 2 時間)
米国とカナダ	
EST、EST5EDT	東部標準時、UTC - 5 時間
CST、CST6CDT	中央標準時、UTC - 6 時間
MST、MST7MDT	山岳部標準時、UTC - 7 時間
PST、PST8PDT	太平洋標準時、UTC - 8 時間
HST	ハワイ標準時、UTC - 10 時間

オーストラリアのタイムゾーン



(注) オーストラリアの時間帯では、国と都市をスラッシュ (/) で区切って入力します (例 : Australia/Currie)。

表 5: 表 4-2 オーストラリアの時間帯 (続き)

オーストラリア			
Australian Capital Territory (ACT)	Adelaide	Brisbane	Broken_Hill
Canberra	Currie	Darwin	Hobart
Lord_Howe	Lindeman	Lord Howe Island (LHI)	Melbourne
North	New South Wales (NSW)	Perth	Queensland
South	Sydney	Tasmania	Victoria
West	Yancowinna		

アジアのタイムゾーン



(注) アジアの時間帯には、東アジア、南アジア、東南アジア、西アジア、および中央アジアがあります。地域と都市または国をスラッシュ (/) で区切って入力します (例: Asia/Aden)。

表 6: 表 4-3 アジアの時間帯 (続き)

Asia			
Aden	Almaty	Amman	Anadyr
Aqtau	Aqtobe	Ashgabat	Ashkhabad
Baghdad	バーレーン	Baku	Bangkok
Beirut	Bishkek	ブルネイ	Calcutta
Choibalsan	Chongqing	Colombo	Damascus
Dhakar	Dili	Dubai	Dushanbe
Gaza	Harbin	Hong_Kong	Hovd
Irkutsk	Istanbul	Jakarta	Jayapura
Jerusalem	Kabul	Kamchatka	Karachi
Kashgar	Katmandu	Kuala_Lumpur	Kuching
クウェート	Krasnoyarsk		

conn-limit

送信元 IP アドレスからの着信 TCP 接続の制限を設定するには、コンフィギュレーションモードで `conn-limitconn-limit` コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

構文の説明	<1-2147483647>	TCP 接続の数。
	<i>ip</i>	(任意)。TCP 接続制限を適用する送信元 IP アドレス。
	<i>mask</i>	(任意)。TCP 接続制限を適用する送信元 IP マスク。
	ポート	(任意)。TCP 接続制限を適用する宛先ポート番号。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン この `conn-limitconn-limit` コマンドは、TCP 接続が 99 を超える場合に使用します。100 未満の接続の場合は、次の警告が表示されます。

% Warning: Setting a small conn-limit may adversely affect system performance

例

```
ise/admin(config)# conn-limit 25000 ip 77.10.122.133 port 22
ise/admin(config)# end
ise/admin
```

do

コンフィギュレーション モードまたは任意のコンフィギュレーション サブモードから EXEC システム レベルのコマンドを実行するには、いずれかのコンフィギュレーション モードで **do** コマンドを使用します。

do EXEC commands

構文の説明

<i>EXEC commands</i>	EXEC システム レベルのコマンドを実行することを指定します (表 7: 表 4-4 do コマンドのコマンド オプション (続き) を参照)。
----------------------	---

表 7: 表 4-4 do コマンドのコマンド オプション (続き)

コマンド (Command)	説明
application configure	特定のアプリケーションを設定します。
application install	特定のアプリケーションをインストールします。
application remove	特定のアプリケーションを削除します。
application reset-config	アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
application reset-passwd	指定したユーザのアプリケーション パスワードをリセットします。
application start	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	特定のアプリケーションをアップグレードします。
backup	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
backup-logs	Cisco ISE サーバに記録されているすべてのログをリモートの場所にバックアップします。
clock	Cisco ISE サーバのシステム クロックを設定します。

コマンド (Command)	説明
configure	設定モードを開始します。
copy	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
debug	さまざまなコマンド状況（たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など）で、エラーまたはイベントを表示します。
delete	Cisco ISE サーバ上のファイルを削除します。
dir	Cisco ISE サーバのファイルを一覧表示します。
forceout	特定の Cisco ISE ノードユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
halt	Cisco ISE サーバをディセーブルにするか、シャットダウンします。
mkdir	新しいディレクトリを作成します。
nslookup	リモートシステムの IPv4 または IPv6 アドレス、あるいはホスト名を問い合わせます。
password	CLI アカウントパスワードを更新します。
patch	パッチバンドルをインストールする、またはアプリケーションのパッチをアンインストールします。
ping	リモートシステムの IPv4 アドレスまたはホスト名を特定します。
ping6	リモートシステムの IPv6 アドレスを特定します。
reload	Cisco ISE サーバを再起動します。
restore	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
rmdir	既存のディレクトリを削除します。
show	Cisco ISE サーバに関する情報を提供します。

コマンド (Command)	説明
ssh	リモート システムとの暗号化されたセッションを開始します。
tech	Technical Assistance Center (TAC) コマンドを提供します。
telnet	リモート システムへの Telnet 接続を確立します。
terminal length	端末回線のパラメータを設定します。
terminal session-timeout	すべてのターミナルセッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。
terminal session-welcome	すべてのターミナルセッションで表示される初期メッセージをシステムに設定します。
terminal terminal-type	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
traceroute	リモート IP アドレスのルートを追跡します。
undebug	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など) で、 debug コマンドの出力 (エラーまたはイベントの表示) をディセーブルにします。
write	強制的にセットアップユーティリティを実行してネットワーク コンフィギュレーションをプロンプトするスタートアップ コンフィギュレーションを消去し、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーし、コンソールに実行コンフィギュレーションを表示します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) # または任意のコンフィギュレーション サブモード (config-GigabitEthernet) # と (config-Repository) #

使用上のガイドライン この **dodo** コマンドは、Cisco **showISEclear** サーバの設定中に、EXEC コマンド (show、clear、**debugdebug** コマンドなど) を実行する場合に使用します。EXEC コマンドの実行後、システムは使用していたコンフィギュレーション モードに戻ります。

例

```

ise/admin(config)# do show run
Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone EST
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
--More--
ise/admin(config)#

```

終了

現在のコンフィギュレーションセッションを終了して、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーションモードで **endend** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

end

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン このコマンドは、現在のコンフィギュレーションモードやサブモードにかかわらず、EXEC モードに移行します。

このコマンドは、システム設定を終了し、EXEC モードに戻って、検証手順を実行する場合に使用します。

例

```
ise/admin(config)# end
ise/admin#
```


exit

コンフィギュレーションモードを終了して、CLI モード階層で次に高いモードに移行するには、コンフィギュレーションモードで **exitexit** コマンドを使用します。

exit

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン **exitexit** コマンドは、Cisco ISE サーバで現在のコマンドモードを終了して、CLI モード階層の次に高いコマンドモードに移行する場合に使用します。

たとえば、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーションモードで **exitexit** コマンドを使用します。コンフィギュレーションサブモードで **exitexit** コマンドを使用すると、コンフィギュレーションモードに戻ります。最上位の EXEC モードで **exitexit** コマンドを使用すると、EXEC モードを終了して、Cisco ISE サーバから接続解除されます。

例

```
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

hostname

システムのホスト名を設定するには、コンフィギュレーションモードで `hostnamehostname` コマンドを使用します。

hostname *hostname*

構文の説明

hostname ホストの名前。19 文字までの英数字と下線 (`_`) をサポートします。ホスト名はスペース以外の文字で始める必要があります。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

(注) 「hostname」コマンドの CLI 設定変更中に「Ctrl+C」を発行すると、ホスト名を変更する場合、一部のアプリケーションコンポーネントは古いホスト名を持ち、他のコンポーネントは新しいホスト名を使用する状態になる可能性があります。これにより、Cisco ISE ノードは機能していない状態になります。

これを回避するには、別の「hostname」コンフィギュレーション CLI を発行して、ホスト名を目的の値に設定します。

現在のホスト名を変更するには、`hostnamehostname` コマンドを使用します。シングルインスタンスタイプのコマンドである `hostnamehostname` は、システムの設定時に一度だけ実行します。ホスト名には 1 つの引数を含める必要があります。引数がない場合、エラーが発生します。

このコマンドによって Cisco ISE サーバのホスト名を更新すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
% Warning: Updating the hostname will cause any certificate using the old
% hostname to become invalid. Therefore, a new self-signed
% certificate using the new hostname will be generated now for
% use with HTTPs/EAP. If CA-signed certs were used on this node,
% please import them with the correct hostname. In addition, if
% this ISE node will be joining a new Active Directory domain,
% please leave your current Active Directory domain before
% proceeding. If this ISE node is already joined to
% an Active Directory domain, then it is strongly advised
% to rejoin all currently joined join-points in order to
% avoid possible mismatch between current and previous
% hostname and joined machine account name.
```

例

```
ise/admin(config)# hostname new-hostname
% Changing the hostname will cause ISE services to restart
```

```
Continue with hostname change? Y/N [N]: y
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
ISE Database processes already running, PID: 9651
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE AD Connector...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
ise-1/admin#
```

icmp echo

インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー応答を設定するには、コンフィギュレーションモードで `icmp echo` コマンドを使用します。

`icmp echo {off|on}`

構文の説明

<code>echo</code>	ICMP エコー応答を設定します。
<code>off</code>	ICMP エコー応答をディセーブルにします。
<code>on</code>	ICMP エコー応答をイネーブルにします。

コマンド デフォルト

システムは ICMP エコー応答がオン (イネーブル) の場合と同様に動作します。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

この `icmp echo` は、ICMP エコー応答をオンまたはオフにする場合に使用します。

例

```
ise/admin(config)# icmp echo off
ise/admin(config)#
```

interface

インターフェイスタイプを設定してインターフェイス コンフィギュレーションモードを開始するには、コンフィギュレーションモードで **interfaceinterface** コマンドを使用します。このコマンドには **no** 形式はありません。



- (注) VMware 仮想マシンで使用可能なインターフェイスの数は、仮想マシンに追加されるネットワーク インターフェイス (NIC) の数によって異なることがあります。

interface GigabitEthernet {0 | 1 | 2 | 3}

構文の説明

GigabitEthernet	ギガビットイーサネット インターフェイスを設定します。
0 ~ 3	設定するギガビットイーサネット ポートの数。



- (注) **interfaceinterface** コマンドでギガビットイーサネット ポートの数を入力すると、**config-GigabitEthernet** コンフィギュレーションサブモードが開始されます (次の「構文の説明」を参照)。

構文の説明

backup	NIC ボンディング機能を設定して、物理インターフェイスに高可用性を提供します。
do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できます。
end	config-GigabitEthernet サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	config-GigabitEthernet コンフィギュレーションサブモードを終了します。
ip	ギガビットイーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
ipv6	DHCPv6 サーバから IPv6 アドレス自動設定および IPv6 アドレスを設定します。

no	<p>このモードのコマンドを否定します。2つのキーワードを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ip : インターフェイスのIPアドレスとネットマスクを設定します。 • ipv6 : インターフェイスのIPv6アドレスを設定します。 • shutdown : インターフェイスをシャットダウンします。
shutdown	<p>インターフェイスをシャットダウンします。</p>

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #

使用上のガイドライン **interface** コマンドを使用して、インターフェイスを設定し、さまざまな要件をサポートすることができます。

例

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

ipv6 address autoconfig

インターフェイスのステートレス自動設定を使用した IPv6 アドレスの自動設定をイネーブルにし、インターフェイスで IPv6 処理をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **ipv6 address autoconfig** コマンドを使用します。

IPv6 アドレス自動設定は、Linux ではデフォルトでイネーブルです。Cisco ADE 2.0 は、イネーブルになっている任意のインターフェイスの実行コンフィギュレーションで IPv6 アドレス自動設定を示します。

ipv6 address autoconfig

インターフェイスで IPv6 アドレスの自動設定をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #
使用上のガイドライン	IPv6 ステートレス自動設定には、予測可能な IP アドレスを持つというセキュリティ面の落とし穴があります。この落とし穴は、プライバシーの拡張によって解決されます。show interfaceshow interface コマンドを使用すると、プライバシー拡張機能がイネーブルになっていることを確認できます。

例

```
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address autoconfig
ise/admin(config)#
```

IPv6 自動設定の設定

IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# ipv6 address autoconfig
ise/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# end
ise/admin#
```

IPv6 自動設定がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
```

インターフェイス設定を表示するには、**show interface GigabitEthernet 0** **show interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用できます。次の例では、インターフェイスに3個のIPv6アドレスが設定されていることがわかります。最初のアドレス（3ffe で始まるアドレス）は、ステータス自動設定を使用して取得されます。

ステータス自動設定が機能するには、そのサブネットでIPv6 ルートアドバタイズメントがイネーブルになっている必要があります。次のアドレス（fe80 以降）は、ホストの外部にスコープが存在しないリンクローカルアドレスです。

IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なくリンクローカルアドレスが常に表示されます。最後のアドレス（2001 以降）は、IPv6 DHCP サーバから取得されます。

```
ise/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116 Bcast:172.23.90.255 Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB) TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000

ise/admin#
```

プライバシー拡張機能の確認

プライバシーの拡張機能がイネーブルであることを確認するには、**show interface GigabitEthernet 0** **show interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用できます。2つの自動設定アドレスが表示されます。1つのアドレスはプライバシー拡張なしで、もう1つはプライバシー拡張ありです。

次の例では MAC は 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 で、非 RFC3041 アドレスには MAC が含まれています。プライバシー拡張アドレスは 302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 です。

出力は次のように表示されます。

```
ise/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116 Bcast:172.23.90.255 Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 Scope:Global
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
          RX packets:60606 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:2771 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:9430102 (8.9 MiB) TX bytes:466204 (455.2 KiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000

ise/admin#
```


ipv6 address dhcp

IPv6 (DHCPv6) サーバの Dynamic Host Configuration Protocol からインターフェイス上に IPv6 アドレスを取得するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで `ipv6 address dhcp` コマンドを使用します。インターフェイスからアドレスを削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

ipv6 address dhcp

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #
使用上のガイドライン	例

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address dhcp
ise/admin(config-GigabitEthernet)# end
ise/admin#
```

IPv6 DHCP がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 1
  ipv6 address dhcp
  ipv6 enable
!
```



(注) IPv6 ステータス自動設定および IPv6 アドレス DHCP は相互に排他的ではありません。同じインターフェイスに IPv6 ステータス自動設定および IPv6 アドレス DHCP の両方を指定できません。

どの IPv6 アドレスが特定のインターフェイスで使用されているかを表示するには、`show interfaceshow interface` コマンドを使用します。

IPv6 ステータス自動設定および IPv6 アドレス DHCP の両方がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 1
  ipv6 address dhcp
  ipv6 address autoconfig
  ipv6 enable
!
```

ip address

GigabitEthernet インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **ip address ip address** コマンドを使用します。

ip address ip-address network mask

IP アドレスを削除するか、IP プロセッシングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no ip address



(注) 複数のインターフェイスで、同じ IP アドレスを設定できます。この設定により、2つのインターフェイス間の切り替えに必要なコンフィギュレーション手順を制限できます。

構文の説明

<i>ip-address</i>	IPv4 アドレス。
<i>network mask</i>	関連付けられた IP サブネットのマスク。

プライマリ管理ノード (PAN) の自動フェールオーバー設定をイネーブルにしている場合は、IP アドレスを設定する前にディセーブルにしてください。IP アドレスの設定後に PAN の自動フェールオーバー設定をイネーブルに戻すことができます。

コマンド デフォルト

イネーブル。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #

使用上のガイドライン



(注) 「ip address」コマンドの CLI 設定変更中に「Ctrl+C」を発行すると、IP アドレスを変更する場合、一部のアプリケーション コンポーネントは古い IP アドレスを使用し、他のコンポーネントは新しい IP アドレスを使用する状態になる可能性があります。

これにより、Cisco ISE ノードは機能していない状態になります。これを回避するには、別の「ipaddress」コンフィギュレーション CLI を発行して、IP アドレスを目的の値に設定します。

アドレスとネットマスクを必ず1つずつ指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

展開内で PAN の自動フェールオーバー設定がイネーブルになっていると、次のメッセージが表示されます。

```
PAN Auto Failover is enabled, this operation is not allowed! Please disable PAN Auto-failover first.
```

例

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 209.165.200.227 255.255.255.224
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
.....
To verify that ISE processes are running, use the
'show application status ise' command.
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

ipv6 address

IPv6 の一般的なプレフィックスに基づいてスタティック IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスで IPv6 処理をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで `ipv6 address ipv6 address` コマンドを使用します。

ipv6 address *ipv6-address/prefix-length*

IPv6 アドレスを削除するか、IPv6 処理をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no ipv6 address *ipv6-address/prefix-length*

構文の説明

<i>ipv6-address</i>	IPv6 アドレス。
<i>prefix-length</i>	IPv6 プレフィックスの長さ。プレフィックス (アドレスのネットワーク部分) を構成するアドレスの上位連続ビット数を示す 0 ~ 128 の 10 進数値です。10 進値の前にスラッシュ記号を付ける必要があります。

プライマリ管理ノード (PAN) の自動フェールオーバー設定をイネーブルにしている場合は、IPv6 アドレスを設定する前にディセーブルにしてください。IPv6 アドレスの設定後に PAN の自動フェールオーバー設定をイネーブルに戻すことができます。

展開内で PAN の自動フェールオーバー設定がイネーブルになっていると、次のメッセージが表示されます。

```
PAN Auto Failover is enabled, this operation is not allowed! Please disable PAN Auto-failover first.
```

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #

使用上のガイドライン

サポートされている IPv6 アドレス形式は次のとおりです。

- 完全表記 : コロンで区切られた 4 つの 16 進数桁の 8 つのグループ。たとえば、2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334 です。
- 短縮表記 : 1 つのグループ内にある先行ゼロは除きます。ゼロのグループを 2 つの連続するコロンに置き換えます。例 : 2001:db8:85a3::8a2e:370:7334
- ドット区切り表記 (IPv4 マッピングおよび IPv4 互換の IPv6 アドレス) : ::ffff:192.0.2.128 など

fe80 プレフィックスを使用してリンクローカルアドレスを割り当てます。インターフェイスにグローバルアドレスを割り当てると、リンクローカルアドレスが自動的に作成されます。



(注) IPv6 アドレスを変更する場合、`ipv6 address ipv6 address` コマンドでの CLI 設定変更中に `Ctrl+C` を押すと、システムの一部のアプリケーションコンポーネントは古い IPv6 アドレスを使用し、他のコンポーネントは新しい IPv6 アドレスを使用する状態になる可能性があります。

これにより、Cisco ISE ノードは機能していない状態になります。これを回避するには、別の `ipv6 address ipv6 address` コマンドを実行して IPv6 アドレスを目的の値に設定します。

例 1

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address 2001:DB8:0:1::/64
Changing the IPv6 address may result in undesired side effects on any installed
application(s).
Are you sure you want to proceed? Y/N[N]: y
.....
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise' CLI to verify
all processes are in running state.
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

例 2

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address fe80::250:56ff:fe87:4763/64
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

ipv6 enable

インターフェイスで IPv6 をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで `ipv6 enable` コマンドを使用します。

ipv6 enable

インターフェイスで IPv6 をディセーブルにするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

no ipv6 enable

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #

使用上のガイドライン

`ipv6 enable` コマンドは、インターフェイスで IPv6 をイネーブルにし、インターフェイス MAC アドレスに基づいてリンクローカルアドレスを自動生成する場合に使用します。

例 1

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 enable
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

例 2

デフォルトでは、`ipv6` が、すべてのインターフェイスで有効になっています。`ipv6` を無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
ise/admin# show interface gigabitEthernet 1
GigabitEthernet 1
flags=4163UP,BROADCAST,RUNNING,MULTICAST mtu 1500
inet6 fe80::20c:29ff:fe83:a610 prefixlen 64 scopeid 0x20 link
ether 00:0c:29:83:a6:10 txqueuelen 1000 (Ethernet)
RX packets 11766 bytes 1327285 (1.2 MiB)
RX errors 0 dropped 13365 overruns 0 frame 0
TX packets 6 bytes 508 (508.0 B)
TX errors 0 dropped 0 overruns 0 carrier 0 collisions 0
```

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# interface gigabitEthernet 1
ise/admin(config-GigabitEthernet)# no ipv6 enable
ise/admin(config-GigabitEthernet)# exit
ise/admin(config)# end
ise/admin# show interface gigabitEthernet 1
GigabitEthernet 1
flags=4163 UP,BROADCAST,RUNNING,MULTICAST mtu 1500
ether 00:0c:29:83:a6:10 txqueuelen 1000 (Ethernet)
RX packets 64 bytes 5247 (5.1 KiB)
RX errors 0 dropped 13365 overruns 0 frame 0
TX packets 3 bytes 258 (258.0 B)
TX errors 0 dropped 0 overruns 0 carrier 0 collisions 0
```


ip default-gateway

IPアドレスを指定してデフォルトゲートウェイを定義または設定するには、コンフィギュレーション モードで `ip default-gateway ip default-gateway` コマンドを使用します。

ip default-gateway ip-address

この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no ip default-gateway

構文の説明	default-gateway	IPアドレスを指定してデフォルトゲートウェイを定義します。
	<i>ip-address</i>	デフォルトゲートウェイのIPアドレス。

コマンド デフォルト デイセーブル。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン 複数の引数を指定した場合、または引数を指定していない場合はエラーが発生します。

例

```
ise/admin(config)# ip default-gateway 209.165.202.129
ise/admin(config)#
```


ip domain-name

Cisco ISE サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義するには、コンフィギュレーションモードで `ip domain-name ip domain-name` コマンドを使用します。

ip domain-name *domain-name*

この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no ip domain-name

構文の説明	domain-name	デフォルトのドメイン名を定義します。
	<i>domain-name</i>	ホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名。2 ~ 64 文字の英数字で指定します。

コマンド デフォルト イネーブル。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン



(注) 「ip domain-name」コマンドの CLI 設定変更中に「Ctrl+C」を発行すると、IP ドメイン名を変更する場合、一部のアプリケーションコンポーネントは古いドメイン名を持ち、他のコンポーネントは新しいドメイン名を使用する状態になる可能性があります。

これにより、Cisco ISE ノードは機能していない状態になります。これを回避するには、別の「ip domain-name」コンフィギュレーション CLI を発行して、ドメイン名を目的の値に設定します。

入力した引数が多すぎる場合または不足している場合、エラーが発生します。

このコマンドで Cisco ISE サーバのドメイン名を更新する場合は、次の警告メッセージが表示されます。

```
Warning: Updating the domain name will cause any certificate using the old
domain name to become invalid. Therefore, a new self-signed certificate using the new
domain
name will be generated now for use with HTTPS/EAP. If CA-signed certificates were used
on this
node, please import them with the correct domain name. In addition, if this ISE node
will be
joining a new Active Directory domain, please leave your current Active Directory domain
before
proceeding.
```

例

```
ise/admin(config)# ip domain-name cisco.com
ise/admin(config)#
```

ip host

eth1、eth2、eth3 など eth0 以外のイーサネットインターフェイスにホストエイリアスと完全修飾ドメイン名 (FQDN) 文字列を関連付けるには、グローバルコンフィギュレーションモードで **ip host** コマンドを使用します。

Cisco ISE は認証プロファイルのリダイレクト URL を処理するとき、その IP アドレスを Cisco ISE ノードの FQDN に置き換えます。

ip host [*ipv4-address* | *ipv6-address*] [*host-alias* | *FQDN-string*]

ホストエイリアスと FQDN の関連付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no ip host [*ipv4-address* | *ipv6-address*] [*host-alias* | *FQDN-string*]

構文の説明		
	<i>ipv4-address</i>	ネットワークインターフェイスの IPv4 アドレス。
	<i>ipv6-address</i>	ネットワークインターフェイスの IPv6 アドレス。
	<i>host-alias</i>	ホストのエイリアスは、ネットワークインターフェイスに割り当てる名前です。
	<i>FQDN-string</i>	ネットワークインターフェイスの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。

プライマリ管理ノード (PAN) の自動フェールオーバー設定をイネーブルにしている場合は、イーサネットインターフェイスのホストエイリアスおよび FQDN を変更する前にディセーブルにしてください。ホストエイリアスおよび FQDN の設定完了後に PAN の自動フェールオーバー設定をイネーブルに戻すことができます。

展開内で PAN の自動フェールオーバー設定がイネーブルになっていると、次のメッセージが表示されます。

```
PAN Auto Failover is enabled, this operation is not allowed! Please disable PAN Auto-failover first.
```

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン サポートされている IPv6 アドレス形式は次のとおりです。

- 完全表記：コロンで区切られた 4 つの 16 進数桁の 8 つのグループ。たとえば、2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334 です。
- 短縮表記：1 つのグループ内にある先行ゼロは除きます。ゼロのグループを 2 つの連続するコロンに置き換えます。たとえば、2001:db8:85a3::8a2e:370:7334 です。

- ドット区切り表記 (IPv4 マッピングおよび IPv4 互換の IPv6 アドレス) : ::ffff:192.0.2.128 など

ip host コマンドを使用して、IP アドレス マッピング用にホストエイリアスと完全修飾ドメイン名 (FQDN) 文字列を追加します。eth1、eth2、eth3 などのイーサネットインターフェイスに一致する FQDN を検索する場合に使用します。ホストエイリアスの定義を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

ホストエイリアスか FQDN 文字列、またはその両方を指定できます。両方の値を指定する場合は、ホストエイリアスと FQDN 文字列の最初のコンポーネントが一致している必要があります。FQDN 文字列のみを指定すると、Cisco ISE は URL 内の IP アドレスを FQDN に置き換えます。ホストエイリアスのみを指定すると、Cisco ISE はホストエイリアスと設定されている IP ドメイン名を組み合わせて完全な FQDN を形成し、URL 内のネットワークインターフェイスの IP アドレスを FQDN に置き換えます。

例 1

```
ise/admin(config)# ip host 172.21.79.96 isel isel.cisco.com
Host alias was modified. You must restart ISE for change to take effect.
Do you want to restart ISE now? (yes/no) yes
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Profiler DB...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Database processes...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Database processes...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler DB...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
ise/admin(config)#
```

例 2

```
ise/admin(config)# ipv6 host 2001:db8:cc00:1::1 isel isel.cisco.com
Host alias was modified. You must restart ISE for change to take effect.
Do you want to restart ISE now? (yes/no) yes
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Profiler DB...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Database processes...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Database processes...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler DB...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
```

Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
CLI to verify all processes are in running state.
ise/admin(config)#

ip name-server

ドメイン ネーム サーバ (DNS) クエリーの実行時に使用する DNS を設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip name-server** コマンドを使用します。1 ~ 4 台の DNS サーバを設定できます。

ip name-server ip-address {ip-address*}

この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no ip name-server ip-address {ip-address*}



(注) このコマンドの **no** 形式を使用すると、コンフィギュレーションからすべてのネーム サーバが削除されます。このコマンドの **no** 形式と IP 名の 1 つを使用すると、そのネーム サーバだけが削除されます。

構文の説明

name-server	使用するネームサーバの IP アドレスを設定します。
<i>ip-address</i>	ネームサーバのアドレス。
<i>ip-address*</i>	(任意)。追加のネームサーバの IP アドレス。 (注) ネームサーバに 3 つの IPv4 アドレスと 1 つの IPv6 アドレスを設定できます。

展開内でプライマリ管理ノード (PAN) の自動フェールオーバー設定をイネーブルにしている場合は、**ip name-server** コマンドを実行する前にディセーブルにし、DNS サーバを設定した後でイネーブルに戻してください。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン **ip name-server ip name-server** コマンドを使用して追加された最初のネームサーバは最初の位置に配置されます。システムはそのサーバを最初に使用して、IP アドレスを解決します。

IPv4 または IPv6 アドレスを使用してシステムにネームサーバを追加できます。1 つのコマンドで、1 ~ 3 つの IPv4 アドレスを設定できます。システムにすでに 3 台のネームサーバが設定されている場合、少なくとも 1 台を削除するまでネームサーバを追加できません。

1 台のネームサーバを最初の位置に配置して、サブシステムがまずそのサーバを使用するようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用してすべてのネームサーバを削除してから処理を進める必要があります。



- (注) AD接続のこの設定を変更した場合、変更を有効にするためにCisco ISEを再起動する必要があります。また、Cisco ISEで設定されているすべてのDNSサーバがすべての関連するAD DNSレコードを解決できる必要があります。DNS設定が変更された後、設定済みのAD参加ポイントが正しく解決されない場合、脱退処理を手動で実行してから、AD参加ポイントを再参加させる必要があります。

展開内でPANの自動フェールオーバー設定がイネーブルになっていると、次のメッセージが表示されます。

```
PAN Auto Failover is enabled, this operation is not
allowed! Please disable PAN Auto-failover first.
```

例 1

```
ise/admin(config)# ip name-server ?
<A.B.C.D> Primary DNS server IP address
<A.B.C.D> DNS server 2 IP address
<A.B.C.D> DNS server 3 IP address
<X:X:X::X> IPv6 DNS server address
ise/admin(config)# ip name-server
```

例 2

IP ネーム サーバを設定した後に、次の出力が表示されます。

```
ise/admin# show run | in name-server
ip name-server 171.70.168.183 171.68.226.120 64.102.6.247
ip name-server 3201:db8:0:20:f41d:eee:7e66:4eba
ise/admin#
```

例 3

```
ise/admin(config)# ip name-server ?
ip name-server 10.126.107.120 10.126.107.107 10.106.230.244
DNS Server was modified. If you modified this setting for AD connectivity, you must
restart ISE for the change to take effect.
Do you want to restart ISE now? (yes/no)
```

ip route

スタティック ルートを設定するには、コンフィギュレーションモードで `ip route ip route` コマンドを使用します。スタティック ルートを削除するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`ip route prefix mask gateway ip-address`

`no ip route prefix mask`

構文の説明	<i>prefix</i>	宛先の IP ルート プレフィクス。
	<i>mask</i>	宛先のプレフィクス マスク。
	<i>ip-address</i>	ネットワークに到達するために使用可能なネクスト ホップの IP アドレス。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン スタティック ルートは手動で設定されます。これによって、柔軟性が低くなります (ネットワーク ポロジの変更に対応できません) が、安定性は非常に高くなります。スタティック ルートでは、維持するためにルーティングの更新を送信される必要がないため、帯域幅使用率が最適化されます。また、ルーティング ポリシーの実施が容易になります。

`ip route ip route` コマンドは個々の Cisco ISE ノードでのスタティック ルートの定義に使用できるだけでなく、各インターフェイスのデフォルト ルートを定義して、マルチインターフェイス IP ノードに固有の非対称 IP 転送の影響を軽減するために拡張されます。

単一のデフォルト ルートがマルチインターフェイス ノードに設定されている場合、ノードのいずれかの IP インターフェイスから受信したすべての IP トラフィックは、非対称 IP 転送を生成するデフォルト ゲートウェイのネクストホップにルーティングされます。Cisco ISE ノードに複数のデフォルト ルートを設定すると、非対称転送の影響がなくなります。

次の例に、複数のデフォルト ルートを設定する方法を示します。

Cisco ISE ノード `eth0`、`eth1`、`eth2`、および `eth3` インターフェイスの次のインターフェイス設定についてそれぞれ考えてみてください。

```
ISE InterfaceIPNetworkGateway
192.168.114.10 192.168.114.0 192.168.114.1
192.168.115.10 192.168.115.0 192.168.115.1
192.168.116.10 192.168.116.0 192.168.116.1
192.168.117.10 192.168.117.0 192.168.117.1
```

`ip route` コマンドは、ここでは各インターフェイスのデフォルト ルートを定義するために使用されます。


```
ise/admin(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.114.1
ise/admin(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.115.1
ise/admin(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.116.1
ise/admin(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.117.1
ise/admin(config)# ip default-gateway 192.168.118.1
```



(注) 上記の「ip default-gateway」は、すべてのインターフェイスのラストリゾートのルートです。

`show routeshow ip route` コマンドでは、`ip route` コマンドを使用して作成したスタティックルート（デフォルトルートとデフォルト以外のルート）、および「ip default gateway」コマンドの使用により設定されたルートを含むシステム作成のルートの出力が表示されます。これは、各ルートの発信インターフェイスを表示します。



(注) インターフェイスの IP アドレスを変更した場合、到達不能なゲートウェイのためにいずれかのスタティックルートが到達不能になると、そのスタティックルートは実行コンフィギュレーションから削除されます。到達不能になったルートはコンソールに表示されます。

例 2

```
ise/admin(config)# ip route 192.168.0.0 255.255.0.0 gateway 172.23.90.2
ise/admin(config)#
```

ipv6 route

IPv6 スタティック ルートを手動で設定し、2 台のネットワーキング デバイス間の明示的なパスを定義するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **ipv6 route** **ipv6 route** コマンドを使用します。スタティック ルートは自動的に更新されないため、ネットワーク トポロジが変化した場合は手動でスタティック ルートを再設定する必要があります。

ipv6 route ipv6-address/prefix-length gateway route-specific gateway

IPv6 スタティック ルートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no ipv6 route ipv6-address/prefix-length gateway route-specific gateway

IPv6 アドレスを指定してデフォルト スタティック ルートを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **ipv6 route ::0 gateway route-specific gateway** コマンドを使用します。IPv6 アドレスを指定してデフォルト スタティック ルートをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文の説明

<i>ipv6-address</i>	IPv6 アドレス。
<i>prefix-length</i>	IPv6 プレフィックスの長さ。プレフィックス (アドレスのネットワーク部分) を構成するアドレスの上位連続ビット数を示す 0 ~ 128 の 10 進数値です。10 進値の前にスラッシュ記号を付ける必要があります。
<i>route-specific gateway</i>	そのネットワークに到達するために使用できるネクスト ホップの IPv6 アドレス。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

サポートされている IPv6 アドレス形式は次のとおりです。

- 完全表記 : コロンで区切られた 4 つの 16 進数桁の 8 つのグループ。たとえば、2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334 です。
- 短縮表記 : 1 つのグループ内にある先行ゼロは除きます。ゼロのグループを 2 つの連続するコロンに置き換えます。例 : 2001:db8:85a3::8a2e:370:7334
- ドット区切り表記 (IPv4 マッピングおよび IPv4 互換の IPv6 アドレス) : ::ffff:192.0.2.128 など

ipv6 routeshow **ipv6 route** コマンドは、設定済みの IPv6 ルートを表示する場合に使用します。

例 1

```
ise/admin(config)# ipv6 route 2001:DB8:cc00:1::/64 gateway 2001:DB8::cc00:1::1
```

例 2

```
ise/admin(config)# ipv6 route ::/0 gateway 2001:db::5
```

::/0 はデフォルトルートプレフィックスを示します。

kron occurrence

1つ以上のコマンドスケジューラ コマンドが特定の日時または一定間隔で実行されるようにスケジューリングするには、コンフィギュレーションモードで **kron occurrence** コマンドを使用します。このスケジュールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

kron occurrence *occurrence-name*

構文の説明

occurrence	コマンドスケジューラ コマンドをスケジューリングします。
<i>occurrence-name</i>	オカレンスの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。(次の「注」と「構文の説明」を参照)。



(注) **kron occurrence** コマンドで *occurrence-name* を入力すると、**config-Occurrence** コンフィギュレーション サブモードが開始されます (次の「構文の説明」を参照)。

構文の説明

at	指定した日時にオカレンスが実行されるように指定します。使用方法 : at [<i>hh:mm</i>] [<i>day-of-week</i> <i>day-of-month</i> <i>month day-of-month</i>]
do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できます。
end	kron-occurrence コンフィギュレーション サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	kron-occurrence コンフィギュレーション モードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。 3つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • at : 使用方法 : at [<i>hh:mm</i>] [<i>day-of-week</i> <i>day-of-month</i> <i>month day-of-month</i>] • policy-list : オカレンスによって実行されるポリシーリストを指定します。最大 80 文字の英数字をサポートします。 • recurring : ポリシー リストの実行を繰り返します。

policy-list	オカレンスによって実行されるコマンドスケジューラ ポリシー リストを指定します。
recurring	繰り返して実行するオカレンスを指定します。 (注) kron オカレンスが繰り返されない場合、スケジュール バックアップの kron オカレンスの設定が実行後に削除されます。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード コンフィギュレーション (config-Occurance) #

使用上のガイドライン **kron occurrence** **kron occurrence** コマンドおよび **policy-list** **policy-list** コマンドを使用して、1 つ以上のポリシー リストが同じ時間または間隔で実行されるようにスケジューリングします。

EXEC CLI コマンドを含むコマンドスケジューラ ポリシーを作成して、指定した時刻に Cisco ISE サーバで実行されるようにスケジューリングするには、**kron policy-list** **kron policy-list** コマンドとともに **cli cli** コマンドを使用します。



(注) **kron** **kron** コマンドを実行すると、一意の名前 (タイムスタンプの追加により) でバックアップバンドルが作成されるため、ファイルが互いに上書きされることはありません。



(注) GUI の [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [バックアップと復元 (Backup and Restore)] **Administration > System > Backup and Restore** ページを使用して、設定またはモニタリングのバックアップをスケジューリングすることを推奨します。

例 1 : 週次バックアップ

```
ise/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
ise/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
ise/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
ise/admin(config-Occurrence)# recurring
ise/admin(config-Occurrence)# exit
ise/admin(config)#
```

例 2 : 日次バックアップ

```
ise/admin(config)# kron occurrence DailyBackup
ise/admin(config-Occurrence)# at 02:00
ise/admin(config-Occurrence)# exit
ise/admin(config)#
```

例 3 : 週次バックアップ

```
ise/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
ise/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
ise/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
ise/admin(config-Occurrence)# no recurring
ise/admin(config-Occurrence)# exit
ise/admin(config)#
```

kron policy-list

コマンドスケジューラポリシーの名前を指定し、kron-Policy List コンフィギュレーションサブモードを開始するには、コンフィギュレーションモードで **kron policy-list** コマンドを使用します。コマンドスケジューラポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

kron policy-list *list-name*

構文の説明	policy-list	コマンドスケジューラポリシーの名前を指定します。
	<i>list-name</i>	ポリシーリストの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。



(注) **kron policy-list** コマンドで *list-name* を入力すると、config-Policy List コンフィギュレーションサブモードが開始されます (次の「構文の説明」を参照)。

構文の説明	cli	スケジューラによって実行されるコマンド。最大 80 文字の英数字をサポートします。
	do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できます。
	end	config-Policy List コンフィギュレーションサブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
	exit	このサブモードを終了します。
	no	このモードのコマンドを否定します。次の 1 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • cli : スケジューラによって実行されるコマンド。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード コンフィギュレーション (config-Policy List) #

使用上のガイドライン EXEC CLI コマンドを含むコマンドスケジューラポリシーを作成して、指定した時刻に ISE サーバで実行されるようにスケジューリングするには、**kron policy-list** コマンドとともに **cli** コマンドを使用します。kron occurrence **kron occurrence** コマンドおよび policy

listpolicy list コマンドを使用して、1 つ以上のポリシー リストを同じ時間または間隔で実行されるようにスケジュールします。



(注) **kron policy-list** コマンドを使用して、CLI から設定および動作データのバックアップをスケジュールすることはできません。Cisco ISE 管理者ポータルからこれらのバックアップをスケジュールリングできます。

例

```
ise/admin(config)# kron policy-list BackupLogs
ise/admin(config-Policy List)# cli backup-logs ScheduledBackupLogs repository
SchedBackupRepo encryption-key plain xyzabc
ise/admin(config-Policy List)# exit
ise/admin(config)#
```


logging

ログレベルを設定するには、コンフィギュレーションモードで **logging logging** コマンドを使用します。

logging loglevel {0|1|2|3|4|5|6|7}

この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no logging

構文の説明	loglevel	logging コマンドのログレベルを設定するコマンド。
	0 ~ 7	<p>ログメッセージをセットする目的のプライオリティレベル。プライオリティレベルは以下のとおりです（キーワードの番号を入力）。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0-emerg（緊急事態）：システムが使用不可。 • 1-alert（アラート）：ただちに処置が必要。 • 2-crit（クリティカル）：クリティカルな状態。 • 3-err（エラー）：エラー状態。 • 4-warn（警告）：警告状態。 • 5-notif（通知）：正常であるが、重要な状態。 • 6-inform：（デフォルト）情報メッセージ。 • 7-debug：デバッグメッセージ。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン このコマンドには **loglevel** キーワードが必要です。

例

```
ise/admin(config)# logging loglevel 0
ise/admin(config)#
```

max-ssh-sessions

分散展開のノードごとにコマンドラインインターフェイス（CLI）の最大同時セッション数を設定するには、コンフィギュレーション モードで `max-ssh-sessions` コマンドを使用します。

`max-ssh-sessions` {0|1|2|3|4|5|6|7|8|9|10}

構文の説明	1 ~ 10	同時 SSH セッションの数。デフォルトは 5 です。
コマンド デフォルト	許可される最大同時 CLI セッション数のデフォルトは、Cisco ISE 管理者ポータルから 5 に設定されます。	
コマンド モード	コンフィギュレーション (config) #	
使用上のガイドライン	<p><code>max-ssh-sessions</code> パラメータはコマンドラインインターフェイスから設定可能ではありません。アクティブ CLI セッションの最大数は、プライマリ管理 ISE 管理者ポータルから複製されません。</p> <p>CLI セッションの最大数を超えると、このセッションを閉じているコマンドラインインターフェイスに「最大アクティブ SSH セッション数に到達 (Maximum active ssh sessions reached)」メッセージが表示され、下部に「未接続：続行するには Enter または Space を押します (Not connected - press Enter or Space to connect)」というメッセージが表示されます。</p> <p>コンソールから CLI にログインして <code>forceout username</code> コマンドを使用すると、ユーザをログアウトさせてアクティブな SSH セッションの数を削減できます。</p> <p>コマンドラインインターフェイス (CLI) セッションの最大数を設定するためのナビゲーションパスは、Cisco ISE 管理者ポータルの [セッション (Session)] タブの次の場所にあります。 [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [管理者アクセス (Admin Access)] > [設定 (Settings)] > [アクセス (Access)]。</p>	

ntp

NTP 設定を指定するには、コンフィギュレーションモードで、`authenticate`、`authentication-key`、`server`、および `trusted-key` コマンドとともに `ntp` コマンドを使用します。

ntp authenticate

ntp authentication-key <key id> md5hash | plain <key value>

ntp server {ip-address | hostname} key <peer key number>

ntp trusted-key <key>

no ntp server

構文の説明

authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
authentication-key	信頼できる時刻源の認証キーを指定します。
server	使用する NTP サーバを指定します。
trusted-key	信頼できる時刻源のキー番号を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

`ntp` コマンドは NTP 設定を指定する場合に使用します。

デバイス上の NTP サービスを終了するには、`authenticate`、`authentication-key`、`server`、および `trusted-key` などのキーワードや引数を指定して、`no ntp` コマンドを入力する必要があります。たとえば、以前に `ntp server` コマンドを実行した場合は、`server` とともに `no ntp` コマンドを使用します。

例

```
ise/admin(config)# ntp ?
  authenticate      Authenticate time sources
  authentication-key Authentication key for trusted time sources
  server             Specify NTP server to use
  trusted-key        Key numbers for trusted time sources
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# no ntp server
ise/admin(config)# do show ntp
% no NTP servers configured
ise/admin(config)#
```

ntp authenticate

すべての時間源の認証をイネーブルにするには、`ntp authenticate` コマンドを使用します。NTP 認証キーのない時刻源は同期されません。

この機能を無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

ntp authenticate

構文の説明	<code>authenticate</code>	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	コンフィギュレーション (config) #	
使用上のガイドライン	<p><code>ntp authenticate</code> コマンドは、すべての時間源の認証をイネーブルにする場合に使用します。このコマンドは任意であり、このコマンドを指定しなくても認証は機能します。</p> <p>一部のサーバのみが認証を必要とする混在モードで認証する場合、つまり一部のサーバのみ認証用に設定されているキーが必要な場合は、このコマンドを実行してはなりません。</p>	

例

```
ise/admin(config)# ntp authenticate
ise/admin(config)#
```

ntp authentication-key

時間源の認証キーを指定する場合は、コンフィギュレーションモードで一意的識別子およびキー値を指定して `ntp authentication-key` コマンドを使用します。

ntp authentication-key *key id* **md5 hash | plain** *key value*

この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no ntp authentication-key

構文の説明

authentication-key	信頼できる時刻源の認証キーを設定します。
<i>key id</i>	このキーに割り当てる ID。1 から 65535 までの数値がサポートされます。
md5	認証キーの暗号化タイプ。
hash	認証のハッシュされたキー。暗号化タイプに続けて、暗号化された（ハッシュされた）キーを指定します。40 文字までで指定します。
plain	認証用のプレーンテキストのキー。暗号化タイプに続けて、暗号化されていないプレーンテキストキーを指定します。15 文字までで指定します。
<i>key value</i>	上記の md5 plain hash のいずれかに一致する形式のキー値。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション (config) #。

使用上のガイドライン

`ntp authentication-key` **ntp authentication-key** コマンドは、時刻源に NTP 認証の認証キーを設定し、それに関連するキー ID、キー暗号化タイプ、およびキー値設定を指定する場合に使用します。このキーは信頼できるリストに追加してから、`ntp server` **ntp server** コマンドに追加してください。

信頼リストに追加されている NTP 認証キーのない時刻源は同期されません。



(注) `show running-config` **show running-config** コマンドは、セキュリティのために、Message Digest 5 (MD5) プレーン形式で入力されたキーを常にハッシュ形式に変換して表示します。たとえば、`ntp authentication-key 1 md5 hashee18afc7608ac7ecdbeefc5351ad118bc9ce1ef3` です。

例 1

```
ise/admin# configure
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp authentication-key 1 md5 plain SharedWithServe
ise/admin(config)# ntp authentication-key 2 md5 plain SharedWithServ
ise/admin(config)# ntp authentication-key 3 md5 plain SharedWithSer
```

例 2

```
ise/admin(config)# no ntp authentication-key 3
(Removes authentication key 3.)
```

例 3

```
ise/admin(config)# no ntp authentication-key
(Removes all authentication keys.)
```

ntp server

NTPサーバによるシステムのソフトウェアクロックの同期を許可するには、コンフィギュレーションモードで `ntp server ntp server` コマンドを使用します。それぞれ別個の行にキーを指定した最大 3 台のサーバを許可します。キーはオプションパラメータですが、NTP 認証にはキーが必要です。

Cisco ISE は、NTP サーバの公開キー認証もサポートしています。NTPv4 は、対称キー暗号化を使用し、公開キー暗号化に基づく新しい **Autokey** 方式も提供します。公開キー暗号化は、一般に、各サーバによって生成され公開されない非公開の値に基づいているため、対称キー暗号化よりも安全であると考えられます。**Autokey** では、すべてのキー配布および管理機能には公開値のみが含まれているため、キーの配布と保管が大幅に簡素化されます。IFF (identify Friend または Foe) 識別方式は最も広く使用されている方式なので、この方式を使用することを推奨します。

Cisco ISE には、常に有効で到達可能な NTP サーバが必要です。

キーはオプションパラメータですが、NTP サーバを認証する必要がある場合は、キーを設定する必要があります。

この機能を無効にするには、NTP サーバを削除して別のサーバを追加する場合のみ、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ntp server {*ip-address* | *hostname*} {**autokey** | *key* <*peer key number*>}

構文の説明

server	システムによって、指定されたサーバと同期されます。
<i>ip-address</i> <i>hostname</i>	クロックの同期を行うサーバの IPv4 または IPv6 アドレス、またはホスト名。引数は 255 文字までの英数字で指定します。
autokey	NTP サーバに対して公開キー認証を使用する必要があることを指定します。このオプションを選択した場合、 crypto コマンドを使用して、Cisco ISE ノードに NTP サーバの公開キーをインポートする必要があります。

<i>key</i>	<p>(任意)。ピアのキー番号。最大 65535 桁までサポートします。</p> <p>このキーは、<code>ntp authentication-key</code>ntp authentication-key コマンドを使用してキー値で定義する必要があります。また、<code>ntp trusted-key</code>ntp trusted-key コマンドを使用して、信頼できるキーとして追加する必要があります。</p> <p>認証を実行するために、キーとキーの値は実際の NTP サーバに定義されているキーと同じ値にする必要があります。</p>
------------	---

コマンド デフォルト デフォルトで設定されているサーバはありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン この `ntp server`**ntp server** コマンドは、システムを指定したサーバと同期させる場合に、信頼できるキーを指定して使用します。

キーはオプションですが、NTP 認証には必要です。まず、このキーを `ntp authentication-key`**ntp authentication-key** コマンドで定義し、`ntp trusted-key`**ntp trusted-key** コマンドに追加した後、`ntp server`**ntp server** コマンドに追加します。

`show ntp`**show ntp** コマンドは同期の状態を表示します。設定されたいずれの NTP サーバも到達可能ではなく、認証されていない場合 (NTP 認証が設定されている場合)、このコマンドによって最小のストラタムを持つローカルへの同期が表示されます。

NTP サーバが到達可能ではないか、適切に認証されていない場合、このコマンド統計についての到達度はゼロになります。

Cisco ISE 管理者ポータルから NTP サーバ コンフィギュレーションと認証キーを定義するには、『*Cisco Identity Services Engine Administration Guide*』の「System Time and NTP Server Settings」の項を参照してください。コンフィギュレーションモードで Cisco ISE CLI から NTP サーバのみに Autokey を設定できます。NTP サーバに Autokey を設定した後、NTP サーバから生成された公開キーをインポートする必要があります。詳細については、`crypto` コマンドを参照してください。



- (注) NTP サーバに対して公開キー認証を使用する場合は、次の条件が必要です。
- ネットワークで使用可能な NTP サーバが **Autokey** で設定されていることを確認します。NTP サーバは DNS または ホスト名 アドレス 経由で到達可能である必要があります。NTP サーバに対して **Autokey** を設定する方法については、『[NTP Support Web](#)』を参照してください。
 - **ntp-keygen-T** コマンドを使用して、NTP サーバでキー ペアを生成し、NTP サーバの信頼できる公開キーを取得します。**crypto** コマンドを使用して、公開キーを Cisco ISE にインポートします。



- (注) このコマンドは、同期プロセス時に矛盾した情報を表示します。同期プロセスは、完了までに最大 20 分かかることがあります。

例

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# ntp server 209.165.200.225 autokey

ise/admin# show running-config
interface GigabitEthernet 0
 ip address 209.165.200.225 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
 ipv6 enable
!
ip name-server 209.165.200.226
!
ip default-gateway 209.165.200.227
!
ip route 2.2.2.0 255.255.255.0 gateway 127.0.0.1
!
!
clock timezone Asia/Kolkata
!
ntp authentication-key nn md5 hash xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
ntp trusted-key nn
ntp server 209.165.200.228 key nn
ntp server 209.165.200.229
ntp server 209.165.200.225 autokey
!
```

NTP サーバ認証の信頼キーの設定

NTP サーバによるシステムのソフトウェアクロックの同期を許可するには、コンフィギュレーションモードで **ntp server ntp server** コマンドを使用します。

```
ise/admin(config)# ntp server ntp.esl.cisco.com key 1
% WARNING: Key 1 needs to be defined as a ntp trusted-key.
```

```

ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp trusted-key 1
% WARNING: Key 1 needs to be defined as a ntp authentication-key.
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp authentication-key 1 md5 plain SharedWithServe
ise/admin(config)#

ise/admin(config)# ntp server ntp.esl.cisco.com 1
ise/admin(config)# ntp server 171.68.10.80 2
ise/admin(config)# ntp server 171.68.10.150 3
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# do show running-config
Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.21.79.246 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.21.79.1
!
clock timezone UTC
!
ntp authentication-key 1 md5 hash ee18afc7608ac7ecdbefc5351ad118bc9ce1ef3
ntp authentication-key 2 md5 hash f1ef7b05c0d1cd4c18c8b70e8c76f37f33c33b59
ntp authentication-key 3 md5 hash ee18afc7608ac7ec2d7ac6d09226111dce07da37
ntp trusted-key 1
ntp trusted-key 2
ntp trusted-key 3
ntp authenticate
ntp server ntp.esl.cisco.com key 1
ntp server 171.68.10.80 key 2
ntp server 171.68.10.150 key 3
!
--More--

```

同期化のステータスの確認

同期のステータスを確認するには、`show ntpshow ntp` コマンドを使用します。

例 1

```

ise/admin# show ntp
Primary NTP   : ntp.esl.cisco.com
Secondary NTP : 171.68.10.80
Tertiary NTP  : 171.68.10.150
synchronised to local net at stratum 11
  time correct to within 448 ms
  polling server every 64 s
  remote      refid      st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
*127.127.1.0 .LOCL.      10 l  46  64  37   0.000  0.000  0.001
 171.68.10.80 .RMOT.      16 u  46  64   0   0.000  0.000  0.000
 171.68.10.150 .INIT.      16 u  47  64   0   0.000  0.000  0.000
Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
ise/admin#

```

例 2

```
ise/admin# show ntp
Primary NTP   : ntp.esl.cisco.com
Secondary NTP : 171.68.10.150
Tertiary NTP  : 171.68.10.80
synchronised to NTP server (171.68.10.150) at stratum 3
  time correct to within 16 ms
  polling server every 64 s
    remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
127.127.1.0        .LOCL.             10 l 35  64 377   0.000   0.000   0.001
+171.68.10.80     144.254.15.122    2 u  36  64 377   1.474   7.381   2.095
*171.68.10.150    144.254.15.122    2 u  33  64 377   0.922  10.485   2.198
Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
ise/admin#
```

ntp trusted-key

時間源を信頼できるリストに追加するには、一意の識別子を指定して `ntp trusted-key` **ntp trusted-key** コマンドを使用します。

ntp trusted-key *key*

この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no ntp trusted-key

構文の説明	trusted-key	このキーに割り当てる ID。
	<i>key</i>	信頼できる時刻源にキー番号を指定します。これは、NTP 認証キーとして定義する必要があります。最大 65535 桁までサポートします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	コンフィギュレーション (config) #	
使用上のガイドライン	このキーを NTP サーバに追加する前に、このキーを NTP 認証キーとして定義し、信頼リストにこのキーを追加します。信頼リストに追加されたキーは、システムで NTP サーバによって同期できるもののみ使用できます。	

例 1

```
ise/admin# configure
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp trusted-key 1
ise/admin(config)# ntp trusted-key 2
ise/admin(config)# ntp trusted-key 3
ise/admin(config)# no ntp trusted-key 2
(Removes key 2 from the trusted list).
```

例 2

```
ise/admin(config)# no ntp trusted-key
(Removes all keys from the trusted list).
```

rate-limit

送信元IPアドレスからのTCP、UDP、またはICMPパケットの制限を設定するには、コンフィギュレーションモードで**rate-limit**コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

rate-limit 250 ip-address net-mask port

構文の説明	<1-10000>	1秒あたりの平均TCP/UDP/ICMPパケット数。
	ip-address	パケットレート制限を適用する送信元IPアドレス。
	net-mask	パケットレート制限を適用する送信元IPマスク。
	port	パケットレート制限を適用する宛先ポート番号。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise49/admin(config)# rate-limit 4000 ip 20.20.20.20 port 443
% Notice : Actual rate limit rounded up by iptables to 5000 per second
ise49/admin(config)# do show running-config | incl rate
rate-limit 5000 ip 20.20.20.20 port 443
ise49/admin(config)#
ise49/admin(config)# rate-limit 6000 ip 10.10.10.10 port 443
% Notice : Actual rate limit rounded up by iptables to 10000 per second
ise49/admin(config)# do show running-config | incl rate
rate-limit 10000 ip 10.10.10.10 port 443
rate-limit 5000 ip 20.20.20.20 port 443
ise49/admin(config)#
```

password-policy

システムに対するパスワードをイネーブル化または設定するには、コンフィギュレーションモードで `password-policy password-policy` コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

password-policy オプション



(注) `password-policy password-policy` コマンドには、ポリシー オプションが必要です（「構文の説明」を参照）。`password-policy password-expiration-enabled` コマンドは、他の `password-expiration` コマンドの前に入力する必要があります。



(注) `password-policy password-policy` コマンドを入力すると、`config-password-policy` コンフィギュレーション サブモードを開始できます。

構文の説明

<i>digit-required</i>	ユーザパスワードに数字を含むことを必須にします。
<i>disable-cisco-password</i>	パスワードに、「Cisco」や「Cisco」を含む語を使用できないようにします。
<i>disable-repeat-chars</i>	同じ文字が5つ以上含まれているパスワードをディセーブルにします。
<i>do</i>	EXEC コマンド。
終了	コンフィギュレーションモードを終了します。
<i>exit</i>	このサブモードを終了します。
<i>lower-case-required</i>	ユーザパスワードに小文字が含まれている必要があります。
<i>min-password-length</i>	有効なパスワードの最小文字数。40文字までで指定します。
<i>No</i>	コマンドを無効にするか、またはデフォルト値を設定します。
<i>no-previous-password</i>	前回のパスワードの一部を再使用できないようにします。

<i>no-username</i>	パスワードにユーザ名を含めることを禁止します。
<i>password-delta</i>	文字数が古いパスワードと異なるようにします。
<i>password-expiration-days</i>	パスワードの有効日数。3650 までの整数をサポートします。
<i>password-expiration-enabled</i>	パスワードの有効期限をイネーブルにします。 (注) <code>password-expiration-enabled</code> <code>password-expiration</code> コマンドは、他の <code>password-expiration</code> コマンドを入力する必要があります。
<i>password-expiration-warning</i>	パスワードの期限が迫っていることを通知する警告を開始するまでの日数。3650 までの整数をサポートします。
<i>password-lock-enabled</i>	指定した回数の試行が失敗したら、パスワードをロックします。
<i>password-lock-retry-count</i>	試行回数を指定します。この回数の試行が失敗するとユーザパスワードがロックされます。20 までの整数をサポートします。
<i>password-time-lockout</i>	アカウント ロックアウトをクリアするまでの時間を設定します (分単位)。5 分から 1440 分までの時間値をサポートします。
<i>special-required</i>	ユーザパスワードに特殊文字が含まれている必要があります。
<i>upper-case-required</i>	ユーザパスワードに大文字が含まれている必要があります。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config-password-policy) #

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise/admin(config)# password-policy
ise/admin(config-password-policy)# password-expiration-days 30
ise/admin(config-password-policy)# exit
ise/admin(config)#
```




(注) server はサーバ名です。path は /subdir/subsubdir を指します。NFS ネットワーク サーバのサーバ名の後には、コロン (:) が必要です。

表 8:表 4-5 URL キーワード (続き)

キーワード	コピー元またはコピー先
URL	サーバおよびパス情報を含む、リポジトリの URL を入力します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
cdrom:	ローカルの CD-ROM ドライブ (読み取り専用)。
disk:	ローカルストレージ。 ローカルリポジトリ内のすべてのファイルを表示するには、 show repository repository_name を実行します。 (注) すべてのローカルリポジトリは、/localdisk パーティションに作成されます。リポジトリの URL で disk:// を指定すると、システムは、/localdisk に対する相対パスでディレクトリを作成します。たとえば、 disk://backup と入力すると、ディレクトリは /localdisk/backup に作成されます。
ftp:	FTP ネットワークサーバのコピー元またはコピー先の URL。ftp://server/path という URL を使用します
http:	HTTP ネットワークサーバのコピー元またはコピー先の URL (読み取り専用)。
https:	HTTPS ネットワークサーバのコピー元またはコピー先の URL (読み取り専用)。
nfs:	NFS ネットワークサーバのコピー元またはコピー先の URL。nfs://server:/path という URL を使用します

キーワード	コピー元またはコピー先
sftp:	SFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。sftp://server/path という URL を使用します
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。tftp://server/path という URL を使用します (注) Cisco ISE アップグレードの実行に、TFTP リポジトリは使用できません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config-Repository) #

使用上のガイドライン サブモードで **url sftp:** を設定する場合は、RSA フィンガープリント (AKA host-key) をターゲット SFTP ホストから ISE にロードする必要があります。これは、CLI で **crypto host_key addcrypto host_key add** コマンドを使用して実行できます。詳細については、[crypto](#) コマンドを参照してください。

この機能を無効にするには、サブモードで **host-key hosthost-key host** コマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco ISE 管理者ポータル の [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [メンテナンス (Maintenance)] > [リポジトリ (Repository)] > [リポジトリの追加 (Add Repository)] でセキュアな FTP リポジトリを設定すると Cisco ISE は常に次の警告を表示します。

このリポジトリを使用できるようにするには、SFTP サーバのホスト キーをホスト キー オプションを使用して CLI を介して追加する必要があります。

ホスト キーを設定せずに、セキュアな FTP リポジトリにバックアップしようとする、対応するエラーが Cisco ADE のログにスローされます。

service

管理するサービスを指定するには、コンフィギュレーションモードで **service** コマンドを使用します。

service sshd

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no service

構文の説明

sshd	Secure Shell Daemon。SSH のデーモンプログラムです。
enable	sshd サービスをイネーブルにします。
key-exchange-algorithm	sshd サービスで許可するキー交換アルゴリズムを指定します。
diffie-hellman-group14-sha1	キー交換アルゴリズムを diffie-hellman-group14-sha1 に制限します
LogLevel	sshd からセキュアシステムログに対するメッセージのログレベルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 : 抑止 • 2 : 致命的 • 3 : エラー • 4 : 情報 (デフォルト) • 5 : 冗長 • 6 : デバッグ • 7 : デバッグ 1 • 8 : デバッグ 2 • 9 : デバッグ 3

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン なし。

例

```
ise/admin(config)# service sshd
ise/admin(config)# service sshd enable
ise/admin(config)# service sshd key-exchange-algorithm diffie-hellman-group14-sha1
ise/admin(config)# service sshd loglevel 4
ise/admin(config)#
```

shutdown

インターフェイスをシャットダウンするには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **shutdownshutdown** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #

使用上のガイドライン

このコマンドを使用してインターフェイスをシャットダウンすると、そのインターフェイスを経由した Cisco ISE アプライアンスへの接続性が失われます。これは、アプライアンスの電源が投入されていても変わりません。

ただし、アプライアンス上に別の IP を使用して 2 番目のインターフェイスを設定し、そのインターフェイスがシャットダウンされていなければ、その 2 番目のインターフェイス経由でアプライアンスに接続できます。

インターフェイスをシャットダウンする別の方法として、ONBOOT パラメータを使用して、`/etc/sysconfig/network-scripts` にある `ifcfg-eth[0,1]` ファイルを変更することもできます。

- インターフェイスをディセーブルにするには、ONBOOT="no" と設定します。
- インターフェイスをイネーブルにするには、ONBOOT="yes" と設定します。

no shutdownno shutdown コマンドを使用して、インターフェイスをイネーブルにすることもできます。

例

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)# shutdown
```

snmp-server enable

Cisco ISE で SNMP サーバを有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **snmp-server enable** コマンドを使用します。

snmp-server enable

SNMP サーバを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

コマンド デフォルト SNMP サーバはイネーブルに設定されています。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

例

```
ise/admin(config)# snmp-server enable
ise/admin(config)#
```

snmp-server user

新しいSNMPユーザを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **snmp-server user** コマンドを使用します。

snmp-server user *username***v3** {**hash** | **plain**} *auth-password* *priv-password*



(注) このコマンドは、SNMPバージョン3のみに対して使用する必要があります。

指定したSNMPユーザを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文の説明

user	新しいユーザを設定します。
ユーザ名	SNMP エージェントに属するホスト上のユーザの名前。
v3	トラップの送信に使用する SNMP のバージョン。 priv および auth キーワードを有効にするには SNMP バージョン3 セキュリティ モデルを使用する必要があることを指定します。
{hash plain}	パスワードは、暗号化形式またはプレーン形式です。暗号化されたパスワードは、16 進数の形式である必要があります。

auth-password

認証ユーザパスワードを指定します。パスワードの最小長は 1 文字ですが、セキュリティを確保するために 8 文字以上にすることをお勧めします。

- (注) パスワードを忘れた場合は、回復できないため、ユーザを再設定する必要があります。プレーンテキストのパスワードまたはローカライズされたダイジェストを指定できます。ローカライズされたダイジェストは、ユーザに対して選択した認証アルゴリズム (MD5 または SHA にすることができます) に一致する必要があります。ユーザ設定がコンソールに表示される場合、またはファイル (スタートアップ コンフィギュレーションファイルなど) に書き込まれる場合、ローカライズされた認証ダイジェストとプライバシーダイジェストが常にプレーンテキストのパスワードの代わりに表示されません。

priv-password

暗号ユーザパスワードを指定します。パスワードの最小長は1文字ですが、セキュリティを確保するために8文字以上にすることをお勧めします。

(注) パスワードを忘れた場合は、回復できないため、ユーザを再設定する必要があります。プレーンテキストのパスワードまたはローカライズされたダイジェストを指定できます。ローカライズされたダイジェストは、ユーザに対して選択した認証アルゴリズム (MD5 または SHA にすることができます) に一致する必要があります。ユーザ設定がコンソールに表示される場合、またはファイル (スタートアップ コンフィギュレーションファイルなど) に書き込まれる場合、ローカライズされた認証ダイジェストとプライバシーダイジェストが常にプレーンテキストのパスワードの代わりに表示されません。

コマンド デフォルト デイセーブル。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン ユーザを設定した後、SNMP バージョン3のホストを設定する必要があります。トラップは設定されたユーザだけに送信されるため、ターゲット IP アドレスとともにこのホストを設定するには、ユーザ名を設定する必要があります。

例

```
ise/admin(config)# snmp-server user testuser v3 hash authpassword privpassword
ise/admin(config)#
```

snmp-server host

SNMP トラップを受信者に送信するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server host** コマンドを使用します。デフォルトでは、SNMP トラップはイネーブルになっています。デフォルトでは、UDP ポートは 162 です。

snmp-server host {*ip-address* | *hostname*} **trapversion** {{1 | 2c} *community* | 3 *username engine_ID* {*hash* | *plain*} *auth-password priv-password*}

トラップ転送を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



(注) SNMP バージョン 3 のホストが Cisco ISE で設定されている場合、トラップは設定されたユーザだけに送信されるため、ユーザをそのホストに関連付ける必要があります。 **snmp-server host** コマンドを追加した後、トラップを受信するには、Cisco ISE で設定されているクレデンシアルと同じクレデンシアルを使って、NMS でユーザクレデンシアルを設定する必要があります。

構文の説明

host	SNMP 通知を受信するホストを設定します。
<i>ip-address</i>	SNMP 通知ホストの IP アドレス。最大 32 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	SNMP 通知ホストの名前。最大 32 文字の英数字をサポートします。
trap	トラップのみを受信するように NMS を制限します。
version {1 2c 3}	<p>(任意)。トラップの送信に使用する SNMP のバージョン。デフォルトは 1 です。</p> <p>version キーワードを使用する場合は、次のキーワードのいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 : SNMPv1。 • 2c : SNMPv2C。 • 3 : SNMP v3。
<i>community</i>	Cisco ISE と NMS との間での共有秘密キーを指定します。長さが最大 32 文字の大文字と小文字が区別された値。スペースは使用できません。デフォルトコミュニティストリングは「public」です。Cisco ISE はこのキーを使用して、着信 SNMP 要求が有効であるかどうかを判断します。

ユーザ名	(オプション。SNMP バージョン 3 を選択した場合にのみ必要) Cisco ISE で SNMP バージョン 3 のホストが設定されている場合、ユーザとホストを関連付けます。
<i>engine_ID</i>	(オプション。SNMP バージョン 3 を選択した場合にのみ必要) リモートエンジンの ID。
<i>auth-password</i>	(オプション。SNMP バージョン 3 を選択した場合にのみ必要) 認証ユーザパスワードを指定します。
<i>priv-password</i>	(オプション。SNMP バージョン 3 を選択した場合にのみ必要) 暗号ユーザパスワードを指定します。

コマンド デフォルト

イネーブル。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

SNMP がすでに設定されている場合、Cisco ISE ではアプライアンスの起動 (リロード) 時に「coldStart(0)」トラップを送信します。Cisco ISE では、最初に起動するときは「coldStart(0)」トラップを送信する Net-SNMP クライアントを使用し、停止するときは企業固有のトラップ「nsNotifyShutdown」を使用します。

snmp-server hostsnmp-server host コマンドを使用して SNMP を再設定した後は、通常の場合、標準の「coldStart(0)」トラップでも「warmStart(1)」トラップでもなく、企業固有のトラップ「nsNotifyShutdown」を生成します。

例

```
ise/admin(config)# snmp-server community new ro
ise/admin(config)# snmp-server host 209.165.202.129 version 1 password
ise/admin(config)#

ise/admin(config)# snmp-server host isel version 2c public
ise/admin(config)# snmp-server community public ro
2012-09-24T18:37:59.263276+00:00 isel snmptrapd[29534]: isel.cisco.com [UDP:
[192.168.118.108]:44474]: Trap ,
DISMAN-EVENT-MIB::sysUpTimeInstance = Timeticks: (29) 0:00:00.29, SNMPv2-MIB::snmpTrapOID.0
= OID: SNMPv2-MIB::coldStart,
SNMPv2-MIB::snmpTrapEnterprise.0 = OID: NET-SNMP-MIB::netSnmAgentOIDs.10
ise/admin(config)# snmp-server contact admin@cisco.com
2012-09-24T18:43:32.094128+00:00 isel snmptrapd[29534]: isel.cisco.com [UDP:
[192.168.118.108]:53816]: Trap ,
DISMAN-EVENT-MIB::sysUpTimeInstance = Timeticks: (33311) 0:05:33.11,
SNMPv2-MIB::snmpTrapOID.0 = OID: NET-SNMP-AGENT-MIB::nsNotifyRestart,
SNMPv2-MIB::snmpTrapEnterprise.0 = OID: NET-SNMP-MIB::netSnmNotificationPrefix

ise/admin(config)# snmp-server host a.b.c.d version 3 testuser 0x12439343 hash authpassword
```

```
privpassword
ise/admin(config)#
```

snmp-server community

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) へのアクセスを許可するコミュニティアクセスストリングを設定するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server community snmp-server community** コマンドを使用します。

snmp-server community community-stringro

この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

no snmp-server

構文の説明	community	SNMP コミュニティストリングを設定します。
	<i>community-string</i>	パスワードのように機能するアクセス文字列。これによって SNMP へのアクセスが許可されます。空白は使用できません。最大 255 文字の英数字をサポートします。
	ro	読み取り専用アクセスを指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン snmp-server community **snmp-server community** コマンドでは、コミュニティストリングと引数 **ro** を指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

Cisco ISE の SNMP エージェントは、読み取り専用の SNMP v1 アクセスと SNMP v2c アクセスを次の MIB に提供します。

- SNMPv2-MIB
- RFC1213-MIB
- IF-MIB
- IP-MIB
- IP-FORWARD-MIB
- TCP-MIB
- UDP-MIB
- HOST-RESOURCES-MIB
- ENTITY-MIB : 次の 3 つの MIB 変数のみが ENTITY-MIB でサポートされます。
 - 製品 ID : entPhysicalModelName
 - バージョン ID : entPhysicalHardwareRev
 - シリアル番号 : entPhysicalSerialNumber
- DISMAN-EVENT-MIB
- NOTIFICATION-LOG-MIB
- CISCO-CDP-MIB

例

```
ise/admin(config)# snmp-server community new ro
ise/admin(config)#
```

snmp-server contact

SNMP 接続の管理情報ベース (MIB) 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーションモードで `snmp-server contact` **snmp-server contact** コマンドを使用します。システム連絡先情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server contact *contact-name*

構文の説明	連絡先	この管理対象ノードの担当者を指定します。 最大 255 文字の英数字をサポートします。
	<i>contact-name</i>	ノードのシステム連絡先情報を表す文字列。 最大 255 文字の英数字をサポートします。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	コンフィギュレーション (config) #	
使用上のガイドライン	なし。	

例

```
ise/admin(config)# snmp-server contact Luke
ise/admin(config)#
```

snmp-server location

SNMP ロケーションの MIB 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーション モードで `snmp-server location` **snmp-server location** コマンドを使用します。システム ロケーション情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server location 場所

構文の説明	location	この管理対象ノードの物理的な場所を設定します。最大 255 文字の英数字をサポートします。
	場所	システムの物理ロケーション情報を表す文字列。最大255文字の英数字をサポートします。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	コンフィギュレーション (config) #	
使用上のガイドライン	<i>word</i> 文字列では、単語の間にアンダスコア (_) またはハイフン (-) を使用することをお勧めします。 <i>word</i> 文字列で単語の間に空白を使用する場合、文字列を二重引用符 (") で囲む必要があります。	

例 1

```
ise/admin(config)# snmp-server location Building_3/Room_214
ise/admin(config)#
```

例 2

```
ise/admin(config)# snmp-server location "Building 3/Room 214"
ise/admin(config)#
```


snmp-server trap dskThresholdLimit

Cisco ISE パーティションのいずれかがディスク使用率のしきい値の限界に達した際に、SNMP サーバがトラップを受信するよう設定するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server trap dskThresholdLimit** コマンドを使用します。

snmp-server trap dskThresholdLimit *value*

ディスク使用率がしきい値に達した際にトラップの送信を停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文の説明

value 使用可能なディスクスペースの比率を表す値。値の範囲は 1 ~ 100 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

Cisco ISE のすべてのパーティションに共通する設定です。しきい値の限界を 40 に設定すると、パーティションのディスク領域が 60% を使用され、残り 40% になった時点でトラップを受信します。つまり、空き領域が設定された値に達したときにトラップが送信されます。

Cisco ISE CLI からこのコマンドを設定すると、kron ジョブが 5 分ごとに実行され、Cisco ISE のパーティションを 1 つずつ監視します。いずれかのパーティションがしきい値の上限に達すると、Cisco ISE は設定されている SNMP サーバにトラップを送信します。ディスクのパスおよびしきい値の上限値も送信します。複数のパーティションがしきい値の上限に達すると、複数のトラップが送信されます。MIB ブラウザのトラップ レシーバを使用して SNMP トラップを表示できます。

例

```
ise/admin(config)# snmp-server trap dskThresholdLimit 40
ise/admin(config)#
```

snmp engineid

既存のエンジン ID を新しい値に変更するには、コンフィギュレーションモードで **snmp engineid command** を使用します。このコマンドは、既存のすべてのユーザを再作成する必要があるという警告を表示します。

snmp engineid *engine_ID_string*

設定したエンジン ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文の説明	engineid	既存のエンジン ID を指定した新しい値に変更します。
	<i>engine_ID_string</i>	エンジン ID を識別する最大 24 文字の文字列。
コマンド デフォルト	コマンドのデフォルト値はありません。	
コマンド モード	コンフィギュレーション (config) #	

例

```
ise/admin(config)# snmp engineid Abcdef129084B
% Warning: As a result of engineID change, all SNMP users will need
           to be recreated.
ise/admin(config)#
```

username

SSH を使用して Cisco ISE アプライアンスにアクセスできるユーザを追加するには、コンフィギュレーションモードで **usernameusername** コマンドを使用します。ユーザがすでに存在する場合は、このコマンドを使用してパスワード、特権レベル、または両方を変更します。システムからユーザを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

username usernamepassword hash | plain {password} role admin | user email {email-address}

既存のユーザに対しては、次のコマンド オプションを使用します。

username usernamepassword role admin | user {password}

構文の説明

<i>username</i>	引数 username には 1 つの単語のみを指定できます。空白や二重引用符 (") は使用できません。最大 31 文字の英数字をサポートします。
password	パスワードを指定します。
<i>password</i>	パスワード。40 文字までの英数字で指定します。パスワードは、すべての新規ユーザに指定する必要があります。
hash plain	パスワードのタイプ。最大 34 文字の英数字をサポートします。
role admin user	ユーザのユーザ ロールと特権レベルを設定します。
disabled	ユーザの電子メール アドレスに従って、ユーザをディセーブルにします。
email	ユーザの電子メール アドレスを設定します。
<i>email-address</i>	ユーザの電子メール アドレスを指定します。たとえば、 <code>user1@mydomain.com</code> のように指定します。

コマンド デフォルト 設定時の初期ユーザです。

コマンド モード コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン **username** コマンドでは、**username** および **password** キーワードの後に、**hash | plain** および **admin | user** オプションを指定する必要があります。

例 1

```
ise/admin(config)# username admin password hash ##### role admin
ise/admin(config)#
```

例 2

```
ise/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin
ise/admin(config)#
```

例 3

```
ise/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin email
admin123@mydomain.com
ise/admin(config)#
```